

科目名	社会福祉概論 A		科目コード	W31021	単位数	2単位	対象	1年	開講	前期	
			科目ナンバリング	W-PWFF1-01.H	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉・松本 郁代・高橋 和幸				授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の歴史・法制度・実践を柱としつつ、社会福祉を学ぶ上で最低限必要と考えられる事項を提示し、今後の勉学や将来の仕事の基礎作りを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>										
到達目標	時代とともに変化してきている社会福祉だからこそ、その基礎はしっかりおさえられなければなるまい。本講では、奇をてらうことなく、必要不可欠な知識の確実な定着をはかる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容					備 考		
第1回	社会福祉と法①			法令理解の基礎					担当：大野		
第2回	社会福祉と法②			わが国社会福祉法制の歴史					担当：大野		
第3回	社会福祉と法③			日本国憲法、社会福祉法およびその他の関連法律					担当：大野		
第4回	「社会福祉法」前史①			「社会事業」の成立～「社会事業法」の制定					担当：大野		
第5回	「社会福祉法」前史②			戦後社会福祉法制の発足～「社会福祉事業法」の制定					担当：大野		
第6回	日本における社会福祉の歴史①			前近代における慈善事業・救済事業					担当：松本		
第7回	日本における社会福祉の歴史②			近代における慈善事業・救済事業					担当：松本		
第8回	日本における社会福祉の歴史③			近代における慈善事業及び慈善事業組織化と救済事業					担当：松本		
第9回	「社会福祉法」①			社会福祉法の目的と福祉サービスの基本的理念					担当：大野		
第10回	「社会福祉法」②			「社会福祉事業」の定義					担当：大野		
第11回	「社会福祉法」③			福祉事務所と所掌事務					担当：大野		
第12回	「社会福祉法」④			「社会福祉法人」制度の誕生					担当：大野		
第13回	小括			第1回～第12回までのまとめと振り返り					担当：松本・大野		
第14回	保健医療福祉活動			自分の分野のことだけでなく保健・医療・福祉専門職がチームを組んで、問題を解決するためにサービスを組み合わせるという手法が重視される。具体例も合わせて解説する。					担当：高橋		
第15回	患者と家族を支える社会福祉制度と諸サービス			患者と家族を支える社会福祉制度とサービスに繋ぐ「ソーシャルワーカー」の役割について解説する。					担当：高橋		
評価方法及び評価基準	試験（松本・大野）およびレポート（高橋）。										
課題等	特になし										
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと。										
教材教科書参考書	『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）、『社会福祉用語辞典』（中央法規出版）										
留意点	受講生には、地味なことでも着実に続けていく努力と忍耐を求めたい。										

科目名	社会福祉概論B		科目コード	W31022	単位数	2単位	対象	1年	開講	後期	
			科目ナンバリング	W-PWFF1-02.H	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉・松本 郁代・高橋 和幸				授業形態	講義	オムニバス	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉の歴史・法制度・実践を柱としつつ、社会福祉を学ぶ上で最低限必要と考えられる事項を提示し、今後の勉学や将来の仕事の基礎作りを目指す。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>										
到達目標	時代とともに変化してきている社会福祉だからこそ、その基礎はしっかりおさえられなければなるまい。本講では、奇をてらうことなく、必要不可欠な知識の確実な定着をはかる。										
授 業 計 画											
回	主 題			授 業 内 容					備 考		
第1回	日本における社会福祉の歴史④			感化救済事業および慈善事業					担当：松本		
第2回	日本における社会福祉の歴史⑤			現代における社会事業①					担当：松本		
第3回	日本における社会福祉の歴史⑥			現代における社会事業②					担当：松本		
第4回	日本における社会福祉の歴史⑦			現代における社会事業③					担当：松本		
第5回	社会福祉法⑤			「社会福祉法人」の設立と組織					担当：大野		
第6回	社会福祉法⑥			「社会福祉法人」の運営					担当：大野		
第7回	社会福祉法⑦			社会福祉事業					担当：大野		
第8回	社会福祉法⑧			福祉サービスの適切な利用					担当：大野		
第9回	社会福祉法⑨			日常生活自立支援事業と成年後見制度					担当：大野		
第10回	社会福祉法⑩			地域福祉の推進①～地域福祉計画と共同募金					担当：大野		
第11回	社会福祉法⑪			地域福祉の推進②～社会福祉協議会					担当：大野		
第12回	社会福祉をめぐる法的問題			ボランティアの法的責任					担当：大野		
第13回	小括			第1回～第12回のまとめと振り返り					担当：松本・大野		
第14回	社会福祉の領域の広がり①			CiNiiやメデイカルオンラインによる情報検索で研究の広がり に気づく					担当：高橋		
第15回	社会福祉の領域の広がり②			各省庁の発行する白書に登場する社会福祉と密接な関係にある 施策から感じ取る					担当：高橋		
評価方法及び評価基準	試験（松本・大野）およびレポート（高橋）										
課題等	特になし										
事前事後学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと。										
教材教科書参考書	『社会福祉小六法』（ミネルヴァ書房）、『社会福祉用語辞典』（中央法規出版）										
留意点	受講生には、地味なことでも着実に続けていく努力と忍耐を求めたい。										

科目名	社会福祉原論 A		科目コード	W31003	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-04.H	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	松本 郁代			授業 形態	講義	単独	
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>社会福祉と社会福祉学の違いを確認し、社会福祉政策を学ぶ。また、生活問題を抱えることが自己責任として捉えられてきたことについて、科学的に認識することによって、そもそも社会福祉という営みが、どのように人々に受け入れられていったのかについて講義する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>社会福祉学を学問として身につけること。</p>									
到達 目標	社会福祉政策及び社会福祉の制度を理解する。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉とは何か			社会福祉と「福祉」との違い、社会福祉の定義						
第2回	社会福祉の存在意義とは			社会福祉の存在理由を問う						
第3回	社会福祉政策と社会問題①			社会福祉政策の対象とは						
第4回	社会福祉政策と社会問題②			社会福祉の対象としての生活問題						
第5回	社会福祉政策の現代的課題			社会的排除と社会的包摂						
第6回	社会福祉の歴史を学ぶにあたって			社会福祉の歴史を学ぶ必要はないか？						
第7回	欧米の社会福祉の歴史①			欧米の前近代社会における社会福祉の歴史						
第8回	欧米の社会福祉の歴史②			欧米の近代社会における社会福祉の歴史①						
第9回	欧米の社会福祉の歴史③			欧米の近代社会における社会福祉の歴史②						
第10回	欧米の社会福祉の歴史④			欧米の現代社会における社会福祉の歴史①						
第11回	欧米の社会福祉の歴史⑤			欧米の現代社会における社会福祉の歴史②						
第12回	社会福祉政策の論点と構成要素①			社会福祉政策						
第13回	社会福祉政策の論点と構成要素②			社会福祉における普遍主義・選別主義						
第14回	社会福祉政策の論点と構成要素③			自己決定とパターンリズム、スティグマ・エンパワーメント						
第15回	社会福祉政策の論点と構成要素④			社会福祉政策の国際比較、福祉国家論						
評価 方法 及び 評価 基準	試験（客観式・短答式）のみで評価									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後 学修	学術雑誌の論文の閲覧について、その都度、指示をする。									
教材 教科書 参考書	井村圭壮・藤原正範編(2007)『日本社会福祉史』勁草書房, ISBN:978-4-326-60197-4 岩崎晋也(2018)『福祉原理 社会はなぜ他者を援助する仕組みを作ってきたのか The principles of Welfare:Why Has Society Been Creating a System of Helping Strangers?』有斐閣, ISBN:978-4-641-17442-9 室田保夫(2018)『社会福祉 新・基礎からの社会福祉』ミネルヴァ書房, ISBN:978-4-623-08295-7 ミネルヴァ書房編集委員会編集部(2020)『社会福祉小六法2020』ミネルヴァ書房, ISBN:未定									
留意点	遅刻・私語厳禁、ただし公共交通機関遅延の場合は、遅延証明書を持参のこと。									

科目名	社会福祉原論B		科目コード	W31004	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-05. H	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	講義	単独
	社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	[授業の主旨] 社会福祉理論の生成過程の一端を社会事業理論から確認し、現在の社会福祉理論について整理する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] 前期と同様									
到達 目標	戦前の社会事業理論が、どのように現在の社会福祉政策や理論につながってくるのか、その歴史的系譜を理解すること。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉政策と関連政策			社会福祉政策と教育・労働・住宅・医療の各政策						
第2回	相談援助活動と社会福祉政策			相談援助活動と社会福祉政策の関係を探る						
第3回	社会福祉政策・理論研究と 社会福祉原論研究			社会福祉の独自性？						
第4回	社会福祉実践の歴史的系譜			日本における社会福祉援助の源流、医療と社会福祉の分かれ目						
第5回	社会事業理論を学ぶにあたって			社会事業理論と社会福祉理論の連続性						
第6回	社会事業理論としてのケースワーク論			岡本民夫（1973）『ケースワーク研究』ミネルヴァ書房						
第7回	戦前の社会事業理論①			三好豊太郎						
第8回	戦前の社会事業理論②			小澤 一						
第9回	戦前の社会事業理論③			福山政一						
第10回	戦前の社会事業理論④			竹内愛二						
第11回	戦前の社会事業理論⑤			大河内一男・風早八十二						
第12回	戦後の社会福祉理論①			孝橋正一・岡村重夫						
第13回	戦後の社会福祉理論②			新政策論						
第14回	戦後の社会福祉理論③			運動論の源流						
第15回	社会福祉理論の展望			これからの社会福祉理論						
評価 方法 及び 評価 基準	社会福祉原論Aと同様									
課題等	社会福祉原論Aと同様									
事前 事後 学修	社会福祉原論Aと同様									
教材 教科書 参考書	社会福祉原論Aと同様									
留意点	社会福祉原論Aと同様									

科目名	介護概論		科目 コード	W31007	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	前期
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	川村 泰子・小野 綾				授業 形態	講義	オムニバス
	社会福祉士指定科目	必修								
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>少子高齢化、核家族化の進行、高齢者世帯の増加、女性の就労の増大などを背景として介護を取り巻く状況は変化し、生活する上で避けられない課題である。住み慣れた地域で介護の歴史や介護の概念・理念について学ぶ。また、生活の場における介護の特性を理解し、介護に必要とされる基本的な知識を学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢者を取り巻く社会の状況を理解できる。 2. 介護の歴史や課題について理解できる。 3. 高齢者の特性を理解し、介護過程に活かすことができる。 4. 高齢者を支援するための地域における連携について考えることができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)				備 考		
第1回	高齢者保健福祉の発展 (1)			介護の概念・介護の目的を理解する 法的な概念・歴史について				川村		
第2回	高齢者保健福祉の発展 (2)			超高齢社会における介護について家族や就労、経済的な課題				川村		
第3回	高齢者の特性と介護 (1)			加齢に伴う身体機能、精神機能の変化から生じる疾病や生活障害				小野		
第4回	" (2)			高齢期における生活の変化、社会参加などの実態と生活に及ぼす影響				小野		
第5回	" (3)			高齢者の自立に向けた介護				小野		
第6回	" (4)			介護を必要とする高齢者を支援する専門職の役割				小野		
第7回	介護過程を理解する (1)			介護保険制度の基本的知識、課題				川村		
第8回	" (2)			ICFについて理解する 介護過程の意義と内容を理解する				小野		
第9回	" (3)			高齢者をアセスメントする方法、情報整理、支援方法				小野		
第10回	" (4)			介護を予防する方法				小野		
第11回	" (5)			認知症の理解と要介護者・家族への支援方法				小野		
第12回	高齢者を支援する (1)			高齢者が抱える健康・介護の課題と支援				川村		
第13回	" (2)			高齢者の介護を行っている家族への支援方法				川村		
第14回	" (3)			高齢者を支える地域のシステム・連携				川村		
第15回	まとめ			まとめ						
評価 方法 及び 評価 基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 2/3以上の出席者について、出席状況、リフレクションペーパー、レポート、定期試験を組み合わせ総的に評価する。 2) リフレクションペーパーは、すべての授業終了後に提出することで5%を加算する。 3) 定期試験は80%とする 									
課題等	課されたレポートは必ず提出してください。 レポート及びリフレクションペーパーは返却しない。									
事前事 後学修	授業で紹介する参考図書は読んでください。必要時レポートを書いてもらいます。 教科書は読んでいることを前提としています。									
教材 教科書 参考書	新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度、中央法規出版 第6版 2021 ISBN:978-4-8058-5807-3									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で紹介された文献・国民の福祉の動向・保険と年金の動向など自己学習による積み重ねが重要です。 ・ニュースなど社会の動向に関心をもち考えることが重要です。 									

科目名	介護実技		科目コード	W31008	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-09.						
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	高田 まり子, 川村 泰子, 幸山 靖子, 阿部 智美			授業 形態	実技	複数	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉を基盤とした介護を実践するために、必要な知識を学習し、生活支援技術を修得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーの1・2に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. 介護技術に関連する基礎的知識を実践方法を理解する。 2. 生活支援技術を実践し、修得する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)					備 考		
第1回	援助関係を築く基本とコミュニケーション		1. 援助の人間関係とは 2. コミュニケーションの基本と効果的な方法					講義 (幸山・阿部)		
第2回	一般状態の観察		1. 介護における観察の意義 2. 一般状態の観察方法					講義 (幸山・阿部)		
第3回	高齢者の自立支援と生活環境		1. 生活環境とは 2. 高齢者の社会参加と自立支援 3. 高齢者に住みよい街づくり					講義(川村)		
第4回	居住環境の整備		1. 高齢者の自立を支援する居住環境 2. 居住環境と介護					講義(川村)		
第5回	睡眠と休息の介護		1. 高齢者の休息と睡眠 2. 休息と睡眠の支援					講義(川村)		
第6回	運動と移動の介護(1)		1. 運動や移動の意義と目的 2. ボディメカニクスを活用した介助方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第7回	運動と移動の介護(2)		1. 移動の自立に向けた用具・道具の活用 2. 車椅子への移乗と移送の方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第8回	食事の介護		1. 食事の意義と目的 2. 食事を援助する方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第9回	口腔の清潔の介護		1. 口腔ケアの目的と心身への効果 2. 口腔ケアの方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第10回	排泄の介護		1. 排泄の意義と目的 2. 排泄介護の特徴 3. 排泄行為の援助方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第11回	身体の清潔、身じたくの介護(1)		1. 入浴・清潔保持、身じたくの意義と目的 2. 清潔保持の援助方法					講義 (幸山・阿部)		
第12回	身体の清潔、身じたくの介護(2)		1. 清潔保持の援助方法 2. 整容と衣服の着脱の援助方法					講義・実技 (幸山・阿部)		
第13回	緊急時の介護		1. 高齢者に起こりやすい事故とその予防 2. 緊急時における連携					講義(高田)		
第14回	終末期の介護		1. 終末期ケアの意味と介護の役割 2. 危篤時、死後の介護の方法					講義(高田)		
第15回	まとめ		授業の総まとめ					筆記試験		
評価方法及び評価基準	<p>2/3以上の出席者について、参加状況(10%)、ミニレポート(10%)、筆記試験(80%)で評価する。 ★試験配分:阿部(30点)、幸山(20点)、川村(23点)、高田(12点)、阿部・幸山ミニレポート等(15点)</p>									
課題等	ミニレポートを課す。提出後は教員が内容を確認し、返却する。									
事前事後学修	予習復習を怠らないこと。									
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 編集 新 社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度 中央法規出版 その他、随時資料を配付する。									
留意点	毎回「ミニレポート」を記載し、提出をもって出席とします。 実技の際は、身だしなみを指示します。									

科目名	精神医学 A		科目コード	W31013	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-14.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	相馬 信				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神疾患総論として、精神医学の歴史から、代表的な精神疾患の成因、症状、診断法、治療法について説明する。また、精神科医療における人権擁護としては、入院形態の課題、移送制度、インフォームドコンセント、地域移行の課題について説明する。さらに、精神科医療機関における治療構造として、外来から入院、在宅医療等について説明する。最後には、精神科医療と他機関との連携について概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>国は医療提供体制の確保を図るための基本指針に精神疾患を加えることにした。都道府県は従来の「4大疾病（がん、脳卒中、急性心筋梗塞、糖尿病）」に加え、精神疾患を追加して「5大疾病」として医療計画を策定することとなる。また精神科病院の長期入院を解消し、社会復帰を促進させることが大きな政策課題の一つとなっている。このような課題に取り組む上で、コア科目である精神医学の歴史をはじめ、精神疾患の理解、人権擁護のあり方、治療構造の理解、精神科医療機関との連携等について理解する。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神医学概論〔1〕			①精神医学・医療の歴史、②現代の動向						
第2回	精神医学概論〔2〕			③精神現象の生物学的基礎 (a. 神経系の構成、b. 中枢神経系、c. 末梢神経系)						
第3回	精神障害の理解			①障害者の概念（ICFの課題分析）、 ②精神障害の成因と分類						
第4回	精神科治療における人権擁護〔1〕			①精神科治療と入院形態、②インフォームドコンセント、 ③隔離、拘束のあり方						
第5回	精神科治療における人権擁護〔2〕			④精神科救急医療システムとその対象、 ⑤移送制度による入院						
第6回	精神医療と関係機関との連携〔1〕			①治療導入に向けた支援、②再発予防のための支援						
第7回	精神医療と関係機関との連携〔2〕			③退院促進支援、他						
第8回	精神疾患の症状と診断〔1〕			①精神症状と状態像（意識の諸障害、他）						
第9回	精神疾患の症状と診断〔2〕			②精神症状と状態像（脳および神経の生理・解剖、他）						
第10回	精神疾患の治療〔1〕			①精神科薬物療法、 ②身体的療法（電気けいれん療法、他）						
第11回	精神疾患の治療〔2〕			③精神療法、④精神科リハビリ						
第12回	精神科医療機関の治療構造〔1〕			①疾病構造の変化						
第13回	精神科医療機関の治療構造〔2〕			②外来診療、③在宅医療						
第14回	精神科医療機関の治療構造〔3〕			④入院医療、⑤医療観察法対象者の支援						
第15回	精神疾患と精神障害者の理解			①精神疾患を抱える当事者の体験報告、 ①精神障害者との交流						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神疾患の症状、治療などについてどの程度理解したか評価する。</p>									
課題等	<p>精神障害者の疾病受容について難病患者の事例をVTRで視聴し、「疾病受容の困難性について」をテーマとしたレポート作成後、次の講義の中で提出されたレポートを紹介しながらまとめフィードバックする。</p>									
事前事後 学習	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神医学事典、精神医学ハンドブックなどを調べ補足する。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座 第1巻 「精神疾患とその治療」 第2版 中央法規出版</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神医学B		科目コード	W31014	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-15.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	和田 一丸				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 主な精神疾患（統合失調症、気分障害、神経症性障害、認知症など）に関して、その成因、症状、診断、治療を中心に講義を行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの2に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	統合失調症や気分障害などの精神医学領域における様々な疾患および障害について、その臨床的特徴、診断および治療法を中心に理解を深めることを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	統合失調症 1			統合失調症の概念と原因						
第2回	統合失調症 2			統合失調症の症状						
第3回	統合失調症 3			統合失調症の診断と治療						
第4回	気分障害(うつ病と双極性障害) 1			気分障害(うつ病と双極性障害) の概念と原因						
第5回	気分障害(うつ病と双極性障害) 2			気分障害(うつ病と双極性障害) の症状と治療						
第6回	心因と関係した精神疾患 1			神経症性障害の概念・症状						
第7回	心因と関係した精神疾患 2			神経症性障害の診断・治療						
第8回	摂食障害・睡眠障害			神経性やせ症・神経性過食症・ナルコレプシーなどについて						
第9回	性行動の障害・パーソナリティ障害			性同一性障害・境界性パーソナリティ障害などについて						
第10回	発達障害・児童期の精神疾患			知的障害・自閉スペクトラム症などについて						
第11回	アルコールによる精神・行動の障害			アルコール依存症などについて						
第12回	様々な精神作用物質による精神障害			覚醒剤精神病などについて						
第13回	認知症を含む器質性精神障害			アルツハイマー型認知症などについて						
第14回	てんかん			てんかんの原因・症状・診断・治療						
第15回	精神医療と社会			精神医療と社会との関わりについて						
評価方法及び評価基準	授業への参加度30%、定期試験70% 精神疾患についての基本的理解を試す試験問題を出し、精神医学に関する一般的知識のみならず答案の論理性を評価するとともに、授業への参加度等を考慮して総合的に成績を評価する。									
課題等	臨床精神医学に関するレポートなど課題を課す場合がある。									
事前事後学修	臨床精神医学に関する参考図書等を紹介する場合がある。									
教材教科書参考書	「新・精神保健福祉士養成講座 第1巻 精神疾患とその治療」第2版 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-5312-2									
留意点										

科目名	精神保健学A		科目コード	W31015	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-16.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	オムニバス
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健は、こころの健康に関する学問的並びに実践的活動である。こころの不調・不健康の兆しを早期に発見し、こころの健康を守り、こころの病を予防することを目的としている。本講義ではこころの健康を体系的に捉え、その要因、対応策や予防策など支援方法について考える。また、その視点には、社会環境を含め、ライフサイクルにおける対象者の精神保健の課題とアプローチについても考えていくことができるよう概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	精神保健学Aでは、広義の精神保健とし、一般の人々も含めたこころの健康の保持・増進について学び、また、精神保健福祉士を目指す人々に限らず、精神保健の基本的な視点を理解し、自らのメンタルヘル스에役立てられるよう知識、援助方法を学ぶ。									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔1〕		①精神保健の動向、②精神保健活動の三つの対象							
第2回	現代の精神保健分野の動向と基本的考え方〔2〕		①精神の健康に関する心的態度、②生活と悪習慣（アディクション）							
第3回	家族に関する精神保健の課題と支援〔1〕		①家族関係における暴力と精神保健							
第4回	家族に関する精神保健の課題と支援〔2〕		②出産・育児をめぐる精神保健							
第5回	家族に関する精神保健の課題と支援〔3〕		③介護めぐる精神保健							
第6回	家族に関する精神保健の課題と支援〔4〕		④社会的ひきこもりをめぐる精神保健							
第7回	家族に関する精神保健の課題と支援〔5〕		⑤家族関係の課題							
第8回	家族に関する精神保健の課題と支援〔6〕		⑥グリーフケア、⑦精神保健支援を担う機関							
第9回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔1〕		①学校教育における精神保健的課題							
第10回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔2〕		②教員の精神保健、③関与する専門職と関係法規							
第11回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔3〕		④スクールソーシャルワーカーの役割							
第12回	精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ〔4〕		⑤学校保健にかかわる社会資源							
第13回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔1〕		①現代日本の労働環境、②産業精神保健とその対策							
第14回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔2〕		③職場のメンタルヘルスのための相談							
第15回	精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ〔3〕		④職場内の問題を解決するための機関及び関係法規							
評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。									
課題等	精神科外来医療のひとつである精神科デイケアの一日をVTR視聴し、テーマ「精神科デイケアの意義について」レポート作成後、次の講義でフィードバックし、理解を深める。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援 中央法規 ISBN978-4-8058-8253-5									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健学B		科目コード	W31016	単位数	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWFF1-17.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	オムニバス
	精神保健福祉士指定科目	必修								
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ（DAPT、自殺予防、貧困問題、その他）と、精神保健に関する発生予防と対策（アルコール問題、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害時の精神保健など）そして地域精神保健に関する諸活動と専門職種、諸外国の精神保健活動の現状と対策について概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>精神保健学Bでは、狭義の精神保健とし医療・福祉・司法などの課題とアプローチ方法について学び、また、アルコール問題、薬物依存、うつ病と自殺防止、認知症高齢者、社会的ひきこもり、災害などに対する現状と対策やそれらに対する精神保健福祉士の役割についてを学ぶ。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ①			こころのケアチーム 支援者のケア DPAT 犯罪被害者の支援						
第2回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ②			自殺予防 ゲートキーパー その他						
第3回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ③			貧困問題と精神保健 社会的孤立						
第4回	精神保健の視点からみた現代社会の課題とアプローチ④			反復違法行為 司法領域との連携						
第5回	精神保健に関する発生予防と対策①			アルコール問題に対する対策 薬物依存対策						
第6回	精神保健に関する発生予防と対策②			うつ病と自殺防止対策						
第7回	精神保健に関する発生予防と対策③			認知症高齢者に対する対策						
第8回	精神保健に関する発生予防と対策④			社会的ひきこもりに対する対策						
第9回	精神保健に関する発生予防と対策⑤			災害時の精神保健に対する対策						
第10回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題①			関係法規 人材育成						
第11回	地域精神保健に関する偏見・差別等の課題②			古典的偏見 制御可能型偏見						
第12回	精神保健に関する専門職種①			精神保健福祉センター 保健所 市町村						
第13回	精神保健に関する専門職種②			当事者会 家族会 市民団体						
第14回	諸外国の精神保健活動の現状と対策①			世界の精神保健の実情、WHOなどの国際機関の活動、他						
第15回	諸外国の精神保健活動の現状と対策②			諸外国の精神保健医療の実情、他						
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。</p>									
課題等	<p>認知症高齢者について、「認知症高齢者サポーター養成講座」を開催したい。認知症高齢者サポーターキャラバン隊の講義、寸劇後サポーターとして実践できるよう取り組む。</p>									
事前事後学修	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、厚生労働省の患者調査、精神保健医療福祉白書などを調べ補足する。</p>									
教材教科書参考書	<p>最新 精神保健福祉士養成講座 2 現代の精神保健の課題と支援 中央法規 ISBN978-4-8058-8253-5</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神保健福祉援助技術総論		科目コード	W31019	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWFF1-18.	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	葛西 久志				授業	講義	単独
	精神保健福祉士指定科目	必修						形態		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>はじめに、精神保健福祉士と社会福祉士の役割と意義では、両福祉士の誕生から資格が制度化されるまでの経緯について説明する。また精神障害者の処遇の過去・現在・未来について検証し、福祉士としての基本理念と基本的視点を理解する。次に、相談援助の定義・価値・理念等については、2014年グローバル定義におけるソーシャルワークの定義について検討していく。さらに、精神保健福祉分野における相談援助の体系と、精神保健福祉士の専門職性では歴史的研究から、その概念と現在の具備的条件について検証する。そして、精神障害者の相談援助における権利擁護の意義とその範囲、精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助とチームアプローチについて説明する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>現在の精神障害者の概況について知る。その上で精神保健福祉士の歴史的経緯と福祉専門職としての基本理念、視点を学ぶ。次に、精神障害者への処遇の過去、現在、未来を学ぶと共に、障害者福祉の基本施策から処遇の在り方について検討していく。さらに、精神保健福祉士に対する社会的ニーズと対応策から、様々な分野における役割について学ぶ。そして、本科目の中心的テーマである精神保健福祉士の専門性について、精神保健福祉士法、倫理綱領、専門職性など様々な観点から考察して学ぶ。講義後半は、相談援助の定義と概念として、社会福祉士と精神保健福祉士の固有の業務である「相談援助」を比較し、その違いについて学ぶ。また、国際ソーシャルワークの定義や、ソーシャルインクルージョン、ノーマライゼーション、チームアプローチについて学ぶ。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神保健福祉士の役割と意義 精神障害者の概況、他			①精神病床入院患者の疾病別内訳、②平均在院日数、③入院者の年齢別割合、④児童期・思春期の精神障害など概況調査の資料の確認						
第2回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他			①精神科ソーシャルワーカーの諸外国、日本での成り立ち、②福祉専門職の基本理念と基本的視点						
第3回	精神保健福祉士の役割と意義 精神障害者への処遇、他			①精神障害者への処遇（過去・現在・未来）、②精神障害者の特性						
第4回	精神保健福祉士の役割と意義、社会福祉士の役割と意義、他			①精神保健福祉士の活動拡大と施策、②障害者福祉の基本的施策						
第5回	精神保健福祉士の役割と意義、他			①精神保健福祉士の専門性、②精神保健福祉士法の重要項目、③精神保健福祉士の役割、④精神保健福祉士の倫理						
第6回	社会福祉士の役割と意義、形成過程、他			①社会福祉士誕生の背景、②岸・仲村論争、③新たなソーシャルワークの展開						
第7回	相談援助の定義と概念、他			①福祉士の固有の業務「相談援助」の意味、②2014年グローバル定義におけるSWの定義						
第8回	相談援助の価値と理念、他			①理念と価値、②ウェルビーイング (well-being)、③社会正義、④利用者主体と利用者主導、⑤尊厳の保持・人権擁護						
第9回	相談援助の価値と理念、他			⑥精神科医療機関における「相談援助」の変化、⑦人権、人間の尊厳、⑧ソーシャル・インクルージョン、⑨ノーマライゼーションなど						
第10回	精神保健福祉分野における相談援助の体系			①医療機関における専門的活動、②地域生活支援における専門的活動、③司法における専門的活動						
第11回	精神保健福祉分野における専門職の概念			①福祉士専門職に対する概念の歴史の変遷、②専門職固有の業務である「相談援助」の違い						
第12回	精神保健福祉分野における専門職の概念			③国家資格がない時代の専門職としての位置づけ、④現在の福祉士専門職としての具備的条件						
第13回	相談援助における権利擁護の概念と範囲			①障害者の権利に関する国際的な流れ、②障害者権利条約、③権利擁護						
第14回	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割			④権利擁護における5つの機能、⑤精神科医療システムにおける人権擁護（精神医療審査会）						
第15回	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携			①チームアプローチとは何か、②チームアプローチの原則・モデル・機能・課題、③精神障害者アウトリーチ事業						
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レポート課題（20%）定期試験（80%）で評価する。レポート課題は、その時の講義内容を踏まえ自分の考えを論理的に記述しているかを評価する。定期試験は、講義全体の内容についてどの程度理解したかを評価する。									
課題等	精神保健福祉士とは、どのような専門職なのかを知るために									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉士が執筆した書籍を読む。また、精神科専門雑誌である「精神科臨床サービス」星和書店なども参考にする。									
教科書参考書	新・精神保健福祉士養成講座 第3巻「精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）」 第2版 中央法規出版 (ISBN978-4-8058-5118-0)									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅠA		科目コード	W32001	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWPF2-01.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕				授業形態	講義	単独
授業の概要等	[授業の主旨] 1) 相談援助における構造と機能について学ぶ。 2) 人と環境の交互作用について学ぶ。 3) 相談援助における援助関係(意義、形成プロセスに影響する要因、構造、質と自己覚知、ミクロからマクロ実践領域)について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達目標	1) ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 2) 相談援助における構造と機能について説明できる。 3) 人と環境の交互作用について説明できる。 4) 相談援助における援助関係について説明できる。 5) 相談援助の展開過程について説明できる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	オリエンテーション		1) 授業の概要および到達目標 2) 評価方法および評価基準 3) 留意点						講義	
第2回	相談援助とは(1)		1) ソーシャルワーカーの具体的事例 2) 仕事からとらえたソーシャルワークの定義と枠組み						講義、グループワーク	
第3回	相談援助とは(2)		1) ソーシャルワークを構成する要素 2) ソーシャルワークの職場 3) ソーシャルワーカーが所属する組織						講義 レポート課題	
第4回	相談援助の構造と機能(1)		1) ソーシャルワークの構造 2) ソーシャルワークにおけるニーズ						講義	
第5回	相談援助の構造と機能(2)		1) ソーシャルワークの過程から捉えた機能 2) ソーシャルワークの枠組みからとらえる機能 3) ソーシャルワーク機能から導きだされるソーシャルワーカーの役割						講義、グループワーク	
第6回	人と環境の交互作用		1) 実践における人と環境 2) 人にとっての環境の意味 3) システム理論による一つのソーシャルワーク論						講義 小テスト	
第7回	相談援助における援助関係(1)		1) 援助関係の意義 2) 援助関係の形成プロセスに影響する要因 3) 援助構造と援助関係						講義、グループワーク	
第8回	相談援助における援助関係(2)		1) 援助関係の質と自己覚知 2) 援助関係とミクロからマクロ実践領域						講義	
第9回	相談援助の展開過程Ⅰ(1)		1) 相談援助の展開過程の流れ 2) ケース発見						講義	
第10回	相談援助の展開過程Ⅰ(2)		1) 受面接(インテーク) 2) 問題把握からニーズ確定まで						講義 レポート課題	
第11回	相談援助の展開過程Ⅰ(3)		1) ニーズ確定から事前評価(アセスメント)まで 2) 事前評価(アセスメント)から支援標的・目的設定まで						講義	
第12回	相談援助の展開過程Ⅰ(4)		1) 支援標的・目標設定から支援の計画(プランニング)まで 2) 支援の計画(プランニング)から支援の実施まで						講義	
第13回	相談援助の展開過程Ⅱ(1)		1) 経過観察(モニタリング) 2) 再アセスメントと支援の強化						講義 小テスト	
第14回	相談援助の展開過程Ⅱ(2)		1) 支援の終結と効果測定、評価、アフターケア 2) 予防的対応とサービス開発						講義	
第15回	まとめ		1) 相談援助とは 2) 相談援助の構造と機能 3) 人と環境の交互作用 4) 相談援助の展開過程						講義、グループワーク	
評価方法及び評価基準	1. 定期試験60%、小テスト20%、レポート20% 2. 定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、相談援助の構造と機能、相談援助における援助関係、相談援助の展開過程について択一式問題などで確認する。 3. 小テスト：2回程度予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。また、事例についての自分の意見を記載する論述式の設問も出す。 4. レポート：ソーシャルワークの形成過程および視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。									
課題等	フィードバックとして小テストおよびレポートについてコメントを返す									
事前事後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会(2015)『相談援助の理論と方法Ⅰ(第3版)』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5103-									
留意点	1. 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2. 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論 I B		科目コード	W32002	単位数	2単位	対象学年	2年	開講学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF2-02.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小川 幸裕				授業形態	講義	単独
授業の概要等	[授業の主旨] 1) 相談援助のためのアウトリーチについて学ぶ。 2) 相談援助のための契約、アセスメント、介入、経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術について学ぶ。 3) 相談援助のための面接の技術について学ぶ。 4) 相談援助のための記録の技術について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。									
到達目標	1) ソーシャルワークに関わる基本的用語を説明できる。 2) 相談援助のためのアウトリーチについて説明できる。 3) 相談援助の展開過程について説明できる。 4) 相談援助のための面接の技術について説明できる。 5) 相談援助のための記録の技術について説明できる。 6) 相談援助のための交渉の技術について説明できる。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	オリエンテーション		1) 授業の概要および到達目標 2) 評価方法および評価基準 3) 留意点					講義		
第2回	相談援助のためのアウトリーチ (1)		1) アウトリーチの必要性 2) アウトリーチを必要とする対象 3) アウトリーチの担う機能					講義、グループワーク		
第3回	相談援助のためのアウトリーチ (2)		1) 援助過程とアウトリーチの具体的方法 2) アウトリーチを行うための留意点					講義 レポート課題		
第4回	相談援助のための契約の技術		1) 契約の意義と目的 2) 契約の方法と留意点					講義		
第5回	相談援助のためのアセスメントの技術 (1)		1) アセスメントの特性—統合的で多面的な問題のとらえ方 2) アセスメント面接を支える援助的関係—気を付けておくべきこと 3) 面接における言語反応—留意すべき点					講義		
第6回	相談援助のためのアセスメントの技術 (2)		1) アセスメントで得るべき情報の項目と視覚化できるアセスメントツール 2) アセスメント面接で得た情報の使い方					講義 小テスト		
第7回	相談援助のための介入の技術 (1)		1) 介入の意義 2) 介入のターゲット					講義		
第8回	援助関係のための介入の技術 (2)		1) 介入の方法 2) 介入の戦略、技術、技法、留意点 3) 計画されたソーシャルアクションとしての実践介入					講義		
第9回	相談援助のための経過観察、再アセスメント		1) 経過観察 (モニタリング) 2) 再アセスメント					講義		
第10回	相談援助のための効果測定、評価の技術		1) 有効性の検証としての効果測定 2) プロセス評価とアウトカム評価 3) サービス開発の必要性					講義 レポート課題		
第11回	相談援助のための面接の技術 (1)		1) 相談援助における面接の目的 2) 相談援助における面接の展開					講義、グループワーク		
第12回	相談援助のための面接の技術 (2)		1) 面接において用いる技術とコミュニケーション 2) 相談援助における面接の形態					講義		
第13回	相談援助のための記録の技術		1) 記録の意義とその活用目的 2) 記録の種類、活用、方法、IT化 3) 記録の技術の実際例と今後の課題					講義 小テスト		
第14回	相談援助のための交渉の技術		1) 交渉の意義と目的 2) 交渉の方法と留意点 3) プレゼンテーションの技術					講義		
第15回	まとめ		1) 相談援助のためのアウトリーチ 2) 相談援助のための契約、アセスメント、介入、経過観察、再アセスメント、効果測定、評価の技術 3) 相談援助のための面接、記録、交渉の技術					講義、グループワーク		
評価方法及び評価基準	1) 定期試験60%、小テスト20%、レポート20% 2) 定期試験：持ち込み不可の筆記試験を実施する。試験内容として、アウトリーチ、契約・アセスメント・介入・経過観察・再アセスメント・効果測定・評価の技術、面接・記録・交渉の技術について択一式問題などで確認する。 3) 小テスト：2回予定しており、授業で使用した基本的用語の理解について穴埋め式等で確認する。 4) レポート：視覚教材についての所感レポートなどを課し、評価対象とする。 ※ レポートは、ルーブリックを用いて評価する。									
課題等	フィードバックとして小テストおよびレポートについてコメントを返す									
事前事後学修	講義時にて次回の予告を行うのでテキストや関連するサイトや文献を事前に学習すること。また授業中に案内するサイトや文献による事後の学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。									
教材教科書参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 (2015) 『相談援助の理論と方法 I (第3版)』中央法規出版 ISBN:978-4-8058-5103-6									
留意点	1) 教科書の授業範囲を事前・事後に読むなど、学んだことの理解を自ら深められるような努力を期待する。 2) 社会福祉に関わる行事やボランティア活動に参加したり、地域社会で起こっていることについて新聞やニュース、社会問題を取り上げた番組や映画、図書館へ通い関連する本を読むなど広く社会への関心を高めてもらいたい。									

科目名	ソーシャルワーク論ⅡA		科目コード	W32003	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-03.	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修						形態		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業では、ソーシャルワークにおける対象者である個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムととらえて、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値をもとに基礎・応用を理論的に獲得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している</p>									
到達目標	<p>1. 人と環境の相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。</p> <p>2. ソーシャルワークの過程とそれに係る知識と技術について理解する。</p> <p>3. 社会福祉士として多様化・複雑化する課題に対応するため、より実践的かつ効果的なソーシャルワークの様々な理論と方法を理解する。</p> <p>4. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション 対象の理解			授業内容の説明、社会福祉援助活動の概念と定義					講義	
第2回	対象の理解			相談援助の対象の理解とシステム理論					講義	
第3回	ケースマネジメント			ケースマネジメントの基本、過程					講義	
第4回	ケースマネジメント			ケースマネジメントにおけるアセスメントの特徴					講義	
第5回	ケースマネジメント			ケアプランの作成・実施の特徴					講義	
第6回	ケースマネジメント			ケースマネジメントのアセスメント、 ケアプランの作成・実施					講義	
第7回	ケースマネジメント			ケースマネジメントの特徴					講義	
第8回	ケースマネジメント			ケースマネジメントとソーシャルワークの関係					講義	
第9回	グループを活用した相談援助			グループワークを活用した相談援助					講義	
第10回	グループを活用した相談援助			自助グループを活用した相談援助					講義	
第11回	コーディネーションとネットワーク			コーディネーション目的、意義、方法、技術、留意点					講義	
第12回	コーディネーションとネットワーク			ネットワーク意義、目的、方法					講義	
第13回	コーディネーションとネットワーク			総合的なネットワークの形成とシステム化①					講義	
第14回	コーディネーションとネットワーク			総合的なネットワークの形成とシステム化②					講義	
第15回	事例分析の意義や方法			個別の事例の具体的な事例分析の意義や方法					講義	
評価方法及び評価基準	<p>小テスト70%、レポート30%の割合で評価</p> <p>1. 小テストは、章ごとに実施し、その合計点で評価する。</p> <p>2. レポートの課題は、到達目標に関する論述式で評価する。</p>									
課題等	小テストは次時間に返却しますので間違いを修正して復習しておくこと。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・次週の授業ページを伝えるので予習して備えてください。 ・復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。 									
教材教科書参考書	新・社会福祉士養成講座 第8巻「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規 ISBN978-4-8058-5104-3									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 ・講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは許されません。 									

科目名	ソーシャルワーク論ⅡB		科目コード	W32004	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF3-04.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修						形態		
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>この授業では、ソーシャルワークにおける対象者である個人、家族、小集団、組織、地域社会をクライアント・システムととらえて、ソーシャルワーカーとしての知識・技術・価値をもとに基礎・応用を理論的に獲得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。 2. コミュニティワークの概念とその展開について理解する。 3. ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについて理解する。 4. 社会資源の活用の意義を踏まえ、地域における社会資源の開発やソーシャルアクションについて理解する。 5. 個別の事例の具体的な解決策及び事例の共通性や一般性を見出すための、事例分析の意義や方法を理解する。 									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	社会資源の活用・調整・開発			社会資源の活用・調整・開発の意義と目的と留意点 ソーシャルアクションによるシステム作り					グループワーク	
第2回	社会資源の活用・調整・開発			自身の周りにおける社会資源と資源の活用					グループワーク	
第3回	オリエンテーション さまざまな実践モデルとアプローチⅠ			授業概要の説明、実践モデル、治療モデル、生活モデル					講義	
第4回	さまざまな実践モデルとアプローチⅠ			ストレングスマodel、ジェネラリストソーシャルワーク					講義	
第5回	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ			心理社会アプローチ、機能的アプローチ、問題解決アプローチ、事例考察によるアプローチ					講義	
第6回	さまざまな実践モデルとアプローチⅡ			課題中心アプローチ、危機介入アプローチ、行動変容アプローチ、事例考察によるアプローチ					講義	
第7回	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ			エンパワメントアプローチ、ナラティブアプローチ、事例考察による理解					講義	
第8回	さまざまな実践モデルとアプローチⅢ			認知アプローチ、その他のアプローチ、事例によるアプローチ理解					講義	
第9回	スーパービジョンとコンサルテーション			スーパービジョンの意義目的、方法、留意点					講義	
第10回	スーパービジョンとコンサルテーション			スーパービジョンとコンサルテーションの違い					講義	
第11回	ケースカンファレンスの技術			ケースカンファレンスの意義、目的、運営、展開					デスクッション	
第12回	相談援助における個人情報の保護			個人情報の基本的捉え方と情報保護					講義	
第13回	相談援助における情報通信技術ICTの活			所属機関や地域に働きかける事例による理解					講義	
第14回	事例研究・事例分析			事例研究、事例分析の目的と意義、方法と留意点					講義	
第15回	相談援助の実際			所属機関や地域に働きかける（メゾ・レベル）事例からソーシャルワークの対象・実践の広さを実感する					講義	
評価方法及び評価基準	<p>小テスト70%、レポート30%の割合で評価</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小テストは、章ごとに実施し、その合計点で評価する。 2. レポートの課題は、到達目標に関する論述式で評価する。 									
課題等	小テストは次時間に返却しますので間違いを修正し復習しておくこと。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・次週の授業ページを伝えるので予習して備えてください。 ・復習を通して章ごとの理解に努め、小テストに備えること。 									
教材教科書参考書	新・社会福祉士養成講座 第8巻「相談援助の理論と方法Ⅱ」第3版 中央法規 ISBN978-4-8058-5104-3									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 ・講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反などは許されません。 									

科目名	社会福祉調査法		科目コード	W32005	単位数 時間	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF1-05.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 社会調査に関する基礎的な概念・方法について学び、量的調査および質的調査の企画の仕方、実施の仕方について学ぶ。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1、およびカリキュラムポリシーの2に関連します。									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・社会調査の意義を理解する ・社会調査における倫理を理解する ・量的調査の方法を理解する ・質的調査の方法を理解する 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	社会調査の意義と目的		社会調査の歴史、社会調査における倫理							
第2回	社会調査のデザイン（1）		理論と調査の関係							
第3回	社会調査のデザイン（2）		調査目的と仮説の関係							
第4回	社会調査のデザイン（3）		社会調査の対象							
第5回	量的調査の方法（1）		量的調査とは何か							
第6回	量的調査の方法（2）		量的調査の種類と方法							
第7回	量的調査の方法（3）		質問紙の作成方法							
第8回	量的調査の方法（4）		質問紙の配布と回収							
第9回	量的調査の方法（5）		データの整理、基本統計量、クロス集計、相関分析							
第10回	量的調査の方法（6）		統計的推論、t検定、分散分析、回帰分析							
第11回	質的調査の方法（1）		質的調査とは何か							
第12回	質的調査の方法（2）		質的調査とサンプリング							
第13回	質的調査の方法（3）		観察法、面接法							
第14回	質的調査の方法（4）		記録の取り方							
第15回	質的調査の方法（5）		質的データの分析方法（ライフストーリー、エスノグラフィ）							
評価 方法 及び 評価 基準	学期末に行う試験によって評価を行います。基本的な概念の理解、およびそれら基本的概念を使用して調査の方法について応用的に考えることができるかどうかという点を試す問題を出します。									
課題等										
事前 事後 学修	使用する教科書を読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週あたり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	『最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座 第5巻 社会福祉調査の基礎』中央法規 (ISBN: 978-4-8058-8235-1)									
留意点										

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅱ		科目コード	W32016	単位数	4単位	対象	2年	開講	通年
区分	社会福祉専門教育科目	選択	科目ナンバリング	W-PWPF2-07.	時間	60時間	学年		開講	通年
	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	高橋 和幸・柘植 秀通・丸山 龍太			授業	演習	形態	クラス分け
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 ソーシャルワークの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、ソーシャルワークの技術を習得する。まず、学年全体を20人以下のグループに分け、それぞれのグループでさらに小グループに分かれ、演習を行う。その演習において、それぞれのグループより、演習内容を発表し、教員がポイントを教授する形をとる。演習終了後、その日の振り返りを10分ほど行う。これらが毎回の授業の全体の流れとなる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1、及びカリキュラムポリシーの1及び2に関連する。</p>									
到達目標	<p>前期は面接の基礎を体験し、一応の面接が可能となるようになることを目標とする。ただし、前期終わりの4回は、実際の基礎的実例について、支援を具体的に検討していく。</p> <p>後期は、実際の事例について、ロールプレイング等を通して疑似体験を行い、前期の基礎を応用していく。</p>									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	前期の内容の概説と、予習・振り返りの方法についての周知	講義	第16回	オリエンテーション	後期の内容、特に具体的事例を取り上げることの説明と予習・振り返りの復習	講義			
第2回	内容と感情のレベル1	両者の相違に関する、実践演習1	グループワーク	第17回	ノンバーバルコミュニケーションについて	ノンバーバルコミュニケーションの体験演習	グループワーク			
第3回	内容と感情のレベル2	両者の相違に関する、実践演習2	グループワーク	第18回	高齢者（認知症）	認知症高齢者とその家族への相談援助演習	グループワーク			
第4回	マイクロからマクロに至る環境の理解	複層的な環境のあり方を体験する演習	グループワーク	第19回	児童虐待	虐待（児童）への相談援助演習	グループワーク			
第5回	関係性の理解	ソーシャルワークにおける関係性	グループワーク	第20回	知的障害	知的障害者（児）とその家族への相談援助演習	グループワーク			
第6回	対人援助関係	ソーシャルワーク倫理綱領から考える	グループワーク	第21回	精神障害	精神障害者とその家族への援助演習	グループワーク			
第7回	面接の目的と特性	面接と通常の会話との相違に関する演習	グループワーク	第22回	精神障害	精神障害者とその家族への援助演習	グループワーク			
第8回	面接の基盤	面接の基盤となる、傾聴に関する演習	グループワーク	第23回	発達障害	発達障害者への援助演習	グループワーク			
第9回	基本的応答技法	マイクロカウンセリングに関する実践演習	グループワーク	第24回	就労支援	知的障がい者への就労支援の援助演習	グループワーク			
第10回	面接の展開	面接の展開過程の全体について学ぶ	グループワーク	第25回	いじめ	学校でのいじめに関する援助演習	グループワーク			
第11回	ソーシャルワークの展開過程①	課題の発見、アセスメント	グループワーク	第26回	児童養護	児童養護施設への入所に関する援助演習	グループワーク			
第12回	ソーシャルワークの展開過程②	援助計画の作成と実行開始①	グループワーク	第27回	高齢者虐待	高齢者とその家族について、虐待に関わる援助演習	グループワーク			
第13回	ソーシャルワークの展開過程③	援助計画の作成と実行開始②	グループワーク	第28回	高齢者（要介護）	要介護高齢者とその家族への相談援助演習	グループワーク			
第14回	ソーシャルワークの展開過程④	モニタリングと終結、評価	グループワーク	第29回	低所得者問題	低所得者への援助演習	グループワーク			
第15回	振り返り	前期の授業に関する振り返り	グループワーク	第30回	振り返り	後期に関する振り返り	グループワーク			
評価方法及び評価基準	<p>第1回・16回オリエンテーションと第15回・30回振り返りを除き、全26回の演習授業において、予習のための予習シートと達成度を見るための振り返りシートに記入してもらおう。予習シート50% 振り返りシート50%との総合評価とする。</p> <p>予習シートは翌週の内容に関する課題を提示し、その課題を行うようにし、振り返りでは、その授業における課題の達成状況および爾後の学習すべき内容を記入する。</p> <p>なお出席2/3に満たざる者は、評価の対象とはしない。これは、全体の授業30回のみならず、半期15回ごとに2/3に満たざる者も評価の対象とはしない。また、前後期それぞれで成績が30点に満たない者も評価の対象とはしない。</p>									
課題等	<p>毎回、次回のワークシートに関する予習を行う。内容は、前週に提供する予習シートの内容に沿って、提出された課題を行っていく。</p>									
事前事後学修	<p>上記の課題を、毎回行うことにより、事前学習とする。また、当日提供するワークシートにある、それぞれのビネットに関する情報を、授業後読み直し、事後学習とする</p>									
教科書	<p>教科書：一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編（2021）『ソーシャルワーク演習〔社会専門〕』中央法規出版ISBN 978-4-8058-8250-4</p>									
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は、減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>									

科目名	ソーシャルワーク演習Ⅲ		科目コード	W32022	単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
	社会福祉専門教育科目	選択	科目ナンバリング	W-PWPF3-08.	時間	60時間				
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	小川 幸裕・丸山 龍太			授業 形態	演習	クラス分	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>ソーシャルワーカーの実際を、ロールプレイなどを交えて実体験し、実際の技術を習得する。相談援助の知識と技術に係わる他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。この目的達成のため、本演習は20人以下の少人数クラス編成による並行で開講し、基本的には事例を用いてグループ討論、ロールプレイングなどによる体験学習を重視する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1及び2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>①社会問題を基盤とした相談援助事例に関するアセスメントができる。</p> <p>②相談援助事例の検討をとおりて実践モデル、アプローチを理解し説明できる。</p> <p>③相談援助事例のアセスメントを相談援助実践に活用し、知識・技術を身に付ける。</p>									
授業計画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え		第16回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え				
第2回	虐待（児童）への相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート①の確認 3) 振り返りシート①の記載	グループワーク	第17回	医学・生活・ストレスモデルに関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート①の確認 3) 振り返りシート①の記載	グループワーク			
第3回	虐待（児童）への相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート②の確認 3) 振り返りシート②の記載	グループワーク	第18回	医学・生活・ストレスモデルに関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート②の確認 3) 振り返りシート②の記載	グループワーク			
第4回	虐待（高齢者）への相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート③の確認 3) 振り返りシート③の記載	グループワーク	第19回	心理社会的アプローチに関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメント発表 2) 事前学習シート③の確認 3) 振り返りシート③の記載	グループワーク			
第5回	虐待（高齢者）への相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート④の確認 3) 振り返りシート④の記載	グループワーク	第20回	心理社会的アプローチに関する相談援助演習（2）	1) 事例課題の発表 2) 事前学習シート④の確認 3) 振り返りシート④の記載	グループワーク			
第6回	障害者（精神障害）への相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑤の確認 3) 振り返りシート⑤の記載	グループワーク	第21回	問題解決アプローチに関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑤の確認 3) 振り返りシート⑤の記載	グループワーク			
第7回	障害者（精神障害）への相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑥の確認 3) 振り返りシート⑥の記載	グループワーク	第22回	問題解決アプローチに関する相談援助演習（2）	1) 事例課題の発表 2) 事前学習シート⑥の確認 3) 振り返りシート⑥の記載	グループワーク			
第8回	中間まとめ	1) 前期前半の振り返り 2) グループ発表	グループワーク	第23回	1) 後期前半の振り返り 2) グループ発表	1) 後期前半の振り返り 2) グループ発表	グループワーク			
第9回	社会的排除に関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑦の確認 3) 振り返りシート⑦の記載	グループワーク	第24回	エンパワメントアプローチに関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載	グループワーク			
第10回	社会的排除に関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載	グループワーク	第25回	エンパワメントアプローチに関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑧の確認 3) 振り返りシート⑧の記載	グループワーク			
第11回	家族システム論に関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑨の確認 3) 振り返りシート⑨の記載	グループワーク	第26回	ナラティブアプローチに関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑨の確認 3) 振り返りシート⑨の記載	グループワーク			
第12回	家族システム論に関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑩の確認 3) 振り返りシート⑩の記載	グループワーク	第27回	ナラティブアプローチに関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑩の確認 3) 振り返りシート⑩の記載	グループワーク			
第13回	普及啓発に関する相談援助演習（1）	1) 事例のアセスメントの発表 2) 事前学習シート⑪の確認 3) 振り返りシート⑪の記載	グループワーク	第28回	解決志向アプローチに関する相談援助演習（1）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑪の確認 3) 振り返りシート⑪の記載	グループワーク			
第14回	普及啓発に関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑫の確認 3) 振り返りシート⑫の記載	グループワーク	第29回	解決志向アプローチに関する相談援助演習（2）	1) 事例のロールプレイの発表 2) 事前学習シート⑫の確認 3) 振り返りシート⑫の記載	グループワーク			
第15回	まとめ	1) 前期後半の振り返り 2) グループ発表	グループワーク	第30回	まとめ	1) 後期後半の振り返り 2) グループ発表	グループワーク			
評価 方法及び 評価 基準	<p>事前学習シート48%、振り返りシート48%、演習への参加度4%</p> <p>事前学習シート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は1回2点とし、ルーブリックを用いて評価する。</p> <p>振り返りシート：前期12回、後期12回の記載を課す。配点は1回2点とし、ルーブリックを用いて評価する。</p> <p>演習への参加度：議論への参加姿勢を評価の対象とする。</p> <p>※3分の1以上欠席した学生は評価の対象としない。</p> <p>※前期終了時点で30点未満の学生は評価の対象としない。</p>									
課題等	<p>毎回、次回のワークシートに関する予習を行うこと。</p> <p>内容は、前週に提供する予習シートに沿って、提出された課題を行う。</p>									
事前事後 学修	<p>上記の課題を、毎回行うことで事前学習とする。</p> <p>また、当日提供するワークシートの内容を授業後に読み直し事後学習を行う。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>日本社会福祉士養成校協会監修『社会福祉士相談援助演習』中央法規 ISBN 978-4-8058-5123-4</p>									
留意点	<p>演習では積極的発言による参加、共同作業が求められる。参加意欲や学習姿勢に問題がある場合は減点となる。能動的学習姿勢での参加を求める。</p>									

科目名	精神保健福祉援助技術各論A		科目コード	W32026	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	科目ナンバリング		W-PWPF3-09.	単位 時間	30時間					
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉における歴史的展開、精神保健福祉士が国家資格化に至るまでの経緯を理解する。 精神疾患や精神障害の課題のある人の状況や困難、取り巻く状況や環境を理解し、ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉の専門性（知識・技術・価値）をもとに基礎・応用理論を獲得する。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 精神医療福祉の歴史と動向と精神保健福祉士における活動の歴史を説明できる。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の方法について理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 精神保健福祉士における活動の歴史			精神保健福祉に関する海外と日本の動向を踏まえ、自立生活支援と精神保健福祉士の流れについて学ぶ。				講義		
第2回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要①			ソーシャルワークの構成要素、原理、理念、視点、知識、技術				講義		
第3回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要②			ソーシャルワークの展開過程				講義		
第4回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの概要③			精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点				ディスカッション		
第5回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程①			1アウトリーチ：支援を求める、求めない当事者及び家族へのアプローチ、多問題・社会的孤立とセルフネグレクトへのアプローチ				講義		
第6回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程②			2 インテーク：主訴の把握、スクリーニング、契約				講義		
第7回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程③			3 アセスメント：情報から情報分析・解釈、人と環境の相互作用から捉えた問題の特性等				講義		
第8回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程④			4 援助関係の形成技法				講義		
第9回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑤			5 面接技術とその応用				講義		
第10回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑥			6 支援の展開（人、環境へのアプローチ）事例分析				講義		
第11回	精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程⑦			7 支援の展開（ケアマネジメント）				講義		
第12回	精神保健福祉分野における家族支援の実際①			1 精神障害者家族の課題				講義		
第13回	精神保健福祉分野における家族支援の実際②			2 家族理解の変遷				講義		
第14回	精神保健福祉分野における家族支援の実際③			3 家族支援の方法				講義		
第15回	多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）①			連携の意義と目的				講義		
評価方法及び評価基準	<p>定期テスト70%とレポート30%で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価します。 レポートは、プレゼンテーションの作成や医療に関する新聞記事、到達目標に関する論述式問題で評価します。 									
課題等	課題は、次の授業で返却するので振り返りを行い理解を深めること。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関する図書や新聞を読むこと。 この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上です。 									
教材教科書参考書	最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 精神保健福祉に関する新聞記事や図書を読んで現状や問題等を把握して整理しておくこと。 講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は許されません。 									

科目名	精神保健福祉援助技術各論B		科目コード	W32027	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWPF3-10.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <ul style="list-style-type: none"> 精神疾患や精神障害の課題のある人の状況や困難、取り巻く状況や環境を理解し、ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉の専門性（知識・技術・価値）をもとに基礎・応用理論を獲得する。 <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神医療、精神保健福祉における多職種連携・多機関連携の精神保健福祉士の役割について理解する。 2. 精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 3. 個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 4. 精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。 									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）①			2 多職種連携・多機関連携の留意点					講義	
第2回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）②			3 チームビルディング					講義	
第3回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）③			4 チームの形態と特徴					講義	
第4回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）④			5 連携における精神保健福祉士の役割					講義	
第5回	オリエンテーション、多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）⑤			6 多職種連携・多機関連携（チームアプローチ）の実際（事例分析）					講義	
第6回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法①			1 ソーシャルアドミニストレーションの概念とその意義					レポート課題① 提示予定	
第7回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法②			2 組織と精神保健福祉士の関係性					講義	
第8回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法③			3 組織介入・組織改善の実践モデル					講義	
第9回	ソーシャルアドミニストレーションの展開方法④			4 組織運営管理の実際					講義	
第10回	コミュニティワーク①			1 精神保健福祉分野におけるコミュニティワークの意義					講義	
第11回	コミュニティワーク②			2 地域における精神保健福祉の向上					講義	
第12回	個別支援からソーシャルアクションへの展開①			1 基本的視点 2 個別支援から地域における体制整備					レポート課題② 提示予定	
第13回	個別支援からソーシャルアクションへの展開②			3 政策提言・政策展開					講義	
第14回	個別支援からソーシャルアクションへの展開③			4 精神障害者の地域移行・地域定着に関わる展開（事例分析）					講義	
第15回	関連分野における精神保健福祉士の実践展開			1 学校・教育分野 スクールソーシャルワーク 2 産業分野 EAP、3 司法分野、4 その他					講義	
評価 方法及び 評価 基準	<p>定期テスト70%とレポート30%で評価します。</p> <ul style="list-style-type: none"> 定期テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価します。 レポートは、プレゼンテーションの作成や医療に関する新聞記事、到達目標に関する論述式問題で評価します。 									
課題等	課題は、次の授業で返却するので振り返りを行い理解を深めること。									
事前事後 学修	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関する図書や新聞を読むこと。 この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上です。 									
教材 教科書 参考書	最新 精神保健福祉士養成講座6「ソーシャルワークの理論と方法（精神専門）」中央法規 ISBN978-4-8058-8257-3									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 精神保健福祉に関する新聞記事や図書を読んで現状や問題等を把握して整理しておくこと。 講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は許されません。 									

科目名	精神保健福祉演習 I		科目コード	W32029	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWPF2-11.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	演習	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神疾患や精神障害の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、取り巻く状況や環境を含めて理解することで、ソーシャルワークを展開するための精神保健福祉の専門性（知識・技術・価値）の基礎を獲得する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 精神保健福祉士の相談援助における意義について理解する。 2. 相談者を理解し、面接技術を理解する。 3. 記録技術のマッピング技法について説明できる。 4. カンファレンスに基づくチームアプローチを理解する。 5. インテーク、アセスメント、プランニングを理解する。 									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 演習の意義と目的			授業概要の説明、精神保健福祉士の相談援助における意義と位置づけ、演習の目的と内容、方法、心構え				ディスカッション		
第2回	相談援助の基盤			自己理解と他者理解、価値と倫理				グループワーク		
第3回	相談援助の基盤			利用者の理解、援助関係の理解				グループワーク		
第4回	相談援助の基盤			コミュニケーション技術、面接技術				ディスカッション		
第5回	相談援助の基盤			スーパービジョンとコンサルテーション				グループワーク		
第6回	記録の理解			記録の必要性とその方法、技術				グループワーク		
第7回	チームアプローチの理解			チームアプローチの必要性とその方法について理解				グループワーク		
第8回	チームアプローチの理解			カンファレンス				グループワーク		
第9回	個人に対する相談援助の理解			インテーク、アセスメント、プランニング				グループワーク		
第10回	個人に対する相談援助の理解			支援の実施・モニタリング、評価と終結、多職種連携				グループワーク		
第11回	グループワークにおける相談援助の理解			グループワークの必要性とその理解				グループワーク		
第12回	グループワークにおける相談援助の理解			グループワークの展開過程①～④				グループワーク		
第13回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助			ニーズ把握、コミュニティアセスメント				グループワーク		
第14回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助			計画策定、社会資源の活用				ディスカッション		
第15回	地域福祉の基盤整備にかかわる相談援助			社会資源の開拓、ネットワークング、ソーシャルアクション				ディスカッション		
評価 方法及び 評価 基準	<p>平常点評価65%とレポート試験35%で総合評価とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の達成度を見るために毎回振り返りシートに記述する。 ・レポート試験は到達目標の項目について客観的問題で評価します。 									
課題等	振り返りシートは次時間に返却するので、間違いを修正し復習しておくこと。									
事前事後 学修	日ごろから精神障害者に関する新聞記事や図書を読む習慣を身につけること。									
教材 教科書 参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座13「ソーシャルワーク演習（共通科目）」中央法規 ISBN978-4-8058-8243-6 ・「人間関係づくりとコミュニケーション」金子書房 ISBN978-4-7608-3039-8 									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 ・精神保健福祉に関する新聞記事や図書を読んで現状や問題等を把握して整理しておくこと。 ・講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は許されません。 									

科目名	精神保健福祉演習Ⅱ		科目コード	W32030	単位数	4単位	対象	4年	開講	通年
	社会福祉専門教育科目	選択	科目ナンバリング	W-PWPF3-12.	時間	60時間	学年			
区分	精神保健福祉士指定科目	必修	担当者名	丸山 龍太			授業	演習	形態	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉演習Ⅰを基礎とし、更なる技術向上を図る。精神保健福祉援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を養う。具体的な援助場面を想定した事例検討及びロールプレイ等を中心に授業を展開する。 〔ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連〕DP 1, 3 CP 2, 4に関連する。</p>									
到達目標	総合的かつ包括的な相談援助、医療と協働・連携する相談援助に係る具体的な相談事例を通して、自ら考え行動し解決できる能力を体得することを目標とする。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ソーシャルワークにおける事例の理解	事例を通してソーシャルワークを理解する重要性を理解する	グループワーク	第16回	事例演習：地域における精神保健問題①	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク			
第2回	ソーシャルワークのプロセス①	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	グループワーク	第17回	事例演習：地域における精神保健問題②	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク			
第3回	ソーシャルワークのプロセス②	ソーシャルワークの流れを事例を通して理解する	グループワーク	第18回	事例演習：地域における精神保健問題③	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク			
第4回	事例演習：当事者とその生活①	事例を通して当事者の生活を理解する	グループワーク	第19回	事例演習：地域における精神保健問題④	事例を通して地域が抱える問題の把握とそれに対処する為の方策を理解する	グループワーク			
第5回	事例演習：当事者とその生活②	事例を通して当事者の生活を理解する	グループワーク	第20回	事例演習：家族と学校①	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク			
第6回	事例演習：医療機関から地域生活へ①	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク	第21回	事例演習：家族と学校②	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク			
第7回	事例演習：医療機関から地域生活へ②	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク	第22回	事例演習：家族と学校③	事例を通して家族と学校との関係性の中で行われる支援の方法を理解する	グループワーク			
第8回	事例演習：医療機関から地域生活へ③	事例を通して医療から地域へ移行する為の流れを理解する	グループワーク	第23回	事例演習：地域援助事例①	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	グループワーク			
第9回	事例演習：地域生活への支援体制①	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発方法等を理解する	グループワーク	第24回	事例演習：地域援助事例②	事例を通して課題解決の為、地域への働きかけの方法や重要性を理解する	グループワーク			
第10回	事例演習：地域生活への支援体制②	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発方法等を理解する	グループワーク	第25回	スーパービジョン①	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク			
第11回	事例演習：地域生活への支援体制③	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発方法等を理解する	グループワーク	第26回	スーパービジョン②	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク			
第12回	事例演習：地域生活への支援体制④	事例を通して地域生活を推進する為のプロセス、資源の開発方法等を理解する	グループワーク	第27回	スーパービジョン③	プロがプロを支援するスーパービジョンの具体的なアプローチの方法を理解する	グループワーク			
第13回	事例演習：精神科リハビリテーション①	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク	第28回	実習をもとにした振り返り①	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	グループワーク			
第14回	事例演習：精神科リハビリテーション②	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク	第29回	実習をもとにした振り返り②	精神保健福祉実習での経験をもとにこれまでの演習内容の振り返りを行う	グループワーク			
第15回	事例演習：精神科リハビリテーション③	事例を通して、精神科リハビリテーションの一端を学ぶ	グループワーク	第30回	まとめ	1年間の総まとめを行う	グループワーク			
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度（100%）で評価する。グループワークを通して、事例演習に応じた支援案等を立案、支援案に対する検討、それらを踏まえた上でのロールプレイ、振り返り及び再検討を繰り返すので、積極的な発言、考察が必要である。									
課題等	演習担当者は、演習作成、演習実施の準備を進める。それ以外の者は当日の事例を前もって理解してくることを課す。									
事前事後学修	演習担当者は、演習問題の作成、当日の演習実施、振り返り等をすべて取り仕切る。担当者が作成しなければその日の演習が成立しない。また、それ以外の者は予め事例を読みこなし、要点等を整理しなければ演習が成立しない。演習が成立しない場合、授業への参加度に関して何らかの検討を行うこととなる。									
教材教科書参考書	坂野憲司編『精神保健福祉援助演習（専門）第3版』弘文堂、2020年（ISBN978-4-335-61124-7）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。ソーシャルワーク関係の知識・技術は、関連科目で習得済であることを前提として授業展開を行うので、不足する部分は予め補っておくこと。積極的な発言、考察を求めるが、他者への配慮を忘れずに、節度ある取り組みに注意すること。									

科目名	児童福祉論A		科目コード	W33001	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-01.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	柘植 秀通				授業	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修					形態			
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 子ども家庭福祉の現状をはじめ、歴史・施策などについて学ぶ。基本的には、講義であるが、随時演習を交える。特に、国家試験模擬問題をグループに分かれ、解いていく。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの11に関連し、カリキュラムポリシーの2と4に関連する。</p>									
到達目標	子ども家庭福祉の現在までの発展の経緯、諸施策、制度の在り方について、基本的な理解を得る。特に、これらに関する国家試験について、正解を導き出すことはできなくとも、大体的内容について理解をし、問題に迎えるようになる。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容						備 考
第1回	オリエンテーション&子ども家庭福祉の理念			この授業の学びについてのオリエンテーション。続いて、子ども家庭福祉の理念について学ぶ。特に児童福祉という表現から、子ども家庭福祉という表現に変わった意味について学ぶ。						講義
第2回	子どもの権利			子どもの権利保障に関する歴史的過程とその意味について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。)						講義
第3回	子どもの生命と発達			子どもの生きる権利と発達のプロセスについて学ぶ(テキストを予め読んでくること。)						講義
第4回	子どもと家庭・地域			現在の子どもたちを取り巻く現状について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。)						講義
第5回	子ども家庭福祉とは			子ども家庭福祉とは何かについて学ぶ(テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。)						講義
第6回	慈善・恩恵から権利保障へ			戦前の児童福祉の歴史的発展について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。)						講義
第7回	子どもの権利擁護の変遷			第二次世界大戦後の歴史的展開について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。)						講義
第8回	子ども家庭福祉と現代社会			高度経済成長後から現在に至るまでの歴史的展開について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。)						講義
第9回	子ども家庭を取り巻く現代社会			子ども家庭を取り巻く現代社会について学ぶ。(3章全体を読んでくること)						講義
第10回	子ども家庭福祉の法体系			子ども家庭福祉にかかわる法体系の全般的理解。(テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う)						講義
第11回	子ども家庭福祉の実施体制			子ども家庭福祉に関わる、行政機関のそれぞれの役割と諸施設の運営について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う)						講義
第12回	子ども家庭福祉の財政			子ども家庭福祉の財源はどのようなものがあり、使われているかについて学ぶ。(テキストを予め読んでくること)						講義
第13回	子ども家庭福祉の専門職			子ども家庭福祉に関わる専門職員とその資格等について学ぶ。(テキストを予め読んでくること)						講義
第14回	子ども家庭福祉の計画的推進			子ども・子育て支援制度について学ぶ。(テキストを予め読んでくること。最後に国家試験模擬問題を行う。)						講義
第15回	まとめ			これまでのまとめを行う。						講義
評価方法及び評価基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数(いかなる内容でも構わない)、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。									
課題等	課題は随時提供し、次回までに行ってくる。									
事前事後学修	次回の学習内容について、学んでおき、様々な質問に答えられるようにしておく。1時間程度の事前学習を勧める。									
教材教科書参考書	(教科書)最新 社会福祉士養成講座3『児童・家庭福祉』中央法規 2021年発行 978-4-8058-8246-7									
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほしい。									

科目名	児童福祉論B		科目コード	W33002	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-02.	時間	30時間	学年		学期	
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	柘植 秀通				授業	講義	単独
	社会福祉士指定科目	必修						形態		
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 子ども家庭福祉の現状をはじめ、歴史・施策などについて学ぶ。基本的には、講義であるが、随時演習を交える。特に、国家試験模擬問題をグループに分かれ、解いていく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1)に関連し、カリキュラムポリシーの2)と4)に関連する。</p>									
到達目標	子ども家庭福祉の現在までの発展の経緯、諸施策、制度の在り方について、基本的な理解を得る。特に、これらに関する国家試験について、正解を導き出すことはできなくとも、大体的内容について理解をし、問題に迎えるようになる。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	後期オリエンテーション&子どもの貧困			現代における子どもの貧困の状況とその防止の諸施策について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)				講義		
第2回	母子保健			母子保健とは何か、特にその歴史現状、今後の課題について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第3回	障害・難病のある子どもと家族への支援			障害・難病のある子どもと家族の現状とニーズ、その支援に関する制度・知識を学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第4回	児童健全育成			児童健全育成とは何か、またどのような事業があるかについて学ぶ。また、今後のあり方について考察する。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第5回	保育①			保育制度の流れと、制度の概要②と待機児童問題、少子化問題等について、また保育士資格について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)				講義		
第6回	保育②			地域子育て支援とは何か。その歴史から現状について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること)				講義		
第7回	地域子育て支援			母子家庭・父子家庭などのひとり親家庭について、その現状と支援のあり方について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第8回	ひとり親家庭の福祉			社会的養護とは何か、また、現在にいたる児童養護の考え方に、諸施策・諸機関①について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第9回	社会的養護			社会的養護の諸施策・諸機関等②と今後の動向について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第10回	非行児童・情緒障害児への支援			非行とは何か、情緒障害とは何か、また、それぞれの特に家族まで含めた支援のあり方について学ぶ。特に、基本となる児童自立支援施設・情緒障害児短期治療施設について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第11回	児童虐待対策			児童虐待とは何か、またその実態、虐待を予防するためのシステム、課題について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第12回	子どもと家庭にかかわる女性福祉			女性福祉、特に戦前からの婦人保護事業以来の歴史的経緯、DVおよびDV防止法について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第13回	子ども家庭福祉と相談援助活動			現在まだまだ遅れている、家庭にいる子どもたちへの相談支援、特に複雑な問題を抱えた虐待ケースや多問題家族の子どもたちへの相談支援について学ぶ。(テキストを予め読んで来ること。国家試験模擬問題を行う)				講義		
第14回	施設ケアと子ども家庭福祉援助活動			今後の施設ケアのあり方、またあるべき姿について学ぶ、と共に考察する。(テキストを予め読んで来ること)				講義		
第15回	地域援助活動とネットワーク			子ども家庭福祉における地域のあり方、特にネットワークについて学ぶ、と共にこれまでのまとめ(テキストを予め読んで来ること)				講義		
評価方法及び評価基準	参加度20%、期末のテストでの成績80%で評価を行う。期末のテストは、国家試験と同じ形式を取った試験を行う。参加度については、毎回の授業において、発言を行った回数(いかなる内容でも構わない)、演習形式で行った場合の姿勢等を観察して行う。									
課題等	課題は随時提供し、次回までに行ってくる。									
事前事後学修	次回の学習内容について、学んでおき、様々な質問に答えられるようにしておく。1時間程度の事前学習を勧める。									
教材教科書参考書	(教科書)最新 社会福祉士養成講座3『児童・家庭福祉』中央法規 2021年発行 978-4-8058-8246-7									
留意点	授業において、積極的に意見を述べてほしい。いかなる意見・質問であっても、評価するので、こうした積極性を基本としてほしい。									

科目名	子ども・家庭・社会		科目コード	W33024	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-03.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	立花 茂樹				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 前半では、子ども、家庭、社会の現状と課題をトピック的に取り上げ、子どもの福祉に関する基礎的理解を図る。 後半では、養護を要する子どもや児童虐待、不登校、いじめなど、特別な支援を必要とする子どもたちについての理解と支援のあり方を考える。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 子どもに関する様々な条約等の「子ども観」に触れながら、「子どもの人権」について説明できる。 子どもの成長に及ぼす「あそび」や「電子映像メディア」の影響について説明できる。 子育てに果たす家庭や保育所・幼稚園、地域社会の現状と役割について説明できる。 特別な支援を必要とする子どもたちの概要と対処について自分の考えを述べる。 家族支援に関するソーシャルワークや家族療法の概要を説明できる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	子どもの発見と子どもの権利		「小さな大人」から「子ども」へと変化してきた子ども観の変遷と社会の動きを理解する						毎回の授業終了時に予習シートを配布する	
第2回			児童憲章や子どもの権利条約をはじめ「子ども」の基本的な権利の保障の重要性を理解する						小テスト	
第3回	外遊びや自然体験と子どもの発達		集中力、発想力、自己肯定感、コミュニケーション力など子どもの成長に必要な諸能力の育成に大きな影響を及ぼす外遊びや自然体験の活動の大切さを理解する						小テスト 配布資料を読み ディスカッション	
第4回	子どもへの電子メディアの影響		電子メディアへの接触が健全な愛着行動の獲得に果たす親子の相互作用をはじめとする成長と発達に必要な時間を奪っていることを認識し、その対応策を考える						小テスト 配布資料を読み ディスカッション	
第5回	地域社会と子ども		子どもの成長・発達の間として大きな役割を果たしてきた地域社会の育児機能が低下している。家庭の子育てを支える地域社会在り方を考える						小テスト	
第6回	家庭・家族と子ども		児童福祉において家族支援が強調される背景と現代社会における家族の状況を理解する						小テスト	
第7回	保育所・認定子ども園と学童保育		乳幼児期や学童期の子どもとその家族を支える保育所や認定保育園と、いわゆる学童保育の現状と課題を理解する						小テスト	
第8回			児童虐待の概要と支援の現状を理解する						小テスト	
第9回			社会的養護の場で生活することを強いられる子どもたちの存在と、そのような養護児童が生活する社会的養護の場である「家庭養護」「施設養護」の現状と課題を理解する						小テスト	
第10回	特別な支援を必要とする子どもの理解		非行の概要と非行少年に対する社会的対応と課題を理解する						小テスト	
第11回			母子家族、父子家族といったひとり親家族の現状とその支援の現状を理解する						小テスト	
第12回			母子保健施策の現状と課題を理解する						小テスト	
第13回	子ども福祉関連法・制度と関連機関		子ども福祉関連法・制度の概要と関連機関・施設の主な役割と活動を理解するとともに、児童福祉にかかわる職員の倫理について考える						小テスト	
第14回	福祉のアプローチ		社会的資源を生かして問題を抱える家族に対する支援を行うソーシャルワーク的なアプローチを考える						小テスト	
第15回	心理のアプローチ		円環的因果論とシステム論からクライアントの問題を考える家族療法による支援を学ぶ						小テスト	
評価方法及び評価基準	<p>○小テスト50%、期末試験50%の割合で評価する。 ・小テスト：授業開始時に前時学習内容に関する短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・期末試験：到達目標に掲げた項目について、客観式問題及び論述式問題で評価する。</p>									
課題等	小テストは翌週の授業時に返却するので、間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後学修	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートに示す項目について予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材教科書参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	科目に関する様々な報道に関心を寄せ、事象に対する自分の考えを持てるように学びを深めてほしい。									

科目名	障害者福祉論 A		科目コード	W33003	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-04.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海 春輝				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>日本における障害者福祉のあゆみを学ぶ。障害者権利条約やICFについて理解を深める。障害者の生活実態と障害者を取り巻く社会情勢について学ぶ。障害者自立支援制度について学ぶ。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの1、2に関連する</p>									
到達目標	日本国憲法、障害者権利条約、障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法等と併せて障害者総合支援法を理解し、他職種の専門職と連携して障害者の相談支援に対応できるようになる。									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考	
第1回	オリエンテーション			担当者の自己紹介、授業の進め方						
第2回	障害者福祉の概念			I C F（国際生活機能分類）の目的と特徴						
第3回	障害者福祉の理念			障害者の人権保障と福祉の理念						
第4回	障害者の生活実態①			障害者人口の変遷、身体障害者の生活実態とニーズ						
第5回	障害者の生活実態②			知的障害者及び精神障害者の生活実態とニーズ						
第6回	障害者の生活実態③			発達障害者及び難病者の生活実態とニーズ						
第7回	障害者の権利条約			国際的な権利保障の発達過程、障害者の権利条約						
第8回	障害者の権利保障の歴史			日本における障害者福祉のあゆみ						
第9回	障害者福祉の法①			障害者基本法、障害者福祉の法体系						
第10回	障害者福祉の法②			対象別の法						
第11回	障害者福祉の法③			障害者虐待防止法、障害者差別解消法						
第12回	障害者総合支援法と障害者支援①			障害者総合支援法までの経緯						
第13回	障害者総合支援法と障害者支援②			障害者総合支援法の概要						
第14回	障害者総合支援法と障害者支援③			自立支援医療、補装具、相談支援、地域生活支援事業						
第15回	障害者総合支援法と障害者支援④			苦情解決と審査請求、他法との適用関係						
評価方法及び評価基準	<p>・レポート提出：第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。成績評価の対象とし、配分は30%とする。</p> <p>・筆記試験：講義内容についての試験を実施する。成績評価への配分は70%とする。</p>									
課題等	レポートのフィードバックは、授業の中で行う。									
事前事後学修	日頃から新聞に目を通しておくこと。									
教材教科書参考書	<p>・教科書：社会福祉士シリーズ14「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」〔第4版〕 弘文堂</p> <p>ISBN 978-4-335-61187-2</p>									
留意点										

科目名	障害者福祉論B		科目コード	W33004	単位数 2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-05.					
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	鳴海 春輝			授業 形態	講義	単独
授業の概要等	〔授業の主旨〕 障害者の就労状況、所得状況、社会参加実態、障害児のサービス、整備計画、現場で働く職員についての理解を深める。これまで学んだことを、障害者の就労支援の事例を通してより深く理解する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの1、2に関連する								
到達目標	日本国憲法、障害者権利条約、障害者基本法、身体障害者福祉法、知的障害者福祉法、精神保健福祉法、発達障害者支援法等と併せて障害者総合支援法を理解し、他職種との専門職と連携して障害者の相談支援に対応できるようになる。								
回	主 題			授 業 計 画 授業内容・授業時間外の学修				備考	
第1回	オリエンテーション			障害者福祉論Aの復習、授業の進め方					
第2回	障害者の福祉と労働①			働くことの意味、障害者の就労実態					
第3回	障害者の福祉と労働②			労働保障の制度（障害者雇用促進法等）、障害者の権利条約					
第4回	障害者の所得保障①			障害者の低所得性、障害基礎年金、社会手当					
第5回	障害者の所得保障②			労災制度、生活保護制度、負担軽減措置					
第6回	障害者の社会生活参加①			障害者の社会参加の実態、世論の障害理解の実態					
第7回	障害者の社会生活参加②			バリアフリー環境の整備					
第8回	障害児の福祉サービス①			児童の権利条約、障害者の権利条約					
第9回	障害児の福祉サービス②			母子保健法、児童福祉法の改正					
第10回	障害福祉の整備計画と障害者運動①			障害者の権利条約と国の責務の縮小					
第11回	障害福祉の整備計画と障害者運動②			国・地方公共団体の役割、障害者福祉計画と障害者参加					
第12回	障害者福祉現場で働く職員①			職員配置基準、相談支援専門員					
第13回	障害福祉現場で働く職員②			サービス管理責任者、サービス提供責任者、国家資格					
第14回	障害者相談支援の臨床事例①			知的障害者の地域生活における事例に学ぶ					
第15回	障害者相談支援の臨床事例②			身体障害者の事例、精神障害者で刑務所出所後の事例に学ぶ					
評価方法及び評価基準	・レポート提出：第8回目の授業の際、課題を複数題提示し、その中から1つ選択しレポートを作成する。第11回目の授業時間に提出する。成績評価の対象とし、配分は30%とする。 ・筆記試験：講義内容についての試験を実施する。成績評価								
課題等	レポートのフィードバックは、授業の中で行う。								
事前事後学修	日頃から新聞に目を通しておくこと。								
教材教科書参考書	・教科書：障害者福祉論Aで使用した 弘文堂「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の第6章～第12章 ISBN 978-4-335-611-87-2								
留意点									

科目名	障害と発達		科目コード	W33025	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-06.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	立花 茂樹 (実務経験のある教員)			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 国際生活機能分類による障害のとらえ方、「障害者」の法的定義、生涯発達の視点に立った代表的な発達理論、認知・社会性の発達等に関する基礎知識、障害理解と基本的なかわり方等について、講義形式による学びを進め、福祉実践力の基礎を養う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達 目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 WHOの国際生活機能分類（ICF）の考え方について説明することができる。 2 我が国における障害者の法的定義について主な法律ごとに整理し、表にまとめる。 3 発達概念、発達段階など発達の基本概念と主要な発達理論を理解し、その要点をまとめる。 4 身体障害者福祉法等で規定される障害について、「発達」との関連を踏まえてその障害特徴と基本的な支援のあり方を説明することができる。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容					備 考		
第1回	「障害がある」ということ		学習内容、学習の進め方等について説明する I C F（国際生活機能分類）における障害の捉え方を理解する					毎回の授業終了時に予習シートを配布する		
第2回	法律による障害者の定義		我が国の障害者にかかる主な法律による障害者の定義を知る					小テスト		
第3回	障害者福祉の基本理念		障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーションとインクルージョンの成立過程と基本的な考え方を理解する					小テスト		
第4回	生涯発達の視点と発達課題		発達概念の基本的事項—発達の捉え方、発達に影響を及ぼす要因などを理解する					小テスト		
第5回			乳児期から青年期の発達段階と発達課題の概要を知る					小テスト		
第6回	知性・認知の発達の基礎知識		ピアジェの認知発達理論の基本的事項を理解する					小テスト		
第7回	社会性の発達の基礎知識		愛着や道徳性の発達、向社会的行動の発達の概要を理解する					小テスト		
第8回	記憶と知能の基礎知識		記憶の仕組みと機能、メタ認知と記憶方略の基礎を理解する 知能の概念と定義、知能の測定と評価の基礎を知る					小テスト		
第9回	障害の理解と基本的な支援のあり方		視覚障害の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第10回			聴覚・言語障害の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第11回			肢体不自由の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第12回			内部障害（心臓・呼吸器・腎臓・直腸機能・小腸・H I Vによる免疫障害・肝臓機能）の特徴の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第13回			知的障害の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第14回			精神障害、高次脳機能障害の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
第15回			発達障害の理解と基本的な支援の仕方を知る					小テスト グループディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>○小テスト50%、期末試験50%の割合で評価する。 ・小テスト：授業開始時に短時間テストを実施し、その平均点で評価する。 ・期末試験：到達目標に掲げた項目について、客観式問題及び論述式問題で評価する。</p>									
課題等	小テストは翌週の授業時に返却するので、間違いの箇所を訂正して理解を深めること。									
事前事後 学習	<p>予習：授業終了時に配布する予習シートを基に予習を行い授業に臨むこと。 復習：授業を振り返り、小テストに備える。また、授業中の疑問点の解消と関連事項の学習に努めること。</p>									
教材 教科書 参考書	教科書：用いない。 随時、資料を配布する。									
留意点	紹介する参考図書を積極的に購読し、「発達」「障害」への関心を深めてほしい。									

科目名	老人福祉論A		科目コード	W33005	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-07.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	工藤 浩行			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	[授業の主旨] 高齢者福祉制度の発展過程や高齢化における社会的問題などから、支援策や援助方法に関する基本的視点を養う。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの1、2に関連する									
到達 目標	(1) 高齢者が生きてきた時代背景を理解し、生活における問題や課題を学ぶ。 (2) 高齢者の身体、精神状況を理解し、高齢者を支える制度や介護保険サービスを学ぶ。 (3) 高齢者の生きがいを学び、理想像を描くことができる。									
授 業 計 画										
回	主 題	授 業 内 容						備 考		
第1回	高齢者とは	高齢者の定義を理解し、高齢者のイメージから認識を共有する。						ディスカッション		
第2回	高齢者の社会的理解	高齢者と家族、地域社会との関係性を理解し、生きがいとは何かを学ぶ。								
第3回	高齢者の身体的理解	老化に伴って生起する変化や疾病について理解する。								
第4回	高齢者の精神的理解	高齢期に頻発する精神疾患の特性や心理的な変化について理解する。								
第5回	高齢者の総合的理解	高齢者を取り巻く環境から、問題や課題を把握し、存在意義を理解する。								
第6回	少子高齢社会と社会的問題	平均寿命や人口比率の変化から生じる生活への影響を理解する。								
第7回	高齢者を取り巻く諸問題	ライフサイクルの変化や生活課題について考察する。								
第8回	高齢者福祉の起源と生成	古代から現代までの高齢者の人生や生活を支える社会の仕組みを理解する。								
第9回	高齢者福祉の発展	高齢者保健福祉の発展過程を理解し、現代社会に求められる施策を学ぶ。								
第10回	高齢者保健福祉の法体系	高齢社会対策の基本理念と基本施策を理解する。								
第11回	老人福祉法	老人福祉法の目的と老人保健法や介護保険法などの成立による変化を理解する。								
第12回	高齢者の医療の確保に関する法律	高齢者医療の動向と課題を学び、必要とされる医療を理解する。								
第13回	高齢者虐待防止法	事例を基に虐待の早期発見や防止について理解する。								
第14回	権利擁護と成年後見制度	尊厳の保持、その人らしい生活とは何かを理解する。								
第15回	まとめ	グループディスカッションを通じて、高齢者支援を理解する。						ディスカッション プレゼン テーション		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度50%、レポート試験50% 授業後に小テストを行い評価の対象とします。 学期末に課題レポートを提出していただき評価を行います。試験は行いません。									
課題等	課題レポートは、授業内容を踏まえて自分の考えを論理的に記述しているかを評価します。 小テストは授業時間内に解答し解説します。									
事前 事後 学修	テキスト、参考書を読んで下さい。準備学習時間の目安：1日あたり30分。									
教材 教科書 参考書	社会福祉士養成講座編集委員会 『高齢者に対する支援と介護保険制度』 第6版 中央法規出版 ISBN 978-4-8058-5807-3									
留意点	双方向的な講義形態を採用していますので、授業中の学生からの質問は大いに歓迎します。									

科目名	老人福祉論B		科目コード	W33006	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-08.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	中村 直樹				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>本講義では、介護保険制度と高齢者支援の方法について学習する。とくに、介護保険制度について学習する中では、制度創設の沿革や目的、基本的な仕組み、運用等について具体的事例を紹介しながら授業を展開する。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1、2に関連している。</p>									
到達 目標	<p>(1) 介護保険制度の仕組みや介護保険サービス体系を中心に高齢者支援に関する基礎について理解する。</p> <p>(2) 高齢者を支える制度・政策を学習する中において、支援の実際を具体的にイメージしながら考えることができるようになる。</p> <p>(3) 高齢者の生活実態やニーズに対する社会的支援策を理解し、援助に関する基本的視点を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考	
第1回	介護保険制度の基本的枠組み		介護保険制度の全体像							
第2回			介護保険制度の目的と理念							
第3回			保険財政 (教科書第5章を予習・復習する)							
第4回			保険者と被保険者							
第5回			介護保険制度の最近の動向							
第6回	介護保険制度の仕組み		要介護認定の仕組みとプロセス							
第7回			保険給付							
第8回			介護報酬 (教科書第6章を予習・復習する)							
第9回			地域支援事業							
第10回			介護保険事業計画							
第11回	介護保険サービスの体系		介護保険サービスにおける専門職の役割と実際						グループワーク	
第12回			介護保険サービスの種類 (教科書第7章を予習・復習する)						グループワーク	
第13回	高齢者を支援する組織と役割		地域包括支援センターの組織体系と役割(教科書第8章を予習・復習する)						プレゼンテーション	
第14回	高齢者支援の方法と実際		相談援助とケアマネジメント (教科書第9章を予習・復習する)							
第15回	高齢者を支援する専門職の役割と実際		専門職による協働と多職種連携 (教科書第10章を予習・復習する)							
評価 方法 及び 評価 基準	<ul style="list-style-type: none"> ①期末試験(70%)、②授業内課題(30%)で、総合的に評価する。総合して60%以上の者に対し単位を認定する。 期末試験は、到達目標をもとに、高齢者を支援する法制度や仕組み等についての基本的概念や語句等の理解が正しくできているかについて評価する。 授業内課題は、毎回の授業終了時にリアクションペーパーの記入・提出により評価する。 									
課題等	特になし									
事前 事後 学修	講義にて指示する									
教材 教科書 参考書	<p>(教科書) 新・社会福祉士養成講座 13『高齢者に対する支援と介護保険制度(第6版)』中央法規出版</p> <p>(参考書) いたう総研資格取得支援センター 編 『見て覚える!社会福祉士国試ナビ』中央法規出版</p>									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> 保健・医療・福祉に関連する事件やニュースについて関心を払い、毎回、1件以上の事件やニュースについて具体的に発表・記述できるようにしておくこと。 期末試験は、学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するように心がけること。 									

科目名	老化と生体		科目コード	W33026	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-09.						
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	田中 真実				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	[授業の主旨] 体の基本構造を知る。iPS細胞の研究を知る。 ヒトの体の様々な機能が加齢によって変化することを知る。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの4及びカリキュラムポリシーの1,2,4,7全てに関連する									
到達 目標	ヒトのからだの加齢現象を学ぶ。 ヒトのからだの生理機能を学ぶ。 上手に老いることの必要性を学ぶ。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	体のしくみ I		ガイダンス、細胞と組織の概要							
第2回	体のしくみ II		消化吸収							
第3回	iPS細胞の研究 I		iPS細胞ってすごい、「爆笑問題の山中教授とめぐる京都大学 iPS細胞研究所」(DVD)							
第4回	iPS細胞の研究 II		冠攣縮性狭心症患者由来 iPS細胞を用いた病態の解明(弘前大学医学研究科で行っている研究)、「夢の扉+」iPS細胞で最先端治療 ミニ臓器 (DVD)							
第5回	老化と寿命のしくみ I		日本人の寿命							
第6回	老化と寿命のしくみ II		老化のナゾを解くための基礎知識							
第7回	老化と寿命のしくみ III		細胞は生命の「回数券」をもっている							
第8回	老化と寿命のしくみ IV		活性酸素による傷が老化をひきおこす							
第9回	老化と寿命のしくみ V		個体の寿命を支配するものは何か							
第10回	老化と寿命のしくみ VI		コラーゲンと老化の深い関係							
第11回	老化と寿命のしくみ VII		コラーゲンと老化の深い関係							
第12回	老化と寿命のしくみ VIII		いろいろな器官の老化とその対策							
第13回	老化と寿命のしくみ IX		いろいろな器官の老化とその対策							
第14回	老化と寿命のしくみ X		老化を早めないライフスタイル							
第15回	老化と寿命のしくみ XI		まとめ、課題レポート							
評価 方法 及び 評価 基準	2/3以上の出席につき、課題レポートによる評価(100%)。60%(60点)以上を合格とします。到達目標をどの程度達成されているのかをみる。									
課題等	特になし。									
事前事 後学修	配布されたプリントを復習しておくこと。									
教材 教科書 参考書	講義時に必要なプリントを配布します。									
留意点	普段から老化と寿命について興味をもち、新聞や雑誌の健康および生活欄を見ること。									

科目名	公的扶助論A		科目コード	W33007		単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-10.		時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太				授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。 公的扶助論Aでは、慈恵的救済から権利的保障へと歩んできた公的扶助の歴史をはじめ、現行法の目的、原理と原則等の仕組みや制度内容、行政運営等を体系的に講述する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP 1, 3 CP 2, 4に関連する。</p>										
到達目標	<p>到達目標は、以下の3点である。 ①低所得者層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要とその実際について理解する。 ②相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活保護制度に係る他の法制度について理解する。 ③自立支援プログラムの意義とその実際について理解する。</p>										
授業計画											
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修							備考	
第1回	貧困概念の変遷		貧困とは何か。基盤となる貧困の概念を理解する。（貧困概念の変遷を他者に説明できる）							講義	
第2回	公的扶助の概念と社会保障制度下の生活保護の位置と役割		公的扶助の特徴と範囲、位置と役割、そして機能を学ぶ（公的扶助とは何かを他者に説明できる）							講義	
第3回	イギリスにおける公的扶助制度の歴史的展開（1）		慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。							講義	
第4回	イギリスにおける公的扶助制度の歴史的展開（2）		慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。（貧困原因の認識の今昔を他者に説明できる）							講義	
第5回	わが国における公的扶助制度の歴史的展開（1）		慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する。							講義	
第6回	わが国における公的扶助制度の歴史的展開（2）		慈恵的救済から権利的保障へと発展した公的扶助制度の展開を確認する（日本とイギリスの権利的保障の違い等を説明できる）							講義	
第7回	生活保護法の目的と自立概念及び自立支援プログラム		生活保護法の目的、自立の概念の変化及び近年行われている自立支援プログラムの概要を解説する。							講義	
第8回	生活困窮者自立支援法		生活保護法より前に作用する新たなセーフティネットとして誕生したこの制度の基本的な特徴を確認する。							講義	
第9回	生活保護法における原理と原則		生活保護法における4つの原理、4つの原則を理解する。（原理と原則の違いを他者に説明できる）							講義	
第10回	生活保護制度の仕組みと内容		保護の種類、保護施設、生活保護基準等、この制度を運用する上での基本的な特徴を把握する。							講義	
第11回	保護行政の運営と他職種連携		福祉事務所を初めとした保護行政の基礎的理解を図る。							講義	
第12回	生活保護における相談援助活動		生活保護の申請から受給後の支援までの一連の流れを把握する							講義	
第13回	低所得者対策		生活保護法以外で作用する低所得対策の概要を理解する							講義	
第14回	公的扶助制度の諸課題①		公的扶助制度が抱える諸課題を通じて権利的保障を推進する為の課題を理解する（公的扶助制度の諸課題を他者に説明できる）							講義	
第15回	公的扶助制度の諸課題②		公的扶助制度が抱える諸課題を通じて権利的保障を推進する為の課題を理解する（公的扶助制度の諸課題を他者に説明できる）							講義	
評価方法及び評価基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。課題20%、試験60%、授業への参加度20%で評価する。レポート課題は、第8回目前後で提示する。能動的な学習によって知識の活用が図られているかを問う。試験では、到達目標に即した問題を出題し、基本的理解を得られているかを問う。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」を実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。										
課題等	授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。										
事前事後学修	毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。										
教材教科書参考書	伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度第5版』弘文堂、2019年（ISBN978-4-335-61197-1）										
留意点	「慈恵的救済から権利的保障へ」と発展した公的扶助は近年大きく揺らいでいる。貧困に対抗する為に何をどうするべきか。講義を通じ共に考えることとしたい。										

科目名	公的扶助論B		科目コード	W33008	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-11.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	丸山 龍太			授業 形態	講義	単独	
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 公的扶助（生活保護）は公的責任に基づき、租税を財源として貧困者に対して行われる所得保障の制度である。社会保険とならび社会保障の主要部門を構成している。貧困の拡大が社会問題となる現在、セーフティネットとして位置付けられる公的扶助は、改めてその現代的意義が問われている。</p> <p>公的扶助論Bでは、公的扶助論Aで学んだ基礎を踏まえ、生活保護行政が抱える種々の課題に関し、より深く取り上げることとする。わが国の公的扶助制度が、権利的保障の完全なる確立にまで昇華する為の課題を共に考えることとする。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 DP 1, 3 CP 2, 4に関連する。</p>									
到達 目標	<p>到達目標は、以下の3点である。</p> <p>①わが国の公的扶助制度が抱える問題点とは何かを他者に説明することが出来る。</p> <p>②公的扶助を権利的保障の制度へと更に昇華させる為の具体的な対策等を提示できる。</p> <p>③公的扶助に悪影響を与え続けているスティグマの除去の為、私たちは何が出来るかを考え行動することが出来る。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修					備 考		
第1回	公的扶助の課題の整理		公的扶助が抱える数々の課題に関し理解する。					講義		
第2回	公的扶助制度の諸課題①（生活保護法）		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する					講義		
第3回	公的扶助制度の諸課題②（生活保護法）		生活保護法が抱える課題を法誕生の経緯から整理する					講義		
第4回	公的扶助制度の諸課題③（福祉事務所）		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する					講義		
第5回	公的扶助制度の諸課題④（福祉事務所）		生活保護を運用する福祉事務所が抱える課題点を多角的に整理する					講義		
第6回	公的扶助制度の諸課題⑤（国）		生活保護法が抱える課題を国の動向から整理する					講義		
第7回	公的扶助制度の諸課題⑥（民）		スティグマの理解を踏まえた上で、生活保護法と民との関係性と課題を整理する					講義 9回目以降のグループ編成		
第8回	公的扶助制度の諸課題⑦（民間団体）		貧困に抗する活動を続ける民間団体に関する理解を深める					講義		
第9回	グループ発表会準備①		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第10回	グループ発表会準備②		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第11回	グループ発表会準備③		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第12回	グループ発表会準備④		これまでの学びを踏まえ、公的扶助制度を前へと進める為の課題をグループで検討し、プレゼンテーション資料を作成する。					グループワーク		
第13回	グループ発表会①		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
第14回	グループ発表会②		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
第15回	グループ発表会③		これまでにまとめた課題等をグループごとに発表し、クラス内で意見交換を行う					プレゼンテーション		
評価 方法及び 評価 基準	<p>出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。授業への参加度20%、グループ発表会での参加度30%、試験50%で評価する。試験は、ある事例を用いて課題解決に向けたプラン作成を求めるものとし、能動的に知識獲得及び活用が図られているかを問う。グループ発表会では、グループに分かれ公的扶助制度を前進させる為の課題とそれに関する解決策を作り上げクラス内で発表し、意見交換を行う。その際の取り組み状況、発表会への参加度等を評価の対象とする。参加度は、毎回協同学習の1つである「Think-Pair-Share」を実施する中で、その活動への関わり方等を踏まえ評価を行う。</p>									
課題等	<p>授業の進捗状況に応じてレポート課題を課す。レポート課題を通じて授業への理解度を図ると同時に復習の時間とする。復習は1回の授業につき90分程度の時間を要する内容とする。</p>									
事前事後 学修	<p>毎回、次週の授業に必要な事柄を予習するよう具体的に指示する。予習は1回の授業につき90分程度の内容とする。この予習は授業内のThink-Pair-Shareを行う為に必須となる。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>伊藤秀一編著『低所得者に対する支援と生活保護制度第5版』弘文堂、2019年（ISBN978-4-335-61197-1）</p>									
留意点	<p>9回目以降予定しているグループ発表会のいずれかの回でも遅刻・欠席した場合、原則として30%分の減点として対応するので、注意すること。</p>									

科目名	現代の生活問題		科目コード	W33027	単位数 時間	2単位 30時間	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-12.						
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 主として「公的扶助論」の学修を補う目的のもので、普段何気なく過ごしている「生活」を巡る様々な問題を、様々な角度から取り上げ、理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達 目標	「生活」を巡る諸問題を構造的に把握、理解し、社会福祉の制度や実践が果たす役割や限界の理解に繋ぐことを目標とする。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	導入①		現代の「生活」問題～「生活」に焦点を当てる意義							
第2回	導入②		「現代」の生活問題～「現代」に焦点を当てる意義							
第3回	テーマ1：貧困問題①		見える貧困・見えない貧困							
第4回	テーマ1：貧困問題②		貧困論の系譜①～ブース、ラウントリー							
第5回	テーマ1：貧困問題③		貧困論の系譜②P・タウンゼント							
第6回	テーマ1：貧困問題④		貧困論の系譜③～「相対的貧困」論							
第7回	テーマ1：貧困問題⑤		貧困論の系譜④～A・セン、ヌスパウム							
第8回	テーマ1：貧困問題⑥		現代日本の貧困問題							
第9回	テーマ2：格差と法①		現代社会の格差問題							
第10回	テーマ2：格差と法②		性別と格差							
第11回	テーマ2：格差と法③		教育と格差							
第12回	テーマ2：格差と法④		障害と格差							
第13回	テーマ2：格差と法⑤		年齢と格差							
第14回	テーマ2：格差と法⑥		健康と格差							
第15回	総括		まとめと振り返り							
評価 方法 及び 評価 基準	試験のみで評価する。									
課題等	特になし。									
事前事 後学修	特に事後学修に関して、指示された文献等の参照を怠らないこと									
教材 教科書 参考書	特になし。									
留意点	しっかりした問題意識を持たないと、履修は難しいだろう。									

科目名	地域福祉論A		科目コード	W33009	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-13.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当名	高橋 和幸				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解する。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解する。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解する。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>地域福祉の基本的な考え方、展開、動向について理解することができる。また、地域福祉における主体と対象を理解し、住民の主体形成の理念を理解することができる。さらに、地域福祉を推進するための、福祉行政の実施体制と果たす役割について理解することができる。加えて、地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開の基礎的部分を理解することができる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	地域福祉の概念と理論		地域福祉の概念、地域福祉の構造と機能、福祉コミュニティ論、在宅福祉サービス論、ボランティア、市民活動論、共生社会について学ぶ。							
第2回	地域福祉の歴史		セツルメント、COS、社会事業、社会福祉協議会、民生委員、児童委員、共同基金、在宅福祉、施設の社会化、地方分権、社会福祉基礎構造改革、地域自立生活、地域包括ケア。地域共生社会の概要について学ぶ。							
第3回	地域福祉の動向		コミュニティソーシャルワーク、コミュニティサービス、地域再生、ケアリングコミュニティについて学ぶ。							
第4回	地域福祉の推進主体		地方自治体、NPO、市民活動組織、中間支援組織、町内会、自治会等地縁組織、民生児童委員、保護司、社会福祉協議会等について学ぶ。						地域福祉の推進主体に関する小テスト	
第5回	地域福祉の主体と形成		当事者、代弁者、ボランティア、市民活動、住民活動、住民主体、参加と協働、エンパワメント、アドボカシー、福祉教育について学ぶ。							
第6回	福祉行政システム(1)		国の役割、都道府県の役割、市町村の役割、法定受託事務と自治事務、福祉行政の広域調整、事業者の指導監督、サービスの運営主体、条例、社会福祉審議会について学ぶ。							
第7回	福祉行政システム(2)		福祉行政の組織及び専門職の役割、とくに福祉事務所と児童相談所、それらの機関で働く専門職、福祉における財源について学ぶ。							
第8回	福祉計画の意義・目的と展開		福祉行政と福祉計画の関係、福祉計画の関係、福祉計画の歴史、福祉計画の種類について学ぶ。							
第9回	市町村地域福祉計画・都道府県地域福祉支援計画の内容		地域福祉と計画行政の関係、市町村地域福祉計画及び都道府県地域福祉支援計画の定義、機能、地域福祉活動計画との関係について学ぶ。							
第10回	福祉計画の策定過程と方法		計画策定に向けた課題把握、分析、協議と合意形成について学ぶ。						福祉計画の策定過程と方法に関する小テスト	
第11回	福祉計画の実施と評価		サービス評価、プログラム評価について学ぶ。						福祉計画の実施と評価に関する小テスト	
第12回	地域社会の変化と多様化		地域社会の理念と理論、地域社会の変化(過疎化・都市化・地域間格差外国人住民の増加等)について学ぶ。							
第13回	多様化複雑化した地域生活課題の現状と		ひきこもり、ニート、8050問題、ダブルケア、依存症、多文化共生、自殺、災害と被災者支援について学ぶ。							
第14回	地域福祉と社会的孤立の問題について		社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト等、社会的な孤立の問題について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価方法及び評価基準	<p>講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようお願いしたい。</p>									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8236-4、参考書としていとう総研資格取得支援センター編(2019)『社会福祉士国試ナビ2021』中央法規 ISBN-978-4-8058-8140-8									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	地域福祉論B		科目コード	W33010	単位数	2単位	対象	2年	開講	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF2-14.	時間	30時間	学年				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当名	高橋 和幸				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解する。また、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解する。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの1と4に関連している。</p>									
到達目標	地域福祉計画をはじめとした福祉計画の意義・目的及び展開を理解することができる。また、包括的支援体制の考え方と、多職種及び多機関協働の意義と実際について理解することができる。さらに、地域生活課題の変化と現状を踏まえ、包括的支援体制における社会福祉士及び精神保健福祉士の役割を理解することができる。									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	包括的支援体制について		包括的支援体制の考え方、包括的支援体制の展開について学ぶ。							
第2回	地域包括ケアシステムについて		地域包括ケアの考え方と展開方法、精神障害にも対応した地域包括ケアの展開、子育て世代包括支援センターについて学ぶ。							
第3回	生活困窮者自立支援の考え方(1)		生活困窮者自立支援制度と理念、自立相談機関による支援過程と方法及び実際について学ぶ。							
第4回	生活困窮者自立支援の考え方(2)		伴奏型の支援と対象者横断的な包括的相談支援、個人および世帯の支援、居住支援、就労支援、家計支援、子どもの学習・生活支援について学ぶ。						生活困窮者支援に関する小テスト	
第5回	地域共生社会の実現に向けた各種施策		多機関協働による包括的支援体制、住民に身近な圏域における相談支援体制について学ぶ。							
第6回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(1)		総合相談、各種相談機関の連携、協議体、地域ケア会議について学ぶ。							
第7回	地域共生社会の実現に向けた多機関協働を促進する仕組み(2)		地域包括支援センター運営協議会、要保護児童対策地域協議会、障害者自立支援協議会について学ぶ。						多機関連携に関する小テスト	
第8回	地域共生社会の実現に向けた多職種連携		保健・医療・福祉に関わる他職種連携、生活支援全般に関わるネットワーク、多職種連携等における個人情報保護について学ぶ。						多職種連携に関する小テスト	
第9回	地域共生社会の実現に向けた福祉以外の分野との機関協働の実際		社会的企業、農福連携、観光や商工労働等との連携、地方創生について学ぶ。							
第10回	非常時や災害時における法制度		災害対策基本法、災害救助法、各自治体等の避難計画について学ぶ。							
第11回	非常時や災害時における総合的かつ包括的な支援		災害時要援護者支援、BCP、福祉避難所運営、災害ボランティアについて学ぶ。							
第12回	地域福祉ガバナンス(1)		地域福祉と包括支援体制を推進するためのガバナンスの考え方、多様化・複雑化した課題と多機関協働の必要性について学ぶ。							
第13回	地域福祉ガバナンス(2)		社会福祉法における包括的な支援体制づくり、住民参加と協働、住民自治、プラットフォームの形成と運営について学ぶ。							
第14回	地域共生社会の構築		地域共生社会、地域力の強化、包括的支援体制について学ぶ。							
第15回	講義全体のまとめ		講義全体のまとめをおこなう。							
評価方法及び評価基準	講義への参加態度20%、定期試験80%で評価する。定期試験では、到達目標に掲げた項目について基本概念や専門用語の理解を試す問題を出す。【知識・理解】の観点から評価する。また、【科目への関心・学習意欲・受講態度】【問題解決の思考・判断】【技能・表現方法】の観点から講義時に学生を指名して返答(発表)を求め、レポート提出も求める。小テストも行う。これらの項目が講義への参加態度30%の評価基準になる。自分の考えを論理的に記述または発表できるように講義は集中して聴くようにお願いしたい。									
課題等	フィードバックとして小テストやレポートを適宜課し、採点またはコメントして返却する。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、下記教科書、参考書の該当部分等を読み事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び下記教科書、参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	教科書は社会福祉士養成講座編(2021)『地域福祉と包括的支援体制』中央法規 ISBN 978-4-8058-8236-4、参考書としてという総研資格取得支援センター編(2019)『社会福祉士国試ナビ2021』中央法規 ISBN-978-4-8058-8140-8									
留意点	定期試験は学習範囲から網羅的に出題するので、毎回出席するよう心掛けてほしい。									

科目名	ローカル・ガバナンス		科目コード	W33028	単位数	2単位	対象 学年	1年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-15.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>本講義は政策論の基盤となる講義を目指している。我が国の組織は、良かれ悪しかれ、戦後猛烈な勢いで発展してきた。だが、この30年ほどは、それまでの勢いはない。その基盤となった個人の能力が衰退しつつあると言われます。個人の能力は集団・組織において向上もするが、逆に下降もします。近年地域活性化が国をあげて促進されているが、個人の能力が培われる環境づくりと具体的な方法に関する議論が不可欠となる。本講義は、そうした議論を進めていく際の基本的な理論を若干の歴史的過程を加えて行い、学生に理解してもらう。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>個人の能力を組織の中でどのように磨いていくかは、まさに本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」と活発なボランティア活動を目指す学生には欠かせない講義と言えよう。</p>									
到達 目標	<p>地域の自律と自立を個人のレベルからじっくりと考察し、そうした能力を集団・組織へと地道に培う知性を育ててもらおう。これまで学生が実践しているものがあれば継続してもらい、本講義により新たに実践したいものがあれば、それを加えていただければと思う。本講義は暗記する能力を養うものではなく、とにかく考える能力、できれば少しでも実践する能力の基盤を養うものにしてもらいたい。ローカル・ガバナンスは、一人ひとりのガバナンス能力向上によって支えられていくものだからです。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	自律を個人・集団・組織から考える		自律について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。							
第2回	自立を個人・集団・組織から考える		自立について、個人・集団・組織の視点から各グループで話し合いをしながら考えていく。							
第3回	地方政府の自律を考える		(我が国) 地方政府がなぜ自律(精神)に欠けるのかを官僚制論から考察し、学生に理解してもらう。							
第4回	地方政府の自立を考える		(我が国) 地方政府がなぜ自立できないのかを制度・デモクラシー論から考察し、学生に問題提起する。							
第5回	governmentとgovernanceの違い		組織を生態(形式)的ではなく、動態(実体)的な視点から考察し、2000年以降の国・都道府県・市町村の関係について学生に考えてもらう。							
第6回	governanceとしての我が国地方政府		動的な視点から我が国地方政府を分析し、将来像について学生とともに考察していく。							
第7回	governanceとしての米国地方政府		歴史的な視点と動的な視点から米国地方政府を分析し、将来像について学生とともに考察していく。							
第8回	A. トクヴィルの自治の精神		およそ180年前、仏人A. トクヴィルは、米国人の動態をどのように分析したのかについて、学生に理解させる。							
第9回	我が国集団主義教育の組織文化		我が国戦後の公教育は日本国憲法の理念にも関わらず、集団重視(主義)の教育をずっと行ってきた。このことと、governanceの関係を考察し、学生に理解してもらう。							
第10回	米国個人主義教育の組織文化		米国は20世紀への転換期以来個人重視(主義)の教育を強化してきた。このことと、governanceの関係を考察し、学生に理解してもらう。							
第11回	合理化とグローバリズム・ローカリズム		資本主義による経済発展は合理化を進め、民主主義の展開はこれを促進する。さらに、両者の発展はグローバリズムを拡大・浸透させる。これらとローカリズムの関係を考察し、学生に理解してもらう。							
第12回	専門職と能力		グローバリズムの拡大以前から専門職種の拡大が進んでいる。米国では世界で最も早くから専門職が拡大していった。我が国でもこの20年ほどでかなり拡大してきた。専門職の分類と基盤となる能力について考察し、学生に理解してもらう。							
第13回	専門職の自立と組織		行政や企業を中心に、組織はジェネラリストと専門職から構成されている。こうした組織のメリット・デメリットを分析・考察し、学生に理解してもらう。							
第14回	ジェネラリスト・スペシャリストと組織		行政はジェネラリストと専門職を含むスペシャリストによって構成されている。こうした構成と行政組織のgovernanceの関係を分析・考察し、学生に理解してもらう。							
第15回	ローカル・ガバナンスとは		ローカル・ガバナンスの意義とまとめを私たち自身・集団・組織に当てはめて考察し、学生に理解してもらう。							
評価 方法及び 評価 基準	課題レポートを1回提出。試験を1回。双方を50点満点で採点し、合計します。3分の2以上出席した学生を採点します。									
課題等	できるかぎり、毎日新聞やネットニュースで、一つ以上の都道府県・市町村の記事を読む。									
事前事後 学修	講義の前日は、社会問題に関する記事の一つ、新聞がネットニュースで読んできてください。授業でその内容について、聞くことがあります。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、配布した新聞記事の一つ丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	藤井浩司・中村祐司(編著)『地方自治の基礎』一藝社(2017)、2400円。									
留意点	欠席が事前にわかる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	社会福祉行政論		科目コード	W33029	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-16.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉行政、これに関わる行政組織・民間組織・専門職との関係を分析し、問題点を考察します。社会福祉行政論には、部分的ではあるが、政治の知識がある程度あったほうがよい。政治学A・Bをまだ取っていない学生は、できれば履修してほしい。これからは医療福祉関連の予算は膨らんでいきます。こうした中でも、本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や活発なボランティア活動がなぜ必要なのかについても学んでいきます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 本学部のポリシーである福祉実践者の「人づくり」やボランティア精神は、将来福祉関係の仕事に就かずとも、すべての人にとって大切な考え方であることを学んでほしいと思います。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉行政を国家論および官僚制論から見ていくことができるようにします。 スペシャリスト、エキスパート、「専門職」、専門職の関係を理解し、学生自らの指針に磨きをかけてい 									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	講義の概要と展開		本講義の概要、展開、そして試験等について説明。							
第2回	福祉国家と行政国家と「大きな政府」の違いと共通点		福祉国家とは、福祉行政や関連する行政が増大した国家、行政国家とは3権の中で、行政部門が肥大した国家、「大きな政府」とは、あらゆる行政が肥大した国家です。共通点はいずれも行政費用の増大をまねきます。							
第3回	日本の福祉行政の歴史の展開と今後		戦後から1990年代までの福祉行政と2000年代からの福祉行政では、その理念や具体的政策が大きく変わった。							
第4回	社会福祉行政と地方公共団体		変わった点は、地方自治体の役割が非常に大きくなりました。措置から契約へとほぼ政策理念が変わり、多くの社会福祉法人や民間企業が社会福祉事業に関わることになりました。							
第5回	介護保険制度と行政		社会福祉政策の中でも大きく変わったのが高齢社会に対応した介護保険制度が取り入れられたことです。							
第6回	社会福祉事業と事業者に対する指揮監督		政策に契約理念が採用されたため、たくさんの高齢者施設やサービス事業が社会福祉法人や民間企業によってできました。契約どおりにサービス提供ができない場合、行政の指揮監督がなされることも。							
第7回	社会福祉の費用と財源		社会福祉の費用と財源は、基本的には国の税金と国民の介護保険料等で賄われます。その他には、寄付金などがあります。							
第8回	ガバナンスと制度改革		数年前の制度改革は、組織のガバナンスを強化する方向性が打ち出された。このガバナンスの理解と制度改革の方向性を考える。							
第9回	制度改革 1		改正前と改正後の比較から考える。							
第10回	制度改革 2		その2							
第11回	社会福祉の専門諸機関		社会福祉の専門諸機関を行政組織として分析し考える。							
第12回	相談過程と地域の相談システム		2000年以降の発展過程を中心に考える。							
第13回	専門職の専門性		専門職の専門性について、行政統制（行政責任）論と専門性の2方向性から考える。							
第14回	社会福祉専門職		前回の専門職論から考察すると、社会福祉の各専門職は、どのように分類可能かを考える。							
第15回	まとめと試験		講義全体のまとめと試験							
評価 方法及び 評価 基準	試験とその前提としての出席。試験の点数は、2回までの欠席が減点なし、3-5回が1回につき5点減点。									
課題等	社会福祉行政が現実の政治（議会）と行政と常に絡んでいる部分を講義の中で一緒に探っていきましょう。									
事前事後 学修	講義の前日は、福祉に関する記事の一つ、新聞かネットニュースで読んでください。講義終了日は、レジュメをさらっと読み返し、印刷した新聞記事をすべて丁寧に読んでください。									
教材 教科書 参考書	『社会福祉概論2-福祉行政と福祉計画/福祉サービスの組織と運営』（社会福祉学習双書2019）全国社会福祉協議会。できるだけ新しいものがよいので、もっと新しいものが3月までに出版されれば、変更について掲示します。									
留意点	就職活動など、欠席が事前にわかる場合は、西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	福祉計画論		科目コード	W33030	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-17.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 官僚制の下で、計画が精緻化されていくことの意義と機能を説明し、計画の長所と短所を考えます。100年以上前にドイツのM.ウェーバーは、未来の人間のほとんどの活動は組織により動かされていくと著書の中で述べました。だからこそ、私たちは、組織の中で、計画活動が活発になると、そのプラス面とマイナス面を知る必要があります。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 本学部のポリシーである福祉実践者は「人づくり」や、活発なボランティア活動は将来の地域づくりにとって当たり前になることを願って講義を進めます。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・官僚制と計画の関係を理解して、福祉計画について分析できるようにします。 ・行政責任（行政統制）論を理解して、福祉計画の評価と監査の違いを理解できるようにします。 									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	講義の概要説明		講義の概要、計画、試験等について説明します。							
第2回	計画とは何か		計画の基本的理解と我が国戦後の国家的計画の歴史							
第3回	行政計画と福祉計画		行政福祉計画と社会福祉法人等の福祉計画の理解							
第4回	福祉計画の策定過程とその方法		PDCAサイクルの基礎的理解とその策定方法の理解							
第5回	具体的な福祉計画		様々な具体的な活動をどのように福祉活動として計画に取り入れていくのかを考察							
第6回	評価と監査の違いとアカウンタビリティ		アカウンタビリティの分析により、評価と監査の違いと人間の自発性を考える。アカウンタビリティは、一方では、より良い仕事のために必要だが、他方では、強すぎると、組織の中で働く人間の自主性を弱めていきます。このことを理解していないと、組織の人間はロボットのようにになります。							
第7回	福祉計画の評価方法		福祉計画の評価方法と評価と監査の違い							
第8回	福祉計画におけるニーズとは		福祉計画におけるニーズを類型化して学生に考えてもらいます。							
第9回	ボランティア（NPO）と福祉計画		ボランティアについて分析し、これを福祉計画にどのように絡めるのか、そのメリットとデメリットを学生に考えてもらいます。							
第10回	地域の伝統文化と福祉計画		地域の伝統文化には、地域の多くの住民が長年親しんできている。そうした文化には、2つの考え方があり、それをどのように福祉や福祉計画に絡めるかについて学生に考えてもらいます。							
第11回	住民参加と福祉計画		地域住民が福祉や福祉計画について考える意義について解説し、福祉やそのサービスを豊かにしていくためにも、地域住民の福祉への理解と協力が必要であることを学生に理解してもらおう。							
第12回	クライアントの自発性と福祉計画		福祉の業務やボランティアに関わる人々が、クライアントはなにもできないなどと思っはいけない。クライアントは特技を持っている場合が多いのです。その自発性の尊重し、福祉や福祉計画について学生に考えてもらおう。							
第13回	スペシャリスト・ジェネラリストと福祉計画		集団や組織には、スペシャリストとジェネラリストの能力が不可欠である。あるいは、双方の能力を持つ人々がいてもいい。福祉計画を策定していく際に、これをいかす考え方を学生に探ってもらいたい。							
第14回	ケアの理念と福祉計画		福祉に携わるあらゆる専門職や一般の人々のケアの理念について学生に考えてもらおう。							
第15回	まとめと試験		福祉計画論のまとめと試験							
評価方法及び評価基準	試験（文章の構成と論理性を中心に評価）と出席。試験の結果は、2回までの欠席が減点なし、3～5回の欠席は5点ずつ減点。									
課題等	これまで経験してきた学校、学級、部活動、サークルなどをときどき振り返ってみてください。									
事前事後学修	講義の前日は、福祉に関する記事の一つ以上、新聞かネットニュースで読んでみてください。講義終了日は、レジュメをさっと読み返し、印刷した新聞記事を全部丁寧に読んでください。									
教材教科書参考書	「社会福祉行政論」の教科書と同じ。									
留意点	就職活動など、事前に欠席がわかる学生は西東に相談してください。相談内容によっては、配慮します。									

科目名	保健医療論		科目コード	W33013	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWBF3-18.		30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>保健医療サービスの構造変化をもとに社会福祉分野の活躍が期待されている。特に高齢者を中心とする在宅医療や介護の需要増加を背景とした、病院における早期退院や後方病院との退院調整、関係機関との連携について学ぶ。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、2、3に関連し、カリキュラムポリシーの2、4に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。</p> <p>2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。</p> <p>3. 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。</p> <p>4. 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p>									
授業計画										
回	主題		授業内容						備考	
第1回	オリエンテーション 保健医療サービスの全体像		授業概要の説明、保健医療の動向、構成要素						講義	
第2回	保健医療サービスの变化と社会福祉専門職の役割		保健医療サービスの今日的課題、チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士						講義	
第3回	保健医療サービスを提供する施設とシステム		医療法と保健医療政策の医療施設およびの医療施設の機能・類型						講義	
第4回	保健医療サービスを提供する施設とシステム		地域包括ケアシステムと在宅医療						講義	
第5回	保健医療サービスを提供する施設とシステム		診療報酬における医療施設の機能・類型と介護保険法における施設等の機能・類型						講義	
第6回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割		医療ソーシャルワーカーの歴史と業務内容の枠組み						講義	
第7回	保健医療サービスにおける医療ソーシャルワーカーの役割		業務の内容ミクロからメゾ、マクロへのソーシャルワーク						講義	
第8回	保健医療サービスにおける専門職の役割		専門職の役割と基本的姿勢						講義	
第9回	保健医療サービスにおける専門職の役割		保健医療サービスにおける各専門職の視点と役割の実際						講義	
第10回	保健医療サービスの提供と経済的保障		医療保険制度と診療報酬制度の概要						講義	
第11回	保健医療サービスの提供と経済的保障		介護保険制度と介護報酬						講義	
第12回	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践		公費負担制度の概要						講義	
第13回	保健医療サービスにおける専門職の連携と実践		保健医療の専門職との連携方法と基礎知識および連携機関・団体						講義	
第14回	保健医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践		保健医療の専門職との連携の実際						講義	
第15回	保健医療論のまとめ		地域の保健医療ネットワーク構築のための連携方法と基礎知識						講義	
評価方法及び評価基準	<p>小テスト70%、レポート30%の割合で評価</p> <p>1. 小テストは、章ごとに実施し、その合計点で評価する。</p> <p>2. レポートの課題は、到達目標に関する論述式で評価する。</p>									
課題等	課題は、次の授業で返却するので振り返りを行い理解を深めること。									
事前事後学修	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。 ・予習復習を通して内容の理解に努め、小テストに備えること。 									
教材教科書参考書	最新 社会福祉士養成講座 第5巻「保健医療と福祉」中央法規 ISBN978-4-8058-8248-1									
留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。 ・医療、保健に関する新聞記事を読んで現状や問題等を把握して整理しておくこと。 ・講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は許されません。 									

科目名	医療ソーシャルワーク論		科目コード	W32006	単位数	2単位	対象	2年	開講	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-19.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	駒ヶ嶺 裕子				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>[授業の主旨]</p> <p>保健医療における制度とサービス、医療ソーシャルワーカーの役割と関連職種との関わり、在宅医療・介護における本人（患者）と家族の関係性における支援方法を事例を参考にして理解を深める。</p> <p>[ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項]</p> <p>ディプロマポリシーの1、3に関連し、カリキュラムポリシーの1に関連している。</p>									
到達目標	<p>1. ソーシャルワーク実践において必要となる保健医療の動向を理解する。</p> <p>2. 保健医療に係る政策、制度、サービスについて理解する。</p> <p>3. 保健医療領域における社会福祉士の役割と、連携や協働について理解する。</p> <p>4. 保健医療の課題を持つ人に対する、社会福祉士としての適切な支援のあり方を理解する。</p>									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 医療ソーシャルワーカーの意義			授業概要の説明、わが国の少子高齢化の現状と問題点 疾病構造の変化・感染症の減少・生活習慣病の増加				講義		
第2回	医療施設から在宅医療			・社会的入院 ・在宅医療の役割と課題				講義		
第3回	保健医療における福祉的課題①			・依存症、認知症、自殺企図、虐待防止				講義		
第4回	保健医療における福祉的課題②			・依存症、認知症、自殺企図、虐待防止				プレゼンテーション		
第5回	医療施設の概要			・病院(特定機能病院、地域医療支援病院等)、診療所 ・病院や病床の機能分化				講義		
第6回	保健医療領域における専門職			・医師、歯科医師、保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、管理栄養士、介護福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員、居宅介護従事者等				プレゼンテーション		
第7回	保健医療領域における社会福祉士の役割			・医療ソーシャルワーカーの業務指針				講義		
第8回	保健医療に係る倫理			・自己決定権の尊重 ・医療倫理の6原則				講義		
第9回	保健医療に係る倫理			・保健医療にかかわる倫理的課題 ・高度生殖医療、出生前診断、脳死と臓器移植、 尊厳死、身体拘束				ディスカッション レポート課題		
第10回	保健医療領域における支援の実践①			・疾病及びそのリスクがある人の理解 ・入院中・退院時の支援、在宅医療における支援				ディスカッション		
第11回	保健医療領域における支援の実践②			・救急・災害現場における支援 ・終末期ケア及び認知症ケアにおける本人、家族支援				ディスカッション		
第12回	保健医療対策の概要			・保健所の役割、地域医療の指針(医療計画) ・5 疾病、5 事業、薬剤耐性(AMR)対策				講義		
第13回	医療保険制度の概要①			・無料低額診療事業 ・労災保険、傷病手当金、特定疾患医療費助成制度				講義		
第14回	医療保険制度の概要②			・診療報酬制度の体系				講義		
第15回	まとめ			・医療ソーシャルワークの実践事例				講義		
評価方法及び評価基準	<p>小テスト50%とレポート50%で評価します。</p> <p>・小テストは、到達目標の項目について客観的問題で評価します。</p> <p>・レポートは、到達目標に関する論述式問題で評価します。</p>									
課題等	課題は、次の授業で返却するので振り返りを行い理解を深めること。									
事前事後学修	<p>・医療、保健に関係する図書や新聞を読むこと。</p> <p>・この授業の準備学習時間の目安は、1日あたり60分以上です。</p>									
教材教科書参考書	<p>新・社会福祉士シリーズ第17巻『保健医療と福祉』（株）弘文堂 ISBN978-4-335-61222-0</p> <p>日本医療ソーシャルワーク研究会「医療福祉総合ガイドブック〈2021年度版〉」医学書院</p>									
留意点	<p>・この授業は、医療ソーシャルワーカーを目指す学生、保健医療に興味がある学生の履修を望みます。</p> <p>・学生が主体的に授業に臨むよう予習をすること。</p> <p>・講義の妨げになる行為、学則や社会常識に反するような言動、ルール違反は許されません。</p>									

科目名	更生保護論		科目コード	W33014	単位数	2単位	対象	3年	開講	前期
	科目ナンバリング	W-PWBF2-20.	時間	30時間	学年					
区分	社会福祉専門教育科目 社会福祉士指定科目	選択 選択必修	担当者名	平野 深				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 更生保護制度の沿革、仕組み、他の各制度との違いを理解した上で、あるべき犯罪者・非行少年の自立支援のあり方について考えます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 更生保護が身近な問題であり、国民一人一人が考えたり取り組んだりしなければならない問題であることを実感できる。 更生保護制度の仕組みや手続きを、どうしてそのような仕組みや手続きが準備されているのかを含めて理解する。 犯罪や非行からの立ち直りに関して、現在どのような問題が起きており、それに対してどのような対策が採られているかを把握する。 更生保護が抱える問題点を理解した上で、更生保護のあるべき姿について自分なりの考えを持つことが出来る。 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	更生保護の全体像		更生保護の意味を説明した上で、架空事例を用いながら更生保護がどのような活動なのかを概説する。							
第2回	刑事司法のなかの更生保護		成人および少年の刑事事件の手続きの流れを概説した上で、刑事司法のなかで更生保護はどの段階に位置付けられるかを確認する。							
第3回	更生保護の基本原則		更生保護の目的、内容などを概説した上で、更生保護の基本原則について説明する。							
第4回	仮釈放①		仮釈放制度の意義や手続きを説明した上で、とくに成人に対する仮釈放について、その趣旨などを解説する。							
第5回	仮釈放②・生活環境の調整		仮釈放のうち、少年に対する仮釈放について解説する。また、生活環境の調整の意義や内容について説明する。							
第6回	保護観察制度の概要①		保護観察の基本的な内容を解説した上で、主として少年の保護観察について、その種類や手続き等説明する。							
第7回	保護観察制度の概要②		保護観察のうち、成人を対象とする保護観察の種類・手続き等について解説をする。							
第8回	更生緊急保護		更生保護において、更生緊急保護がどのように位置づけられるか解説する。また、その手続きや類似制度との違いについても説明する。							
第9回	恩赦		恩赦について、内容・手続き・現状について説明をする。とくにその機能については詳しく取り上げる。							
第10回	更生保護の担い手①		保護観察の中核を担う保護観察官と保護司について、その職務内容を説明する。							
第11回	更生保護の担い手②		更生保護施設がどのような役割を担っているかを、そこで実施されている処遇内容を踏まえて解説する。							
第12回	更生保護の担い手③		民間協力者である更生保護女性会、BBS会、協力雇用主の活動内容を中心に、それぞれが担う役割を説明する。							
第13回	医療観察制度①		医療観察法が成立する前にどのような問題が生じていたのかを分析した上で、医療観察法成立の背景を説明する。							
第14回	医療観察制度②		医療観察法の手続きやしくみを紹介した上で、それがどのような意図のもとに作られたのかを解説する。							
第15回	更生保護の近時の動向と今後の課題		これまでの講義内容から現在の更生保護の問題点を抽出し、その解決策として近時提示されている新たな取り組み・課題を紹介する。							
評価方法及び評価基準	<p>平常評価 30% (授業の感想記入、質問等への回答、授業中の受講態度、授業の要約(「授業のまとめ」)等を総合して平常評価とします。ただ授業に出ているだけでは、点数はつきませんので注意して下さい。)</p> <p>定期試験 70% (授業内容から「論述問題」を中心に出题します。試験の際には、授業中に配布した資料と自筆ノートのみ持ち込みを認めます。採点のポイントは、授業で扱った用語、制度の趣旨、手続きなどを理解した上で、それを相手に伝わるような形で表現できているか、自分なりの考えを表現できているかという点になります。)</p>									
課題等	授業終了時に感想や質問を記入してもらいます。それについては、次回の授業時にコメントをします。また、「授業のまとめ」に関しては、次回の授業時に回収してチェックをし、理解が不十分と思われる点については、次々回の授業時に解説をします。									
事前事後学修	毎回授業終了時に次回の学習範囲とポイントを示しますので、事前に本などを読んで調べておいてください。事前学修としては1時間程度が必要です。事後学修として、授業内容を復習した上で「授業のまとめ」をやってきてもらいます。事後学修としては2時間程度が必要です。									
教材教科書参考書	とくに指定しません。授業時に資料を配布し、それによって授業を進めます。参考書等は開講時に紹介します。									
留意点	毎回の授業終了時にはコメント記入を求められますし、次回までにやってくる課題(「授業のまとめ」)が出されます。コメントや課題の内容によっては点数がつかないこともあります。授業そのものに関しても、ただ授業に来ているだけで居眠りをしたり内職をしたりしている場合には平常評価にはカウントされません。本講義に関しては、授業中ただ座って話を聞いているだけでは意味がありません。つねに何が問題となっているのか、それを解決するためにはどのようにすればいいのか、ということを考えながら授業を受けてください。また、授業中は受講生の皆さんに条文を読んでもらったりしますので、そのつもりで緊張感をもって授業に臨んでください。									

科目名	社会福祉経営論		科目コード	W33015	単位数	2単位	対象	4年	開講	前期
	社会福祉専門教育科目	選択	科目ナンバリング	W-PWBF2-21.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	保田 宗良			授業	形態	講義	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>福祉サービスは、チームが組織体で提供している。その仕組みを理解するために組織論、経営管理、財務管理の専門知識を学習します。社会福祉法人の経営を多角的に学習しますが、人材の育成、人材マネジメントに力点を置きます。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2、4に関連する。</p>									
到達目標	福祉サービスの経営を理解するための基礎知識を修得し、社会福祉法人の施設長、正規職員が修得すべき専門知識を学習します。福祉職以外の専門職と連携して組織を設計する際のマネジメントにも言及します。それらの専門分野をふまえて人材育成、人材マネジメントの意義と方法を正確に理解することが到達目標です。									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容 ・ 授 業 時 間 外 の 学 修						備 考	
第1回	福祉サービスの全体像		福祉サービスの概念を明確に示し、学習する範囲を定めます。他のサービス業との比較によりその特徴を明確にします。							
第2回	福祉サービスを提供する組織		福祉サービスを提供する組織を、社会福祉法人、特定非営利活動法人、医療法人、その他に分けて各組織を学習します。							
第3回	福祉サービスの沿革と概況		福祉サービスの歴史、社会福祉法人制度改革についての流れを把握します。							
第4回	組織間連携と促進		現在の福祉サービスは、組織間連携、多職種連携の形式が多くあります。チームでマネジメントする方法を学習します。							
第5回	組織運営の基礎理論		組織論について学習し、福祉サービスの組織作りを考えます。課題を班ごとに議論します。							
第6回	集団力学の基礎理論		集団の意思決定、コンフリクトについて具体的事例に基づき考察します。							
第7回	リーダーシップの基礎理論		福祉サービスにおいて求められるリーダーシップを具体的に検討します。							
第8回	経営体制		社会福祉法人で望ましいとされる経営体制を学習します。							
第9回	コンプライアンスとガバナンス		社会福祉法人に求められるコンプライアンスとガバナンスを理解します。							
第10回	福祉サービスの経営管理		マーケティングとリスクマネジメントについての戦略事例を班ごとに議論しながら学習します。							
第11回	情報管理		福祉サービスの情報、その管理と運用を把握します。							
第12回	会計管理と財務管理		社会福祉法人の財務管理、会計管理を学習し、財務諸表の見方を練習します。							
第13回	福祉人材マネジメント		人材の確保と採用、評価システムについて考察します。							
第14回	福祉人材の育成		キャリアパスを考慮した福祉人材の育成方法を検討します。							
第15回	半期のまとめ		半期の学習を整理し、論点を班ごとに議論します。							
評価方法及び評価基準	中間レポート（50点満点）＋学期末試験（50点満点）で評価します。両方とも教科書を精読し、講義で修得した知識を展開し、自分の意見を客観的に記述することが求められます。レポートはコメントを付して早めに返却します。									
課題等	中間レポートの内容を確認し、必要があれば課題を出題します。									
事前事後学修	講義の最後に毎回、教科書の復習の範囲、予習の範囲を指示します。必要な学習時間を示します。									
教材教科書参考書	一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集(2021)「福祉サービスの組織と経営」中央法規 ISBN 978-4-8058-8244-3									
留意点	毎回出席し、知識を蓄積して下さい。不必要な欠席は避け、やむをえず欠席する場合は配付資料を後日渡しますが、自習で補足して頂きます。班ごとのグループワークで、課題を議論する形式を取り入れます。									

科目名	精神保健福祉制度論A		科目コード	W33021	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF2-22.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志				授業形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉制度論Aでは、精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化について概説する。その中で、精神保健福祉士の歴史の変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義についても説明する。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証していく。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を概説する。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策などについて概説する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義について学ぶ。その中で、精神保健福祉士の歴史の変遷と精神保健福祉士法の改正内容と意義について詳しく学ぶ。さらに、精神障害者がどのように処遇をされてきたのかを施策の面からも検証しながら学ぶ。また、障害者自立支援法の成立経緯から障害者総合支援法へ移行後の制度内容を学び、制度活用など即実践できるよう身につける。前期後半には、アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策等々についても学び現場実習に活かせるようにする。									
授業計画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	精神保健福祉の歴史の変遷①			奈良朝時代、江戸時代、明治時代（精神病患者監護法）						
第2回	精神保健福祉の歴史の変遷②			大正時代（精神病院法）、昭和30年～40年代（精神衛生法）						
第3回	精神保健福祉の歴史の変遷③			昭和60年代（精神保健法）～平成時代（精神保健福祉法）						
第4回	精神保健福祉士の歴史			精神科ソーシャルワーカーの誕生（アメリカ、日本など）						
第5回	精神保健福祉士の専門性②			精神保健福祉士制度の成立、他						
第6回	精神保健福祉士の専門性②			精神保健福祉士法の改正内容とその意義						
第7回	精神障害への処遇の過去・現在・未来①			Y問題、宇都宮病院事件、社会的入院、他						
第8回	精神障害への処遇の過去・現在・未来②			「保護者」廃止、退院後生活環境相談員の配置、他						
第9回	精神障害への処遇の過去・現在・未来③			退院促進事業（地域移行支援）、アウトリーチ支援（地域定着支援）						
第10回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①			福祉六法の成立、障害者基本法の成立、障害者自立支援法の成立						
第11回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②			障害者総合支援法の改正、障害者福祉サービスの事業内容①						
第12回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③			障害者福祉サービスの事業内容②、自立支援医療のしくみ						
第13回	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス④			アウトリーチ支援、自殺対策、認知症高齢者への支援対策、ひきこもり支援対策、発達障害者支援対策						
第14回	精神障害者に関する社会保障制度の概要①			医療保険制度、介護保険制度、						
第15回	精神障害者に関する社会保障制度の概要②			生活保護制度、他						
評価方法及び評価基準	学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉の歴史の変遷（制度の変遷含む）や、障害者総合支援法などについてどの程度理解したか評価する。									
課題等	障害者総合支援法の制度の成立までの経緯や当初の制度のねらい、課題などについて、VTRなどを視聴しながら、今後の展望についてフィードバックする。									
事前事後学修	事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健医療福祉白書、障害者総合支援法のしくみ（全社協）などを調べ補足する。									
教材教科書参考書	新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5596-6）									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	精神保健福祉制度論B		科目コード	W33022	単位数	2単位	対象	3年	開講	後期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWBF2-23.	時間	30時間	学年			
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	葛西 久志				授業	講義	単独
	精神保健福祉士指定科目	必修					形態			
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>精神保健福祉制度論Bは、精神保健福祉士が精神障害者のおかれた状況や抱える問題理解していく上で、精神保健福祉法の理解は不可欠である。そこで、精神保健福祉法の目的および対象として、法律の目的、法律の対象、精神保健福祉センターなどの規定について概説する。また、心神喪失者等医療観察法や更生保護法から司法・医療・福祉の連携について説明する。さらには、精神保健福祉士の専門職性とその研究から学んだ社会調査（量的調査法、質的調査法）についても概説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	<p>精神保健福祉士は、精神保健福祉法を活用して精神障害者の社会的復権の実現を図っていく必要がある。そこで、精神保健福祉法の運用の基本法律である精神保健福祉法について詳細に学び、いつでも活用できるよう身につけておく。また、近年改正された精神保健福祉法の中で、保護者制度の廃止、地域移行支援に向けた法整備など学ぶ。さらには、司法・医療・福祉の連携や、社会資源の調整・開発にかかわる社会調査の方法を身につける。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	精神保健福祉法の概要①			第1条：法の目的、第2条：国及び地方公共団体の義務、他						
第2回	精神保健福祉法の概要②			第19条の7：都道府県立精神科病院、第19条の8：指定病院、他						
第3回	精神保健福祉法の概要③			第29条：措置入院、第30条：費用負担、他						
第4回	精神保健福祉法の概要④			第33条第1項：医療保護入院、第33条の7：応急入院、他						
第5回	精神保健福祉法の概要⑤			第34条：医療保護入院のための移送制度、第45条：精神障害者保健福祉手帳、他						
第6回	医療観察法の概要と実際①			医療観察法の目的等、医療観察法の合議制、他						
第7回	医療観察法の概要と実際②			医療観察法の流れ、医療観察法の抗告、他						
第8回	医療観察法の概要と実際③			医療観察法の指定医療機関、医療観察法の精神保健観察						
第9回	医療観察法の概要と実際④			医療観察法の抗告、医療観察法の実際						
第10回	医療観察法の概要と実際⑤			保護観察所の業務、社会復帰調整官						
第11回	司法・医療・福祉の連携①			更生保護対象者の特徴、						
第12回	司法・医療・福祉の連携②			司法・医療・福祉の連携の必要性と実際						
第13回	司法・医療・福祉の連携③			更生保護に関する新たな施策、社会内処遇の今後						
第14回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査①			精神保健福祉士の専門職性に関する研究（研究目的、研究方法など）						
第15回	社会資源の調整開発にかかわる社会調査②			アンケート調査による量的調査方法、質的調査方法						
評価方法及び評価基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験（100%）で評価する。定期試験は、主に精神保健福祉法、医療観察法、更生保護法などについてどの程度理解したか評価する。</p>									
課題等	<p>精神保健福祉法から医療観察法については、小テストを4回実施する。小テストの実施により、理解の深化を図る。</p>									
事前事後学修	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に、精神保健福祉法詳解、更生保護制度などを調べ補足する。</p>									
教材教科書参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座第6巻 「精神保健福祉に関する制度とサービス」 第6版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5596-6）</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神保健福祉論		科目コード	W33023	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWBF1-24.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉論は精神保健福祉制度論A・Bと連動した科目であり、精神障害者の地域での目立と社会参加を促進するための様々な支援システムについて概説する。はじめに、障害者概念から、精神障害者の特性と生活実態（家族会の実態含む）などについて説明する。また、精神障害者の雇用・就労支援などの政策と課題や、居住支援の実態を探りながら説明する。その他、地域ネットワークや、精神保健福祉ボランティア等の生活支援システムについて幅広く解説する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	<p>I C I D Hから I C Fなどの障害者概念の変遷と各種法制度の障害者概念を学ぶ。その中で精神障害者の特性（行動特性）も同時に学ぶ。さらには、精神障害者の概況と生活実態や、家族（家族会含む）の意識調査から現状などを学び、また関連法の中の精神障害者の雇用・就労支援や居住支援等の施策と課題を探りながら学ぶ。後半には、地域ネットワークシステムをはじめ、精神保健福祉ボランティア、ケアマネジメントなどについて幅広く学び手法・技法について身につける。</p>									
授業計画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	精神障害者の概念①		I C I D Hから I C Fへ、サバイバルスキルとSOS能力、症状ではなく能力レベルで評価							
第2回	精神障害者の概念②		精神障害者の概念（定義）、精神保健福祉法（第1条・第5条）、障害者基本法、障害者総合支援法							
第3回	精神障害者の概念③		精神障害者の疾病による影響、日常生活につながる行動特性							
第4回	精神障害者の生活の実際①		精神障害者の概況①（精神障害者数、入院患者数など厚生労働省のデータ紹介）							
第5回	精神障害者の生活の実際②		精神障害者の概況②（精神障害者の生活状況など厚生労働省のデータ紹介）							
第6回	精神障害者の家族の現状①		過去における家族の実態（ぜんかれん調査）、現在の家族の実態（みんなねっと調査）							
第7回	精神障害者の家族の現状②		家族会に期待すること、家族の7つの提言							
第8回	精神障害者の雇用・就労支援①		障害者雇用促進法、障害者雇用納付金制度、職業リハビリテーション、他							
第9回	精神障害者の雇用・就労支援②		ハローワークの事業、地域障害者職業センター、障害者就業・生活支援センター、他							
第10回	精神障害者の雇用・就労支援③		障害者雇用施策の主な助成金制度、障害者雇用の原則、他							
第11回	精神障害者の居住支援①		居住支援制度の歴史的展開（イギリス、アメリカ、日本）							
第12回	精神障害者の居住支援②		グループホーム、一般アパート、保証人制度の課題							
第13回	地域ネットワークの理解		地域ネットワークの目的と必要性、地域ネットワークの構造、地域ネットワークの課題、他							
第14回	精神保健福祉ボランティアの育成と活用		精神保健福祉ボランティアとは、精神保健福祉ボランティアの育成と活用、他							
第15回	ケアマネジメントの実際		民間における相談支援、行政における相談支援							
評価 方法 及び 評価 基準	<p>学則規程に従い出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。定期試験はレポート課題とし、6つのテーマ（①障害者の概念②精神障害者の雇用・就業支援③精神障害者の居住支援④地域ネットワーク⑤セルフヘルプグループ⑥精神保健福祉ボランティア）の中から1つ選び、定義、概念等を調べ、肯定的意見や否定的意見などについて自分の意見を書く。そのレポート内容について評価（100%）する。</p>									
課題等	<p>定期試験のレポート課題の作成のためには、様々な文献を検索し、情報を整理する。</p>									
事前事後 学習	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。講義後は、さらに知識を深める為に医・職・住のキーワードを元にミクロ・メゾ・マクロの視点で障害者の状況について調べ、現状と今後の展望について考えておく。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>新・精神保健福祉士養成講座第7巻 「精神障害者の生活支援システム」 第3版 中央法規出版（ISBN978-4-8058-5597-3）</p>									
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>									

科目名	精神科リハビリテーション学A		科目コード	W33019	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	前期
	精神保健福祉士指定科目		科目ナンバリング	W-PWBF3-25	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 隆生			授業 形態	講義	単独	
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕 精神障害者に対するリハビリテーションについて基本的理念を学ぶ。精神科リハビリテーションに関する歴史・概念・範囲・構成各要素・過程・リハビリテーションの技法・関連領域と他専門職との連携等を理解することで精神科リハビリテーションの概略を理解し、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割について理解する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①精神科リハビリテーションの概念が理解できる。</p> <p>②精神科リハビリテーションのプロセスが理解できる。</p> <p>③精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	オリエンテーション 障害の概念			1. 授業の進め方について 2. 障害の定義						
第2回	精神障害者と社会			精神障害者の処遇の歴史						
第3回	国際生活機能分類 (ICF)			ICFの解説と精神障害者のICFとの対応						
第4回	リハビリテーションのキーワード			ノーマライゼーション 共生社会						
第5回	リハビリテーションの概念			リハビリテーションの定義・歴史・現状						
第6回	精神科リハビリテーションの概念			精神科リハビリテーションの定義・歴史・現状						
第7回	精神科リハビリテーションにおける 精神保健福祉士の役割			1. リハビリテーションと社会福祉 2. 精神保健福祉士の役割						
第8回	精神科リハビリテーションにかかわる 専門職の連携			1. 各種専門職についての解説 2. 連携についての基礎知識						
第9回	精神科リハビリテーションの対象			1. 精神障害者の法的定義 2. 精神障害者の特性						
第10回	精神科リハビリテーションにかかわる 専門職			1. チーム医療 2. 精神科リハビリテーションチーム						
第11回	精神科リハビリテーションサービスの 実施機関			1. リハビリテーションサービスの歴史 2. 障害者総合支援法と精神障害者						
第12回	精神科リハビリテーション の基本プロセス			1. アセスメント 2. 計画 3. 実施 4. 評価						
第13回	精神科リハビリテーションの展開			精神科病院・社会復帰施設・地域におけるリハビリテーション						
第14回	疾病の経過 ライフサイクルとリハビリテーション			疾病の経過 各年代の課題とリハビリテーション						
第15回	まとめ			本授業の振り返り						
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業の参加態度50点、試験50点</p> <p>出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事後 学修	教科書をよく読んでおくように									
教材 教科書 参考書	<p>教科書</p> <p>・精神保健福祉士養成セミナー5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第6版 日本精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編 へるす出版 2017</p>									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									

科目名	精神科リハビリテーション学B		科目コード	W33020	単位数	2単位	対象 学年	3年	開講 学期	後期
	科目ナンバリング		W-PWBF3-25.	時間	30時間					
区分	社会福祉専門教育科目 精神保健福祉士指定科目	選択 必修	担当者名	小山内 隆生				授業 形態	講義	単独
授業の概要等	<p>〔授業の主旨〕精神科リハビリテーションについて、具体的な実施方法について学習する。リハビリテーションの具体的な技法を通して、利用者のニーズに対応した援助・支援プログラムを企画実施するための基本的な考え方を学ぶとともに、精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士の役割・多職種協働のあり方等について理解を深める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連している。</p>									
到達目標	<p>①精神保健福祉士が行うリハビリテーションの知識と技術が理解できる。</p> <p>②多職種連携における精神保健福祉士の役割が理解できる。</p> <p>③地域リハビリテーションの構成が理解できる。</p> <p>④ケアマネジメントの基本的考え方と活用が理解できる。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容					備 考	
第1回	オリエンテーション 前期のまとめ			1. 授業の進め方 2. 精神科リハビリテーション学Aのまとめ						
第2回	作業療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第3回	レクリエーション療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第4回	集団精神療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第5回	認知行動療法			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第6回	心理教育			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第7回	チームアプローチ			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第8回	デイケア			定義、構造、歴史、基本的考え方						
第9回	居住支援			意義、歴史、現状、将来の課題						
第10回	就労支援			意義、歴史、現状、将来の課題						
第11回	地域支援とネットワーク			意義、歴史、現状、将来の課題						
第12回	仲間による地域生活支援			意義、歴史、現状、将来の課題						
第13回	コ・プロダクション			意義、歴史、現状、将来の課題						
第14回	精神保健ボランティア			定義、展開、役割と機能、育成、将来の課題						
第15回	まとめ			授業の振り返り						
評価方法及び評価基準	<p>授業の参加態度50点、試験50点</p> <p>出席について：遅刻2回で欠席1回とする。30分以上の遅刻は欠席扱いとする。</p>									
課題等	リハビリテーションについて理解を深めておくこと									
事前事後学修	教科書をよく読んでおくように									
教材教科書参考書	<p>教科書</p> <p>・精神保健福祉士養成セミナー5 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ 第6版 日本精神保健福祉士養成セミナー編集委員会 編 へるす出版 2017</p>									
留意点	教科書に従って授業を進めるので予習復習をよくするように									

科目名	社会福祉実習指導 I		科目コード	W34101	単位数	2単位	対象	2年	開講	通年
	社会福祉専門教育科目	必修	科目ナンバリング	W-PWSF1-01.	時間	30時間	学年	2年	開講	
区分	社会福祉士指定科目	必修	担当者名	柘植秀通・駒ヶ嶺裕子・立花茂樹			授業形態	講義	クラス分	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>前期は、「ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際」をテーマに、ゲストティーチャー（現場勤務の社会福祉士）による講義を通して、実習先施設・機関の主要な業務内容、ソーシャルワーカーの業務と役割、及び社会福祉実習の内容と実習に向かう心構えなどについて具体的に学ぶ。</p> <p>後期は、社会福祉士とソーシャルワーカーの関係、社会福祉士の新たな役割と機能、実習先施設の範囲と施設の特徴を生かした実習内容と形態、実習スーパービジョン等に関する講義及び実習に向けた課題レポートの作成等を通して実習に対する意識を高める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1及びカリキュラムポリシーの2に関連する</p>									
到達目標	社会福祉実習は、社会福祉実践者として、単に知識のみでなく、倫理までを含めた総合的な学びの場となることから、その学びにふさわしい知識・技能の基礎を身につけると同時に実習に対する心構えを持つことができる。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション 相談援助実習ガイドライン1	授業内容の説明。 援助実習のガイドラインを通して、学ぶべき内容の概略を知る	一斉	第16回	オリエンテーション	後期の授業に関する内容の紹介とレポート作成等について	講義			
第2回	相談援助実習ガイドライン2	援助実習のガイドラインを通して、学ぶべき内容の概略を知る	グループ	第17回	ソーシャルワーカーとしての社会福祉士	社会福祉士とソーシャルワーカーの関係 新たな役割と機能	グループ			
第3回	予習レポートや振り返りシートの作成	記載例を用いて、記載すべき内容、記述上の留意点と評価基準等を確認する	グループ	第18回		ソーシャルワークの枠組みをとらえる一価値・倫理、知識と技術—社会福祉士の義務	グループ			
第4回	実習機関・施設・地域の理解（1）	相談援助実習機関・施設の理解	グループ	第19回	実習の場と形態	法令上の相談援助実習施設 フィールドSWとレジデンシャルSW実習	グループ			
第5回	外部講師による講義1（高齢者関係予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第20回		第1次分野と第2次分野と相談援助実習の場 さまざまな実習の形態	グループ			
第6回	外部講師による講義2（高齢者関係予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第21回	契約関係の中にある実習	実習契約関係の理解	グループ			
第7回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループワーク	第22回		実習機関・施設におけるリスクマネジメント 契約書の例	グループ			
第8回	外部講師による講義3（障害者関係予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第23回	実習スーパービジョンの理解	スーパービジョン概論	グループ			
第9回	外部講師による講義4（障害者関係予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第24回		実習スーパービジョン関係の理解 実習スーパービジョンの実際	グループ			
第10回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループワーク	第25回	実習機関・施設・地域の理解（2）	事前学習として実習先を理解する意義 実習機関・施設のある地域の理解	グループ			
第11回	外部講師による講義5（児童関係予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第26回	外部講師による講義8（まとめ）	社会福祉実習に向けて	一斉			
第12回	外部講師による講義6（社会福祉協議会予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第27回	振り返り	「社会福祉実習に向けて」の講義を受けて、振り返り	グループワーク			
第13回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する	グループワーク	第28回	全体のまとめ	一年間の学習を振り返り、実習に向けた学習課題のレポートをまとめる	グループワーク			
第14回	外部講師による講義7（病院予定）	ソーシャルワーカーの業務と福祉実習の実際	一斉	第29回		学習課題レポートに関する個別指導	グループワーク			
第15回	振り返り	「講義で学んだこと、残された疑問等」を中心に発表・協議する 前期授業の総括をする	グループワーク	第30回		レポートをもとに発表と協議	グループワーク			
評価方法及び評価基準	○外部講師の講義に対するレポート50%、グループ授業の予習・振り返り及び報告会レポート50%で評価する。 ・外部講師の講義・レポートについては、評価基準を印刷・配布し、教員の合意で評価する。 ・グループ授業における予習・振り返り等についても、上記基準を準用し、各教員が評価する。									
課題等	予習・振り返りシートは点検後に返却するので指摘された箇所の訂正を行い、以降の学習に生かすこと。									
事前事後学修	予習・振り返りレポートを作成することを通して事前事後学習を行うこと。									
教材教科書参考書	教科書：日本社会福祉士養成校協会 監修 白澤政和他 編(2014)『社会福祉士 相談援助実習 第2版』中央法規978-4-8058-3952-2 参考書：一般財団法人厚生労働統計協会 編(2020)『国民の福祉と介護の動向 2020/2021』一般財団法人厚生労働統計協会 雑誌03854-09									
留意点	○前期の授業における成績が60%の点数に満たない学生については面接をし、学習の仕方について指導・助言する。 ○授業においては、積極的な質問・発言、共同作業を求める。能動的学習姿勢での参加を期待する。 ○レポートの作成に当たっては事前に示された作成上の注意事項に留意し、定められた日時を守って提出すること。									

科目名	社会福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W34201	単位数	2単位	対象学年	3年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-02.		時間		30時間		
区分	社会福祉専門教育科目 選択 社会福祉士指定科目 必修	担当者名	松本 郁代・小川 幸裕・高橋 和幸・丸山 龍太・駒ヶ嶺 裕子			授業形態	講義	クラス分	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 [キーワード：準備、計画、実践、振り返り] 実習期間を中心として、実習への備えとしての計画・準備から始まり、 実習後の振り返りに関して、学べべき内容を深める。 〔ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連〕 DP 1, 2, 3 CP 1, 2, 4に関連する。</p>								
到達目標	①実践の場に出て、自らの不足を理解し、必要な改善を行えるようになる。 ②利用者個々の尊厳を理解し、その尊厳を尊重する意志を持つようになる。								
授業計画									
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	オリエンテーション	実習の意義目的の理解、受講上の諸注意等を配布書類をもとに確認する	合同	第16回	オリエンテーション	①後期スケジュールの確認 ②実習報告会についての確認 ③個人総括書の作成についての確認を行う	合同		
第2回	事前学習 1	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠）	グループディスカッション	第17回	実習振り返り 1	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション		
第3回	事前学習 2	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の特性、法的根拠）	グループディスカッション	第18回	実習振り返り 2	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション		
第4回	事前学習 3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の対象者）	グループディスカッション	第19回	実習振り返り 3	実習事後指導を行う ①グループで振り返り ②個人総括書の作成 ③個別スーパービジョン	グループディスカッション		
第5回	事前学習 4	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）	グループディスカッション	第20回	実習報告準備 1	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等	グループディスカッション		
第6回	事前学習 5	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（求められるSWの価値・理念）	グループディスカッション	第21回	実習報告準備 2	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等	グループディスカッション		
第7回	事前学習 6	①実習計画書の作成指導 ②実習前に抱えた課題等を確認する	グループディスカッション	第22回	実習報告準備 3	実習報告会に備え準備を行う ①レジュメの作成等 ②当日の役割分担の決定（司会・タイムキーパー・書記）	グループディスカッション		
第8回	事前学習 7	①実習計画書の作成指導 ②実習時のスーパービジョンについて理解を深める	グループディスカッション	第23回	実習報告会 1	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第9回	実習準備 1	①実習計画書の作成指導 ②事前打ち合わせの意義、目的等を確認する	グループディスカッション	第24回	実習報告会 2	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第10回	実習準備 2	①実習計画書の作成指導 ②実習日誌の記載法の留意点等を確認する	グループディスカッション	第25回	実習報告会 3	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第11回	実習準備 3	①実習計画書の作成指導 ②事前学習を行う（施設・機関の対象者）	グループディスカッション	第26回	実習報告会 4	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第12回	実習準備 4	①実習計画書の作成指導 ②事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等）	グループディスカッション	第27回	実習報告会 5	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第13回	実習準備 5	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等） ②訪問指導の目的、内容を理解する	グループディスカッション	第28回	実習報告会 6	1人1人、今回経験した実習の成果踏まえ発表、質疑応答を行う	グループディスカッション		
第14回	実習準備 6	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等） ②実習上の諸注意を確認する	グループディスカッション	第29回	実習総括書最終作成	個人総括書の修正、完成を図る	グループディスカッション		
第15回	実習準備 7	①事前打ち合わせ後の修正を行う（実習計画書、プログラム調整等） ②実習上の諸注意を確認する	グループディスカッション	第30回	振り返り	1年間のまとめを行う	グループディスカッション		
評価方法及び評価基準	実習に向けての準備50%と実習後における振り返り50%で評価する。実習に向けての準備には実習計画書の作成が含まれる。実習後における振り返りには報告会の準備と報告、個人総括書作成が含まれる。 なお、第1回ガイダンスで各種提出書類（個人調査書・誓約書・科目等履修状況・実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書）の締切日時を提示するので厳守のこと。これらの提出書類について締切を1回でも守らない場合は、単位認定できないので注意すること。								
課題等	上記の通り、実習計画書・報告会レジュメ・個人総括書の作成の他、必要に応じて適宜指示する。								
事前事後学修	事前学習では指定のテキストや社会福祉実習の手引きを読んでくる。事後学習では更に知識を深めるために社会福祉小六法を活用して関係法令を調べ補足する。また、演習中に疑問に感じたことや知識不足を感じた箇所についてはその解消に向けて文献などを調べ補足する。								
教材教科書参考書	長谷川匡後・上野屋加代子・白澤政和 他編（2014）『社会福祉士相談援助実習』中央法規 ISBN 978-4-8058-3952-2 ミネルヴァ書房編集部編（2021）『社会福祉小六法』ミネルヴァ書房 ISBN 978-4-623-08/543-9								
留意点	実際に実習へ出て行くことを前提に、全ての行動を律するよう。								

科目名	社会福祉調査実習 A		科目コード	W35001	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	前期
			科目ナンバリング	W-PWSF2-04.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを企画する。調査テーマはメンバーの話し合いによって決める。これまで、地域に関する調査、家族に関する調査、生活全般に関する調査などを企画したことがある。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p>									
到達 目標	<p>・社会調査の方法を理解する よって明らかにできることを理解する うになる</p> <p style="text-align: right;">・社会調査に ・仮説を立てられるよ</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容				備 考		
第1回	社会福祉調査とは何か (1)			これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						
第2回	社会福祉調査とは何か (2)			これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						
第3回	社会福祉調査とは何か (3)			これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						
第4回	社会福祉調査とは何か (4)			これまで行われた調査等を通じて調査のやり方を学ぶ						
第5回	調査テーマの検討 (1)			話し合いをしながら調査テーマを考える				ディスカッション		
第6回	調査テーマの検討 (2)			話し合いをしながら調査テーマを考える				ディスカッション		
第7回	調査テーマの検討 (3)			話し合いをしながら調査テーマを考える				ディスカッション		
第8回	調査テーマの検討 (4)			話し合いをしながら調査テーマを考える				ディスカッション		
第9回	調査テーマの検討 (5)			話し合いをしながら調査テーマを考える				ディスカッション		
第10回	先行研究の検討 (1)			調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる				ディスカッション		
第11回	先行研究の検討 (2)			調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる				ディスカッション		
第12回	先行研究の検討 (3)			調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる				ディスカッション		
第13回	先行研究の検討 (4)			調査テーマに関連する先行研究を検討しながら仮説を立てる				ディスカッション		
第14回	実査の企画 (1)			実際に行う調査の方法、時期等を検討する				ディスカッション		
第15回	実査の企画 (2)			実際に行う調査の方法、時期等を検討する				ディスカッション		
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	調査テーマ案、調査仮説案等について課題を出します。これらについては、授業中に検討します									
事前事 後学修	調査テーマ案、調査仮説案等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	使用しません									
留意点										

科目名	社会福祉調査実習B		科目コード	W35002	単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	後期
			科目ナンバリング	W-PWSF2-05.	時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	藤岡 真之				授業 形態	実習	単独
授業の 概要等	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉調査実習Aで企画した社会調査の内容を踏まえて、インタビュー調査等の質的調査またはアンケートを用いた量的調査のいずれかを実施する。具体的には、質問票の作成、調査の実施、データの集計、データの分析等を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 仮説に合わせた質問項目を作成できるようになる ・ 質問票を用いて実際に調査を行えるようになる ・ 調査結果を適切に集計できるようになる ・ 調査データを分析できるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題		授 業 内 容						備 考	
第1回	質問票の作成 (1)		仮説に合わせた質問項目を作成する						ディスカッション	
第2回	質問票の作成 (2)		仮説に合わせた質問項目を作成する						ディスカッション	
第3回	質問票の作成 (3)		仮説に合わせた質問項目を作成する						ディスカッション	
第4回	質問票の作成 (4)		仮説に合わせた質問項目を作成する						ディスカッション	
第5回	質問票の作成 (5)		仮説に合わせた質問項目を作成する						ディスカッション	
第6回	調査の実施 (1)		実際に調査を行う							
第7回	調査の実施 (2)		実際に調査を行う							
第8回	調査の実施 (3)		実際に調査を行う							
第9回	調査の実施 (4)		実際に調査を行う							
第10回	調査結果の集計 (1)		調査によって得られたデータを集計する							
第11回	調査結果の集計 (2)		調査によって得られたデータを集計する							
第12回	調査結果の集計 (3)		調査によって得られたデータを集計する							
第13回	調査結果の分析 (1)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						ディスカッション	
第14回	調査結果の分析 (2)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						ディスカッション	
第15回	調査結果の分析 (3)		集計したデータを仮説と照らし合わせながら分析する						ディスカッション	
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、課題への取り組みを総合的に評価します									
課題等	質問項目案、分析結果等について課題を出す。これらについては、授業中に検討します									
事前事後 学修	質問項目案、分析結果等について、自分なりに考えてみてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	使用しません									
留意点										

科目名	精神保健福祉実習指導 I	科目コード	W35004	単位数 時間	1単位 15時間	対象 学年	3年	開講 学期	後期
		科目ナンバリング	W-PWSF1-06.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択 精神保健福祉士指定科目 必修	担当者名	葛西 久志			授業 形態	講義	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉実習の意義・目的について理解しながら、精神障害者のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。ここでは、精神保健福祉実習の事前学習として精神障害者の様々な問題に取り組む。そして、精神保健福祉の援助・支援に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら調べ説明する。そして、さらに、教員からの助言と地域からゲストスピーカーを招聘して概説していただく。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>								
到達目標	<p>本科目は、精神保健福祉実習の事前学習として、精神保健福祉の援助に係る基礎的知識、技術と価値について具体的かつ実際に理解できるよう学生自ら調べ報告する。また配属実習先施設・機関等を体系的に理解しながら実習に臨む基礎的実力を身につける。</p>								
授業計画									
回	主 題		授業内容・授業時間外の学修				備考		
第1回	オリエンテーション		ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導 I の意義・目的（個別・集団指導の意義）						
第2回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解①		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第3回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解②		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第4回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解①		実習した先輩との情報懇談（精神科病院、地域活動支援センター等での実習機関の情報収集・共有）						
第5回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解③		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第6回	現場体験学習及び見学実習		精神科病院、デイケアセンター、グループホームの見学						
第7回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解④		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第8回	精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験		ピアの方をゲストスピーカーとして招聘し、当事者理解を図る						
第9回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑤		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第10回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑥		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第11回	精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む）に関する基本的な理解⑦		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第12回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解②		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第13回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解③		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第14回	実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解④		学生による事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説				プレゼン&グループワーク		
第15回	実習の評価全体総括会（精神保健福祉実習報告会への参加）		実習した先輩方の精神保健福祉実習報告会に参加				報告会の実務実施（司会など）		
評価方法及び評価基準	<p>出席が5分の4に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（60%）と、レポート課題（40%）で評価する。毎回のテーマの下調べした内容とプレゼン进行评估する。また、レポート課題は指定本を読み、どの程度理解したか評価する。</p>								
課題等	<p>冬休み課題：相川章子、他（2009）「かかわりの途上で」へるず出版 春休み課題：名城健二（2011）「精神科ソーシャルワーカーの実践とかかわり」中央法規出版を読んでレポート提出する。</p>								
事前事後学修	<p>事前学習では、指定のテキストを読んでくる。各課題別担当者（チューター）は、レジュメを作成し、グループで検討したいテーマを上げ、ディスカッションできるように進化する。ディスカッション後、各自フィードバック作業を行う。</p>								
教材教科書参考書	<p>①精神保健福祉実習の手引きの一部抜粋（配布予定） ②山本深雪、他（2005）「知っていますか？精神障害者問題一問一答」解放出版社（ISBN4-7592-8247-5）</p>								
留意点	<p>この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。</p>								

科目名	精神保健福祉実習指導Ⅱ	科目コード	W35005		単位数	2単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-07.		時間	30時間				
区分	社会福祉専門教育科目 選択 精神保健福祉士指定科目 必修	担当者名	葛西 久志				授業 形態	講義	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 精神保健福祉実習は精神障害者の理解に始まり、制度理解、社会福祉全般の知識や精神保健福祉の援助技術など講義、演習で学んだことを活用する。実習後は、実習計画にあげた課題の成果をふりかえりながら総括し報告書を作成する。また、在学生、教員、実習指導者も招いて公開報告会も実施する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達 目標	精神保健福祉の臨床現場における実習を通して、各実習機関（精神科病院、障害福祉サービス事業所など）の役割、機能を把握する。また、最も大切なことは精神障害者への支援・援助を通して、自己理解を深め、気づきのある実習にすることと精神保健福祉士の役割とは何かを学ぶことである。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備 考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備 考			
第1回	精神保健福祉実習 オリエンテーション	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解①		第16回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第2回	精神保健福祉実習	実習先で必要とされる精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術に関する理解②		第17回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第3回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解①		第18回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第4回	精神保健福祉実習	精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解②		第19回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第5回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）①		第20回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第6回	精神保健福祉実習	実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（個人情報保護法の理解を含む）②		第21回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第7回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解①		第22回	精神保健福祉実習	事例検討（グループスーパービジョン）	ディスカッション			
第8回	精神保健福祉実習	「実習記録ノート（日誌）」の記録内容及び記録方法に関する理解②		第23回	精神保健福祉実習	実習評価に関する統括（個人面談）				
第9回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項①		第24回	精神保健福祉実習	実習評価に関する統括（個人面談）				
第10回	精神保健福祉実習	事前訪問と確認事項②		第25回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第11回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成・確認		第26回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第12回	精神保健福祉実習	実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成・確認		第27回	精神保健福祉実習	実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成				
第13回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第28回	精神保健福祉実習	実習報告会等準備作業・プレゼン方法の理解				
第14回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第29回	精神保健福祉実習	実習報告会				
第15回	精神保健福祉実習	巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）と面談方法について	実習Ⅰ期	第30回	精神保健福祉実習	実習報告集作成の仕上げ				
評価 方法 及び 評価 基準	実習に関する取り組み状況（実習計画書、他）と総括報告書（50%）や、実習機関からの実習評価（50%）で総合評価する。精神保健福祉実習Ⅰ・Ⅱと事前学習、事後学習から精神保健福祉士の専門性をどのように理解したか、また自己覚知したかを評価する。									
課題等	毎回課題（実習先機関の機能・役割、各種制度など）を与え、資料作成と報告をする。実習計画書を作成し、実習先との打ち合わせを行う。実習修了後は、スーパービジョンを行い、その後は実習総括書を作成し、報告会を実施する。									
事前 事後 学習	事前学習では、「精神保健福祉実習の手引き」を読む。実習に向けた資料を理解し実習Ⅰ期に臨む。実習Ⅰ期終了後は、振り返りを行い実習Ⅱ期に向けて準備する。実習Ⅱ期終了後は、自己覚知について検討する。									
教材 教科書 参考書	本学の「精神保健福祉実習の手引き」と資料を配布する予定である。									
留意点	この科目は、精神保健福祉士の受験資格取得のための指定科目である。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44105		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	石田 和男				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 本テーマである「動物性」（アニマリティ）は、欧米では動物倫理、ダイバーシティ、環境論、動物行動論と、多様な領域で研究されている。そして、いまや農福連携において重要なテーマとなっている。共感性や感情移入という新たな人類の能力であるEQの開発が求められている。 〔ティプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 また、エンパシー(Empathy)の理解をすすめる。 それが他者性（ジェンダー、子ども、外国人、動物、障がい者）の理解へと向かう。</p>									
到達 目標	<p>テーマそれ自体に関する理解にとどまらず、それをいかに掘り下げ、再構成し、伝えられるかといった方法論をめぐっても、より精通することを目指す。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考	回	主 題	授業内容（授業時間外の学修を含む）	備考			
第1回	訪問	動物学の世界観、環世界		第16回	ノロジカの出現	動物世界の何かに接触				
第2回	昼食の食卓にて	モザイクの問題；全体と部分		第17回	接近	人間と獣の間の限界				
第3回	あずまやにて	形式と意味、知覚標識		第18回	獣たちの場所	神々はそこにいる				
第4回	川原にて	バラ生物学的局面、環世界間交流		第19回	失われた内奥性	旧石器時代の絵				
第5回	ドラマとしての生	生存競争、向目的変異		第20回	寓話からの解放	動物の思考				
第6回	役割、生の場面	ダーウインの進化論、生のドラマ		第21回	開かれた世界	闘の経験、脱人間中心主義				
第7回	館の池の畔にて	役割のための衣装、器官の身体		第22回	目を瞪る能力	アウラのシステム				
第8回	構成のトーン	生命のメロディー、構造化か総譜		第23回	形成をめぐって	リルケとハイデガー				
第9回	種の起源	存在形式全体の変容		第24回	考える人	テンブルムと鳥たち				
第10回	遠乗り	知覚と認識、シェーマー意味信号		第25回	思考不可能なもの	「アントン・ライザー」の彷徨				
第11回	夕食の食卓にて	パブロフの反射、空間の勾配		第26回	動物たちの視覚	アホロートルとの出会い				
第12回	海辺のテラスにて	感覚能力、想像能力、論理能力		第27回	植物の形態	種子と果実という生				
第13回	二人の論戦	動物学者の象徴、生物学者の象徴		第28回	動物の形態	従属栄養生物の形態的展開				
第14回	第3日	スーパーマンの形成体		第29回	ロバのまなざし	カラヴァッジョの思考性の次元				
第15回	洞窟の比喩	人間の環世界		第30回	犬のまなざし	ビエロ・ディ・コジモのまなざし				
評価 方法 及び 評価 基準	<p>授業への参加度20%、ミニテスト40%、定期試験40% 毎回、授業で発表者をつくる、その際に発表内容をレポートとして提出すること。ミニテストは2回行う。授業内容の理解度と表現力があるかを評価対象とする。定期試験では総合的に見て理解度がどこまでいっているか評価する。</p>									
課題等	<p>各回の主題についてテキストを読み、イメージを作る。後にノートを提出（週に1回）</p>									
事前 事後 学修	<p>授業では理解できないことを発信し、クリアにする。それを復習で文章化すること。</p>									
教材 教科書 参考書	<p>『思考する動物たち』J・C・バイイ、出版館ブッククラブ。 『生命の劇場』ヤコブ・フォン・エクスキュル、講談社学術文庫、ISBN:978-4-06-292098-8</p>									
留意点	<p>ジャンルにとらわれない思考を獲得するのに格好の機会となるでしょう。 毎回、テーマに関する印象を絵や詩で表現する。そのための白紙のノート持参のこと。</p>									

科目名	専門演習 I		科目コード	W44101		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	大野 拓哉				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 各自が年間を通じて取り組みたいテーマを見つけ、発表し、討論を通じて一定の結論に到達できるようにする。担当者の専門は法学（憲法学）であるから、社会福祉の専門的な知見を期待されても応えることは難しいかもしれないが、社会福祉の実践と密接に関わる人権論や、そもそもの学問としての論理性といった部分では、多少なりとも有益な関わりができるかもしれない。履修者の人数次第だが、基本的には、毎回のレジュメ作成と発表を義務づけたい。また、単に、他人の発表の聞き役におさまることなく、積極的に質疑応答を重ねていくことも期待したい。司会等が履修者によって行われることも期待したい。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している</p>										
到達 目標	<p>テーマに関する表面的な理解で満足せずに、そこからどういった問題に派生していくか、どういう問題が解明できるかなどを根気よく追求する力を身につけることを目指す。喩えていえば、ゴールではなくスタートラインとなることを目指す。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修 備考			回	主 題	授業内容・授業時間外の学修 備考				
第1回	ガイダンス	何を研究したいか？			第16回	課題の再検討	テーマの再検討				
第2回	ガイダンス	何を研究したいか？			第17回	課題の再検討	テーマの再検討				
第3回	課題の設定	テーマの設定			第18回	発表と討論	発表と討論				
第4回	課題の設定	テーマの設定			第19回	発表と討論	発表と討論				
第5回	課題の追求	論理の組み立て			第20回	発表と討論	発表と討論				
第6回	課題の追求	論理の組み立て			第21回	発表と討論	発表と討論				
第7回	発表と討論	発表と討論			第22回	発表と討論	発表と討論				
第8回	発表と討論	発表と討論			第23回	発表と討論	発表と討論				
第9回	発表と討論	発表と討論			第24回	発表と討論	発表と討論				
第10回	発表と討論	発表と討論			第25回	発表と討論	発表と討論				
第11回	発表と討論	発表と討論			第26回	発表と討論	発表と討論				
第12回	発表と討論	発表と討論			第27回	発表と討論	発表と討論				
第13回	発表と討論	発表と討論			第28回	発表と討論	発表と討論				
第14回	発表と討論	発表と討論			第29回	発表と討論	発表と討論				
第15回	総括	前期の振り返り			第30回	総括	年間の振り返り				
評価 方法 及び 評価 基準	特に試験等は実施しないが、主に各自の発表や討論への取り組みを評価の対象とする。										
課題等	特になし										
事前事後学修	事前については、特に発表の準備を綿密に行うこと。事後については、他者の発表で得られた知見をしっかりと理解し、自分のものにする。										
教材 教科書 参考書	特に指定しない。										
留意点	特定の事柄について強い関心や豊富な知識を持っていることは要求しないが、何事についても問題意識が希薄な学生は履修を遠慮するのが得策かもしれない。										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44102		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間					
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	葛西 久志				授業 形態	演習	単独		
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 障害者の権利（解放出版社）からテーマを取り上げ研究レポート作成し発表する。また、現場に向き障害者や支援者と交流し、問題意識を高める。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの1、4に関連する。</p>										
到達 目標	専門演習を通してコミュニケーション力を養い、実践力を身につける。また、様々な問題について自己の考えをまとめ論述し、プレゼンテーションする方法を習得する。										
授業計画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	前期オリエンテーション	オリエンテーション（自己紹介+αなど）	プレゼン&グループワーク	第16回	後期オリエンテーション	オリエンテーション（夏期休暇の振り返りなど）	プレゼン&グループワーク				
第2回	グループワーク①	グループワークを行い、学生間のグループダイナミクスを理解する。	プレゼン&グループワーク	第17回	障害者の権利（パリアフリー法とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第3回	障害者の権利（出生前診断の是非）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第18回	障害者の権利（意思疎通困難者の生活支援とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第4回	障害者の権利（合理的配慮とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第19回	障害者の権利（難病法とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第5回	障害者の権利（聴覚障がいとは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第20回	障害者の権利（社会的入院の背景）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第6回	障害者の権利（障がい者雇用とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第21回	障害者の権利（知的障がい者とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第7回	障害者施設見学	就労継続支援施設の見学・レポート	プレゼン&グループワーク	第22回	障害者の権利（発達障がいとは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第8回	障害者の権利（重度障がい者雇用とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第23回	障害者の権利（高次脳機能障がいとは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第9回	障害者の権利（施設コンフリクトとは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第24回	障害者の権利（障がい者関連法の改正とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第10回	障害者の権利（成年後見人制度とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第25回	障害者の権利（差別用語とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第11回	障害者の権利（重度障害者の生活支援とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第26回	レク行幸（クリスマス）		プレゼン&グループワーク				
第12回	障害者施設見学②	就労支援事業所の見学・レポート	プレゼン&グループワーク	第27回	障害者の権利（人権運動とは）	気になる時事問題、事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク				
第13回	障害者の権利（重度障がい者の生活支援とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第28回	障害者施設見学③	就労支援事業所の見学・レポート	プレゼン&グループワーク				
第14回	障害者の権利（尊厳死とは）	事前学習からのプレゼンと、レクチャーによる解説	プレゼン&グループワーク	第29回	まとめレポートテーマの検討	各自テーマを決めまとめる	プレゼン&グループワーク				
第15回	障害者施設見学②	グループホームの見学・レポート	プレゼン&グループワーク	第30回	まとめレポート報告	各自テーマについて報告する	プレゼン&グループワーク				
評価 方法及び 評価 基準	出席が3分の2に満たない者は評価の対象としない。レジュメ作成・報告（70%）と、レポート課題（30%）で評価する。各テーマを事前学習し、課題を探しまとめ、自分自身の考えを導き出してプレゼンしたものを評価する。また最終的には障害者の権利についてレポートとしてまとめ報告したのもも評価する。										
課題等	毎回課題別テーマをまとめ、プレゼンテーションする。メンバー内でのディスカッション後、フィードバック作業し理解を深める。										
事前事後学修	事前学習では、テキストの課題別テーマをまとめる。専門用語や制度・政策で不明な点についても下調べする。話し合うテーマについて、取り上げた理由を示し、ディスカッション後フィードバックする。										
教材 教科書 参考書	DPI（障がい者インターナショナル）日本会議編（2016）「知っていますか？障害者の権利一問一答」解放出版社（ISBN978-4-7592-8285-6）										
留意点	提出物の期限などを厳守する。障害者福祉サービス事業所、グループホームなどの見学を行う予定である。										

科目名	専門演習 I		科目コード	W44204	単位数	4単位	対象	3年	開講	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H	時間	60時間	学年		学期	
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸			授業形態	演習	単独	
授業の概要	〔授業の主旨〕 レポート作成に必要な文献調査やインタビュー調査などの基礎的な知識を修得した後、各自が地域福祉に関する研究テーマを設定して自主的な調査活動を行う。また、その調査結果の中間報告・討論を通じて完成度を高めていく。具体的流れとして前期は、文献収集やインタビュー・参与観察法・アンケート等の様々な調査手法があることを再確認することからはじめる。その上で、興味のあるテーマを設定し、調査するとしたらどんな手法が適しているのか、どのようなデータが必要なのか、といったあたりを皆で話し合っていく。後期には、興味・関心のある分野のテーマを各自が設定し、調査活動に入り、適宜報告しあう。									
	〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1, 2, 3に関連し、カリキュラムポリシーの1, 2, 4に関連する。									
到達目標	総仕上げとして調査結果のレポートを作成することが目標となる。また、専門演習Ⅱ(卒業研究含む)へスムーズな接続ができるよう、卒業研究の研究計画書(3年次終了時点での下書き)を仕上げることも目標となる。									
授業計画										
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ブレイン・ストーミングとKJ法による価値交流	ゼミ生同士の信頼関係づくりのため価値交流ゲームを通じた討論	グループワーク	第16回	情報収集した結果を報告し、討論①	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第2回	厚生労働省ほか関係機関のホームページから入手できるデータについて	行政機関が発表する統計データや最新の政策動向を把握する力を養う(次回までに文献調査から得られたことを発表できるようにレポート作成)	Web利用による各自書庫閲覧	第17回	情報収集した結果を報告し、討論②	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第3回	いろいろな「白書」から学ぶ	行政機関が発表する統計データや最新の政策動向を把握する力を養う(次回までに白書調査から得られたことを発表できるようにレポート作成)	Web利用による各自書庫閲覧	第18回	情報収集した結果を報告し、討論③	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第4回	各自興味をもったことを持ち寄り、簡単に報告する(意見交換会)	2, 3回の各種白書から得られた知識を報告しあう(次回までに調べてみたい興味の湧いた分野を決める)	グループワーク	第19回	情報収集した結果を報告し、討論④	夏休みに調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第5回	各自興味をもった分野について、更に詳しく図書館で専門書を使って調べる	各自興味をもった分野について、更に詳しく図書館で専門書を使って調べる(次回までにどんな書籍があり先行研究となっているかレポート)	Web利用による各自書庫閲覧(卒業研究含む)	第20回	これまでの小括	調査結果の発表と質疑応答で得られたこと、再調査の必要性について話し合う	グループワーク			
第6回	量的データに関心をもつ	担当教員が行った調査結果を事例に量的データから得られるものを学ぶ		第21回	研究分野が近い学生同士が班になり共同調査に向けて意見交換	研究分野が近い学生同士が班になり共同調査に向けて、テーマ設定のため話し合う	グループワーク			
第7回	厚労省による各種統計データをみる	量的調査結果について興味をもったことを踏まえ、厚労省による各種統計データをみる	Web利用による各自書庫閲覧	第22回	共同調査での経過報告①	調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第8回	どのように統計処理されていたか確認	前回事例としたデータは、どのように統計処理されていたか確認する		第23回	共同調査での経過報告②	調査した結果について報告しあう。発表2人、質疑応答。(※)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第9回	観察調査、インタビュー調査などで得られるデータと統計データの違いを感じる	質的データの理解。観察調査、インタビュー調査などで得られるデータと統計データの違いを感じる(次回までに各種調査方法の概要と自分の興味のある手法についてレポート)	グループワーク	第24回	経過報告会での質疑応答を踏まえて、自分の研究計画の練り直し	これまでのゼミ生の各テーマについての報告と質疑応答から学んだことを踏まえて、自分の研究計画の練り直し(次回まで研究計画書を書いて持参)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第10回	いろいろな調査で得られたデータの分析方法について話し合う	自分が興味を持った調査手法について発表しあう	プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	データ集め	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。	プレゼンテーション・ディスカッション			
第11回	レポートの書き方について	レポートの書き方について再確認する		第26回	データの分析や解釈等について討論	データの分析や解釈等について討論する	ディスカッション			
第12回	研究計画の立て方について	研究計画書のサンプルを用い、夏休みに行う調査の構想を練る(次回までに研究計画書下書きを完成させて持参)	プレゼンテーション	第27回	研究レポート執筆状況報告①	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第13回	夏休みに調べるテーマの設定	前週に引き続き、夏休みに行う調査の構想を練る(ゼミ生からの助言を踏まえ研究計画書の修正をしておく)	プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	研究レポート執筆状況報告②	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第14回	上の調査計画を発表し、皆で討論	夏休みに行う調査と、その成果として得られそうなことについて話し合う	プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	研究レポートの概要の報告会	調査に入り、何をどこまで得ているか中間発表。(※発表者はレジュメを準備する)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第15回	ゼミ前半の振り返り	前半の振り返りと調査結果のレポート提出方法について説明	グループワーク	第30回	一年間の学習成果の振り返り	一年間の学習成果の振り返りと、総仕上げとして調査結果のレポートを提出。				
評価方法	平常点(講義への参加態度)50%、調査レポート50%で評価する。学んだ知識の定着具合をみるため毎回教員が学生に質問して返答をもらう。自分の考えを論理的に発表できるように集中して聴くようにしてもらいたい。また、興味のある領域について調査しレポートを作成してもらおう。このレポートについては、関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。									
課題等	興味のある領域について調査しレポートを作成してもらおう。									
事前事後学修	「授業計画」で示した各回の主題や授業内容について、図書館を活用して参考書を調べたり、インターネット情報検索により調べたりすること。事前準備学習を1日あたり30分以上行うこと。復習は当該回の配布プリント及び教員がその授業回で紹介する参考書の該当部分等を読み返すこと。復習は毎回90分以上行うこと。									
教材教科書参考書	その都度資料を配布し、学生の興味のあるテーマに沿って必要な参考書を紹介する。									
留意点	調べてきてくれた仲間の発表をじっくり聞き、楽しく討論することを心がけてください。自分の発表の授業時間を欠席することは、厳に慎んでください。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44104		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	松本 郁代				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 日本における社会福祉のあゆみのうち、社会事業と社会福祉の時期の理論について、文献を読む。その際、指定した文献に掲載されている参考文献や引用文献についても、検索し講読する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 多くの文献検索し、その所蔵先を確認し、取り寄せて読むことを繰り返すことから、丹念に調べる力を身につけることとなる。</p>									
到達 目標	日本における社会事業理論・社会福祉理論について知る。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	社会事業理論史について①	社会福祉理論を歴史的にみる		第16回	社会事業理論の成立①	社会事業対象論・社会行政論				
第2回	社会事業理論史について②	大河内一男・孝橋正一・仲村優一		第17回	社会事業理論の成立②	海野幸徳・山口正・三好豊太郎の思想				
第3回	社会事業理論史について③	社会福祉理論と社会福祉論		第18回	社会事業理論の成立③	社会連帯「左派」の社会事業論				
第4回	日本における慈善・救済論の系譜①	日本仏教の慈善論		第19回	社会事業理論の成立④	唯物弁証法的社会事業論・ケースワーク論の導入とセツルメント論				
第5回	日本における慈善・救済論の系譜②	近世儒学の救済論		第20回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論①	社会科学者の社会事業論				
第6回	産業革命期の社会改良・慈善事業論①	下層社会の調査研究、明治の救済論		第21回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論②	戦時厚生事業論				
第7回	産業革命期の社会改良・慈善事業論②	明治期の社会改良論		第22回	戦時下における社会事業理論の形成、厚生事業論③	個別生活指導論・地域厚生事業論				
第8回	産業革命期の社会改良・慈善事業論③	留岡幸助の思想、近代的施設処遇論		第23回	戦後の社会事業論①	敗戦後の貧困研究				
第9回	帝国主義形成期の救済論①	貧困論・救済事業論		第24回	戦後の社会事業論②	孝橋正一・岡村重夫・竹中勝男				
第10回	帝国主義形成期の救済論②	井上友一・小河滋次郎の思想		第25回	戦後の社会事業論③	行政関係者の社会事業論、社会事業の方法技術論				
第11回	帝国主義形成期の救済論③	宗教者の慈善・救済論		第26回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論①	生活論と貧困論				
第12回	大正デモクラシー期の社会事業論①	『貧乏物語』・『女工哀史』		第27回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論②	高度成長期の社会福祉論				
第13回	大正デモクラシー期の社会事業論②	大正期民主主義者の社会事業論		第28回	高度成長・減速経済期の社会福祉理論③	真田是・一番ヶ瀬康子・高島進				
第14回	大正デモクラシー期の社会事業論③	内務省社会局官僚の社会事業論		第29回	現在の社会福祉理論①	社会福祉改革を巡って				
第15回	大正デモクラシー期の社会事業論④	宗教者の社会事業論、方面委員制度、地域社会事業論		第30回	現在の社会福祉理論②	新政策論、社会福祉方法論の統合化理論				
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点とレポートを3対1の割合で評価する。									
課題等	その都度、指示をする。									
事前事後 学修	社会福祉発達史で使用した教材・ノートを持参すること。毎回指示する文献を演習前に読んでおくこと。									
教材 教科書 参考書	吉田久一（1995）『日本社会福祉理論史』勁草書房 ISBN:4-326-65186-5									
留意点	社会福祉発達史を履修していることが望ましい。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44205	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09.H	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	棟方 達也			授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>このゼミでは、社会福祉に関する直接的、専門的な内容は主題としていない。専門に扱うのはアウトドアスポーツである。情報収集や文献研究は勿論だが、実技（実践）を重視し、アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。</p> <p>【対象となりうる主な種目】スノースポーツ、シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>								
到達目標	<p>・年3回の実習全てに参加する。 ・1つの活動を計画から実践を経て報告書にまとめあげ発表して完結させる。 ・専門演習Ⅱを目指す人は、卒業研究に向けてアウトドアスポーツに関するテーマの絞り込みをスタートする。</p>								
授業計画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	年間計画	季節に応じた種目選択と実施計画	受講希望者を考慮	第16回	夏実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）			
第2回	アウトドアスポーツ実践の基礎	情報収集と情報の活用		第17回	秋実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他			
第3回	アウトドアスポーツ実践の基礎	アウトドア系専門用語（報告に向けた下調べ）		第18回	秋実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他			
第4回	アウトドアスポーツ実践の基礎	装備の活用と管理（報告に向けた下調べ）		第19回	秋実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段 その他			
第5回	アウトドアスポーツ実践の基礎	食材・食品の知識と活用（報告に向けた下調べ）		第20回	秋実習	〔例〕山岳活動、サイクリング等から1種目			
第6回	アウトドアスポーツ実践の基礎	現地情報とその分析		第21回					
第7回	アウトドアスポーツ実践の基礎	ロープワーク、安全対策 その他（報告に向けた下調べ）		第22回	秋実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）			
第8回	アウトドアスポーツ実践の基礎	読図&コンパスワーク その他（報告に向けた下調べ）		第23回	共通演習4	映像、画像の扱い方（データの収集）			
第9回	アウトドアスポーツ実践の基礎	各種計画法:食料、装備、行動 その他		第24回	冬実習のための基礎知識と情報収集1	装備、安全対策 その他(必要に応じて事前実践学習)			
第10回	アウトドアスポーツ実践の基礎	傷害と救急処置（反復練習）		第25回	冬実習のための基礎知識と情報収集2	用具と技術(必要に応じて事前実践学習)			
第11回	夏実習のための基礎知識と情報収集1	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他(種目選択)		第26回	冬実習の計画と準備	種目、日程、装備、食事、交通手段 等について			
第12回	夏実習のための基礎知識と情報収集2	種目に応じた装備、安全対策、基礎技術、現地情報 その他		第27回	冬実習	スノースポーツ			
第13回	夏実習の計画と準備	日程、装備、食事、交通手段、個別活動等について		第28回					
第14回	夏実習	〔例〕シーカヤック、スクーバダイビング、山岳活動、サイクリング 等から1種目以上		第29回	冬実習総括	報告書作成と発表（行動記録、データ等の整理、ppt.準備）			
第15回				第30回	年間総括	全体の振り返り、補足及び専門演習Ⅱへ向けて			
評価方法及び評価基準	出席状況及び実習実施状況（3回の実習を全てクリアすること。夏休み中、社会福祉実習等で参加できない場合は、他の日程や内容で代替実施する場合もある。）：50% 報告及び発表：50% 求められる内容を正しく理解し、指定された形式でまとめられているかを評価する。活動への積極性を重視する。								
課題等	アウトドアにおける様々な活動の計画、準備、実践、記録、報告等を通して課題の設定からその解決方法を模索し結論に到達する過程を学ぶ。								
事前事後学修	全ての事前学修は、実践（実習）を前提としている。また、実践（実習）後の総括（報告）は、次の実習の土台となる。								
教材教科書参考書	種目により、必要に応じてその都度、指定または提供する。								
留意点	原則、人間科学コース所属の学生を前提としている。内容が特殊であるので、登録前に必ず面談し適性や内容の確認をすること。土日や長期休業期間を利用した学外活動が多く、交通費や装備費等の実費負担も相応にあります。アウトドアと運動が好きであれば、性別、経験、運動能力は問いません。但し、喫煙者お断り。※1～2年次において、スポーツ科学実技の中の指定科目（シラサスの「授業の概要」参照）を1つ以上受講していることが望ましい。								

科目名	専門演習 I		科目コード	W44201		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	小川 幸裕				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>[授業の主旨] ソーシャルワーク、独立型社会福祉士、社会福祉士、権利擁護に関する文献を講読する。毎回、担当者を決め担当箇所のレジメを作成する。作成したレジメをもとに報告を行い、それについて全体で討論する。 [ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項] ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2及び4に関連している。</p>										
到達 目標	<p>(1) ソーシャルワークに関する文献を読むことができる。 (2) 社会福祉士の活動について説明できる。 (3) 社会課題の背景と構造についてソーシャルワークの視点から説明できる。 (4) 社会課題への対応についてソーシャルワークの視点から説明できる。</p>										
授 業 計 画											
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考		
第1回	オリエンテーション	1) 演習授業の進め方の説明 2) グループワークの心構え			第16回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第2回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第17回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第3回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第18回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第4回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第19回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第5回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第20回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第6回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第21回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第7回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第22回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第8回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第23回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第9回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第24回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第10回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第25回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第11回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第26回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第12回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第27回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第13回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第28回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第14回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第29回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
第15回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第30回	文献購読、報告および 議論	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション		
評価 方法 及び 評価 基準	<p>レジメ作成50%、報告50% レジメの作成は、ソーシャルワークおよび独立型社会福祉士に関する先行研究の収集および整理、構成と文章力、その内容の論理性などをルーブリックを用いて評価する。 報告は、発言頻度やその内容を評価する。</p>										
課題等	フィードバックとして報告内容やレジメについてコメントを返します。										
事前事後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。										
教材 教科書 参考書	テーマの設定後に決定する。										
留意点	卒業論文の執筆に向けて、自分自身のテーマを見つけ、それを文章および文字で表現するという作業に丁寧に取り組むことを期待する。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44303		単位数	4単位	対象 学年	3年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	藤岡 真之					授業 形態	演習	単独
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 本演習では、文章の読解、および文章の執筆という作業を通して、論理的思考力を養成する。前期は、社会学系の文献（社会問題、社会意識、コミュニケーション、ネットワーク等の分野）を講読し、後期は、自らの関心に基づいて設定したテーマについて、小論文を作成する 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 カリキュラムポリシーの3、ディプロマポリシーの2、3に関連している。</p>									
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> 文章を読む力をつける 自分の関心を掘り下げ、問いを設定できるようになる 論理的な文章を書けるようになる 									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第2回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第17回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第3回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第18回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第4回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第19回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第5回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第20回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第6回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第21回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第7回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第22回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第8回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第23回	小論文のテーマ、方法の検討	小論文で扱うテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション			
第9回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第24回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第10回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第25回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第11回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第26回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第12回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第27回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第13回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第28回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第14回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第29回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
第15回	文献の講読、議論	文献を精読し、議論をする	ディスカッション	第30回	小論文の執筆・推敲	小論文を執筆する				
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、報告、小論文を総合的に評価する									
課題等	課題の検討は授業時間内に行う									
事前事後学修	使用するテキストを読んで、理解を深めてください。準備学習時間の目安：週当たり3時間程度。									
教材 教科書 参考書	講読する文献は、事前の合同ゼミ説明会の際に提示する。									
留意点										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44302	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H	時間	60時間					
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	柘植 秀通				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕児童福祉において、遊びという要素は、年齢・障害のあるなしを問わず重要です。この授業では、そうした遊びについて、地域の子どもたちと実際の交わりを通して経験していくことを中心とする。その経験を通して、さらに理論構築もできるように努める。また、他の団体が行う子どもとの交わりのプログラムにも参加する予定であるので、特に他の団体の方々との交わりや、計画への参加も行う。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2に関連する。</p>									
到達目標	福祉施設の子どもたちの遊び指導において、実際に活動できるだけの知識と技能を身につける。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	授業の概要紹介		第16回	遊び指導 1 3	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク			
第2回	相互交流	グループで、ゲーム等を通して、まず学生同士が交流を行う。	グループワーク	第17回	遊び指導 1 4	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク			
第3回	遊び指導 1	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第18回	遊び指導 1 5	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク			
第4回	遊び指導 2	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第19回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	グループワーク			
第5回	遊び指導 3	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第20回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	グループワーク			
第6回	遊び指導 4	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第21回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	グループワーク			
第7回	遊び指導 5	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第22回	遊びの会の計画立案	自分たちで行事としての遊びの会を計画する	グループワーク			
第8回	遊び指導 6	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第23回	遊びの会1回目	焼き芋会などの会を開催する。	グループワーク			
第9回	遊び指導 7	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第24回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	グループワーク			
第10回	遊び指導 8	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第25回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	グループワーク			
第11回	遊び指導 9	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第26回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	グループワーク			
第12回	遊び指導 1 0	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第27回	宿題の会の計画立案	地域の町内会さんと協働で、宿題の会の計画立案を行う。	グループワーク			
第13回	遊び指導 1 1	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第28回	宿題の会 開催	地域の町内会さんと協働で、宿題の会を行う。	グループワーク			
第14回	遊び指導 1 2	地域の子どもたちと、実際にふれあい、遊びを体験する	グループワーク	第29回	振り返り	一年の振り返りを行う				
第15回	振り返り	前期を振り返り、遊びの意味について考察する。	グループワーク	第30回	振り返り	一年の振り返りを行う				
評価方法及び評価基準	授業への参加度50%。実績50%。実績は、児童たちとの関わりの中で、どれだけ積極的に関係を築き、意図的に関与していたかを評価。また、その振り返り等において、どれだけ改善への意欲と分析を行えたかにおいて評価する。									
課題等	随時、終了時に課題を提供し、次回までに提出する。									
事前事後学修	児童と、どのように遊べたか、また、その次には、どのようにしていけばよいかを学ぶ。1時間程度を目安とする。									
教科書	特になし。									
留意点	児童と直接に交わって遊ぶ機会を作ります。まず、何よりも真剣に児童と遊び、積極的に考えることが出来るようにすることを求めます。特に、子どもたちと交わろうとの意欲のない（能力不足による関わりの少なさは対象としません）学生については、年度途中でも授業への参加を拒否しますので、注意してください。また、遊びの会を土曜日や休日、できれば2～3回行いたいと思いますので、土曜日・休日にも出てくるのが可能な人が来てください。									

科目名	専門演習 I	科目コード	W44304		単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H		時間	60時間					
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	立花 茂樹				授業形態	演習	単独		
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 非行、発達障害、児童虐待など現代の学校教育の抱える様々な課題を文献講読を通して捉える。次いで、我が国の学校教育に対する疑問や関心ある事項を基に学生自身が設定したテーマを追究し、その成果をレポートにまとめる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの3及びカリキュラムポリシーの4に関連する</p>										
到達目標	<p>1 文献講読や学生同士の話し合いにより学校教育を取り巻く現状と課題を捉え、その解決に向けた自身の考えを研究レポートにまとめ、発表する。</p> <p>2 研究主題の設定から研究報告までの一連の活動を進めるための基本事項を修得し、卒業研究につなげる。</p>										
授業計画											
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考				
第1回	オリエンテーション	演習の進め方について説明する		第16回		研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(1)					
第2回				第17回							
第3回				第18回		テーマ追究の進捗状況の報告と意見交換を行う(1)					
第4回				第19回	テーマの追究	研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(2)					
第5回	課題図書① 宮口幸治(2019) 『ケーキの切れない 非行少年たち』新潮社			第20回		テーマ追究の進捗状況の報告と意見交換を行う(2)					
第6回				第21回							
第7回		課題図書の講読とメンバー同士の話し合い活動を通して、我が国の学校教育が抱える問題点を整理し、理解する		第22回		研究計画に基づく、学生一人一人のテーマ追究を行う(3)					
第8回	課題図書② 友田明美(2017) 『子どもの脳を傷つける親たち』NHK出版			第23回		研究成果のまとめとレポート作成を行う					
第9回				第24回		レポート概要の報告と協議を行う(1)					
第10回				第25回	レポート作成	レポートを修正する					
第11回				第26回		レポート概要の報告と協議を行う(2)					
第12回				第27回		レポートの最終稿を作成する					
第13回		各自のテーマと研究計画を構想する		第28回	発表会準備	プレゼンテーション資料の作成と発表リハーサルを行う					
第14回	学生個々のテーマと研究計画の設定	個人テーマと研究計画を発表し、意見交換をする		第29回	発表会	研究成果発表と質疑応答を行う					
第15回		個人テーマと研究計画を確定する		第30回	全体まとめ	研究発表の反省と全体まとめを行う					
評価方法及び評価基準	<p>○演習への参加状況 50%、レポート・発表 50%で評価する。</p> <p>・演習への参加状況は、主体的な授業参加の姿勢に加えて、企画力、課題発見力、情報活用能力などを中心に評価する。</p> <p>・レポートは、課題設定の着眼点、文章構成と文章力、論理性について評価する。</p> <p>演習への参加状況、レポートの評価は、別添の評価基準表により行う。 ※欠席は1回につき2点を減ずる。</p>										
課題等	レポート集を作成するので、できるだけパソコン等を用いて作成し、電子データの提出に協力してほしい。										
事前事後学修	<p>予習：指定された課題図書の指定箇所をよく読み、自身の考えを持って授業に臨むこと。</p> <p>また、発表担当者は責任をもってレジュメを作成し、ゼミ当日の昼までに提出すること。</p> <p>復習：授業で出された課題や疑問点について、自身の考えをまとめること。</p>										
教材教科書参考書	<p>教科書：宮口幸治(2019)『ケーキの切れない非行少年たち』新潮社 ISBN978-4106108204</p> <p>友田明美(2017)『子どもの脳を傷つける親たち』NHK出版 ISBN978-4140885239</p> <p>研究方法やレポートの執筆方法等については、適宜資料を配布する。</p>										
留意点	授業時間外におけるメンバー間の討議や、オフィサーを利用して教員に相談するなど、積極的に課題追究を行うように心がけてほしい。										

科目名	専門演習 I	科目コード	W44305	単位数	4単位	対象学年	3年	開講学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF2-09. H	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	丸山 龍太				授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>[キーワード： 貧困、スティグマ、生活保護]</p> <p>専門演習 I では、履修者自ら卒業論文執筆に向けてのテーマの設定を行い、研究活動を行う中で、考察を深めることを目的とする。私は、キーワードに記した分野を研究領域としている為、これらに関心のある方を特に歓迎したい。</p> <p>[ディプロマポリシー（以下DP）及びカリキュラムポリシー（CP）との関連] DP 1, 2, 3 CP 2, 4に関連する。</p>								
到達目標	<p>自らが興味関心のある社会福祉学に関する事柄から研究テーマを設定し、その発表と討論、その後、再テーマ設定と再発表、再討論を繰り返す。この繰り返しから、お互いに社会福祉学の現状と課題に関し理解と考察を深めることができることを目標とする。</p>								
授業計画									
回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	オリエンテーション	専門演習を始めるにあたってのオリエンテーションを行う		第16回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	グループワーク		
第2回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する	グループワーク	第17回	テーマ設定	前期を踏まえ、研究テーマの再設定等を行う	グループワーク		
第3回	研究方法	研究を進める上での方法を理解し、実際に活用する	グループワーク	第18回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第4回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する	グループワーク	第19回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第5回	テーマ設定	自ら学びを深めたい事柄を考え、研究テーマを設定する	グループワーク	第20回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第6回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第21回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第7回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第22回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第8回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第23回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第9回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第24回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第10回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第25回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第11回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第26回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第12回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第27回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション		
第13回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第28回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	プレゼンテーション		
第14回	発表と討論	研究テーマに沿った研究動向、成果等の発表と討論を行い、研究上の課題を整理する	ディスカッション	第29回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	プレゼンテーション		
第15回	前期の振り返り	これまでの研究成果を踏まえ、後期に向けた課題を整理する		第30回	論文発表会	1年間の研究を論文として発表する	プレゼンテーション		
評価方法及び評価基準	<p>試験は実施しない。各自の発表、討論の取り組み状況等、授業への参加度（100%）で評価する。</p> <p>自ら課題を設定し研究を進めることとなるので、主体的な行動が求められる。主体的な行動が難しい場合、再履修となる可能性が高まる。</p>								
課題等	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。								
事前事後学修	各自、テーマに応じてに応じて適宜指示する。								
教材教科書参考書	各自、必要に応じて適宜指示する。								
留意点	予め、この科目の履修に関する相談のない者が履修登録した場合、履修を認めない場合があるので注意すること。								

科目名	専門演習Ⅱ	科目コード	W44604	単位数 時間	4単位 60時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 必修	担当者名	石田 和男			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 [キーワード：人間の尊厳、スピリチュアリティ、ウェルフェア、公助と共助] 19世紀、20世紀、21世紀と、福祉が発展した経過の中で、キーワードに上っているテーマの一つでも用いて論文を書くこと。そのためにもキーワードを調べておくこと。それを学び、自分のテーマとすることで21世紀の福祉のテーマをマクロに捉えることができる。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に該当する。</p>								
到達 目標	自分の主体的な判断で論文のテーマを決めること。それを表現するスキルを上げる。それが他者にどう伝わるのかを工夫する。単純かつ判明に表現すること。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	論文の書き方 (1)	題目の設定		第16回	論文作成 (1)	構想と展開 1			
第2回	論文の書き方 (2)	研究の意義について		第17回	論文作成 (2)	構想と展開 2			
第3回	論文の書き方 (3)	方法の検討		第18回	論文作成 (3)	構想と展開 3			
第4回	論文の書き方 (4)	スケジュール		第19回	論文作成 (4)	レイアウト			
第5回	論文の書き方 (5)	文献蒐集		第20回	論文作成 (5)	節の検討 1			
第6回	論文の書き方 (6)	文献の検討 1		第21回	論文作成 (6)	節の検討 2			
第7回	論文の書き方 (7)	文献の検討 2		第22回	論文作成 (7)	節の検討 3			
第8回	論文の書き方 (8)	文献の検討 3		第23回	論文作成 (8)	中間発表			
第9回	論文の書き方 (9)	文献の検討 4		第24回	論文作成 (9)	記述内容の検討 1			
第10回	論文の書き方 (10)	文献の検討 5		第25回	論文作成 (10)	記述内容の検討 2			
第11回	論文の書き方 (11)	文献の検討 6		第26回	論文作成 (11)	記述内容の検討 3			
第12回	論文の書き方 (12)	文献の検討 7		第27回	論文作成 (12)	記述内容の検討 4			
第13回	論文の書き方 (13)	文献の検討 8		第28回	論文作成 (13)	引用、参考文献の整備			
第14回	論文の読み (1)	文献の講読と検討 (1)		第29回	論文作成 (14)	レジュメの作成			
第15回	論文の読み (2)	文献の講読と検討 (2)		第30回	論文作成 (15)	発表			
評価 方法 及び 評価 基準	出席、予習、発表、復習（ノートを1ヶ月事に点検）を総合的に評価する。								
課題等	主題ごとの調査をしっかりと行うこと。記録をノートにとり、後日内容を点検する。								
事前事後学修	各テーマにわたってしっかり調査+学習を要する。その上で論文作成作業へ入っていく。								
教科書 参考書	『当事者研究』熊谷晋一郎、岩波書店。ISBN:978-4-4-00-006337-1								
留意点	毎回前進する必要があるため、予習をしておくこと。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44402		単位数 時間	6単位	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.			90時間				
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	葛西 久志				授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 地域における様々な精神保健福祉問題(うつ病・自殺予防対策、アデクシオン(アルコール依存症、ギャンブル依存等)対策問題、高齢者認知症対策問題、社会的ひきこもり等)からテーマを取り上げ、研究レポートを作成する。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの全項目に関連し、カリキュラムポリシーの1、4に関連する。</p>									
到達 目標	仮テーマ設定から始まり、事前調査の中で先行研究や、様々な調査研究等から、独自性あるテーマを考え、研究目的、研究方法を明確にして、卒業論文を完成させることが最終かつ最大目標である。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	卒論執筆活動の流れ等説明		第16回	卒論指導	スケジュール、構成等の再確認				
第2回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ		第17回	卒論指導	卒論個別指導				
第3回	個人面談	スケジュール・暫定テーマ		第18回	卒論指導	卒論個別指導				
第4回	卒論指導	論文の書き方		第19回	卒論指導	卒論個別指導				
第5回	卒論指導	文献の探し方		第20回	卒論指導	卒論個別指導				
第6回	卒論指導	文献の探し方		第21回	卒論指導	卒論個別指導				
第7回	卒論指導	論文素描：仮説		第22回	卒論指導	卒論個別指導				
第8回	卒論指導	論文素描：仮説		第23回	卒論指導	卒論個別指導				
第9回	卒論指導	論文素描：研究方法		第24回	卒論指導	卒論個別指導				
第10回	卒論指導	論文素描：研究方法		第25回	卒論指導	卒論個別指導				
第11回	卒論指導	論文構成：章立て		第26回	卒論指導	卒論個別指導				
第12回	卒論指導	論文構成：章立て		第27回	卒論指導	卒論個別指導				
第13回	卒論指導	論文構成：章立て		第28回	卒論指導	卒論個別指導				
第14回	中間発表会	タイトル・序論など		第29回	卒論研究発表会	卒論研究発表				
第15回	前期まとめ	中間発表からのふりかえり		第30回	総まとめ	卒論研究発表のふりかえり				
評価 方法 及び 評価 基準	卒業論文の作成過程状況(40%)や、論文の内容(60%)などで総合評価する。テーマ設定(仮説設定)の根拠、文献収集状況、論文構成状況と、自分の考えが論理的に作成されているかをなど総合評価する。									
課題等	仮テーマに合致する内容の先行文献を選別していく。その後、本テーマを決めて、ひたすら文章を作成し、その後構成していく。中間発表で軌道修正し、さらに文章作成していきまとめる。									
事前 事後 学修	事前学習では、テーマに沿った先行文献をひたすら探し集める。文献の中からさらに、テーマに合うものを探し、章立てをプランする。その後、プランに沿って文章を作成していく。作成完了後、報告をしてフィードバック作業し終了する。									
教材 教科書 参考書	資料配布(卒業論文の書き方など)、他は適宜個別指示する。									
留意点	国家試験対策(受験対策方法、精神保健福祉に関する知識の整理)へのアドバイスも行う。									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44405	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	松本 郁代			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 日本における社会福祉の歴史について、テーマを設定し、論文もしくはレポートを執筆する。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの4に関連している。</p>								
到達 目標	卒業論文またはレポートを執筆すること。安易に「論文」「研究」という言葉を使わず、内実の伴ったものを執筆できるようにすること。								
授 業 計 画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	論文を書く前に①	論文とレポートの違い		第16回	論文のきまり	論文執筆のイロハ			
第2回	論文を書く前に②	何のために、何を書くのか		第17回	引用の示し方	参考は学会誌			
第3回	年間計画の立て方	限定された時間を論文執筆に充てる方法		第18回	参考文献・引用文の書き方	怪しい文献リストは、論文の命取り			
第4回	テーマ設定の仕方	それを勉強しないと生きていけないテーマとは？		第19回	専門用語の定義	論文で使用する用語は定義が必要			
第5回	テーマ設定の仕方	先行研究を越えて		第20回	事実と意見の分け方	事実と意見を分けよう			
第6回	先行研究の探し方	研究レビューのない論文は、論文ではない		第21回	論理的に書くには	「逆茂木」の文章とは			
第7回	先行研究の読み方	先行研究に敬意をはらう		第22回	註と見出し	註のない論文は、論文か？			
第8回	研究方法の選び方	歴史的研究は、文献研究のみ？		第23回	論文構成の実際	論文のアウトラインを作ろう			
第9回	調査的面接の実際①	インタビューをする前に		第24回	卒論の展開の仕方	卒論の限界			
第10回	調査的面接の実際②	インタビューをしてみよう		第25回	論文の点検と推敲	別の環境で推敲せよ			
第11回	研究の倫理①	研究の節度		第26回	卒論の報告・議論①	書きたいことを口頭で説明する			
第12回	研究の倫理②	「コピペ」を越えて		第27回	卒論の報告・議論②	書きたいことについて、批判をもらう			
第13回	文献検索の方法①	図書館利用方法		第28回	卒論発表の実際	書いた卒論を披露する			
第14回	文献検索の方法②	他大学などの図書館利用方法		第29回	発表論文への道	本当に「論文」になっているなら			
第15回	文献検索の方法③	公文書館利用方法		第30回	まとめ	一年間を振り返って			
評価 方法 及び 評価 基準	演習への参加度および平常点と卒論・レポートを半々で評価する。								
課題等	その都度、指示をする。								
事前事後学修	その都度、指示をする。								
教材 教科書 参考書	白井利明・高橋一郎著(2013)『やわらかアカデミズム・<わかる>シリーズ よくわかる卒論の書き方 第2版』ミネルヴァ書房 ISBN:978-4-623-06572-1 鈴木淳子(2002)『調査的面接の技法』ナカニシヤ出版 ISBN:4-88848-693-x								
留意点	社会福祉発達史を履修していることが望ましい。勝手に他の教員の指導を受けないこと。これは、アカデミックな機関におけるイロハにあたることを認識しておくこと。								

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44505	単位数	6単位	対象学年	4年	開講学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	90時間					
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	棟方 達也				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕</p> <p>卒業研究はスポーツに関するテーマを扱う。尚、研究の成果は必ずしも論文形式とは限らない。各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択して良い。従って、当然ながら、授業時間外の活動、調査、作業等も相応に求められることになる。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの2及び3に関連し、カリキュラムポリシーの3に関連している。</p>									
到達目標	卒業研究の完成									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	ガイダンス	本ゼミの受講にあたっての諸注意と確認		第16回	夏期休業中実績報告会	夏期休業前の計画をふまえた実績報告				
第2回	年間計画	卒業研究の他、演習Ⅰの実習との関わり方を含む(オブザー		第17回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第3回	卒業研究指導	テーマの確認(テーマの絞り込み)		第18回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第4回	卒業研究指導	研究形式の決定と研究計画(研究構想の提示)		第19回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第5回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第20回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第6回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第21回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第7回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第22回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備) ※状況によっては中間				
第8回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第23回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第9回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第24回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第10回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第25回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第11回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第26回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)				
第12回	卒業研究指導	経過報告と指導(報告準備)		第27回	研究成果の提出	内容確認、補足、修正 等				
第13回	卒業研究指導	中間発表準備(レジュメ準備)		第28回	研究成果確定	確認及び発表形式について				
第14回	中間発表会	ppt. その他の形式による発表(レジュメ準備)		第29回	最終発表準備	発表準備(レジュメ準備)と最終確認				
第15回	夏期休業中の計画	テーマ・研究形式に応じたスケジュールの確認		第30回	最終発表会	研究形式に応じた発表と評価				
評価方法及び評価基準	報告と中間発表: 20% 卒業研究成果: 80% 研究形式に即した内容と成果のまとめ方を評価する。 ※オブザーバーとして演習Ⅰの実習をサポートした場合は、その状況も考慮する。									
課題等	各自の設定課題、テーマに対して最もふさわしい形式(論文の他、視察・体験報告、企画、創作等)を選択する。									
事前事後学修	テーマによっては、学外での活動に多くの時間(宿泊、遠征を伴う場合もあり)を要する場合もある。									
教材教科書参考書	研究テーマ次第									
留意点	3年次の専門演習Ⅰは棟方ゼミを履修していることが望ましい。									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)		科目コード	W44504	単位数	4単位	対象学年	4年	開講学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	60時間				
区分	社会福祉専門教育科目	必修	担当者名	高橋 和幸				授業形態	演習	単独
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 専門演習Ⅰで調べた内容について更に深く掘り下げて調査を行う。たとえば、海外ではどのように対策が組み込まれているか、国内での先進事例はどうなっているか探し、あるいは地元での地道な取り組みに密着取材する等が考えられる。卒業論文として一生の思い出になるものを完成させることをねらいとする。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1.2.3に関連し、カリキュラムポリシーの1.2.4に関連する。</p>									
到達目標	自分の力で研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	演習の進め方を説明。(次回までに研究テーマを準備のこと)		第16回	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成	集めたデータと、自分の研究計画とをつき合わせて、経過報告書を作成(次回の発表に備える)				
第2回	テーマの検討	持参した研究テーマについてのレジュメを報告しあう(次回までに研究計画下書きを準備)	プレゼンテーション・ディスカッション	第17回	経過報告① ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度	プレゼンテーション・ディスカッション			
第3回	テーマの大枠を設定	研究計画下書きを報告。(次回までに先行研究の文献リストを準備)	プレゼンテーション・ディスカッション	第18回	経過報告② ゼミ生2人程度	経過報告① ゼミ生2人程度	プレゼンテーション・ディスカッション			
第4回	先行研究などの資料収集にあたって、どんな方法で、どんな視点でみるべきか討論	先行研究文献リストを発表しあう。(先行研究探しを継続のこと)	プレゼンテーション・ディスカッション	第19回	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	追跡調査、追加で行うべき調査について討論	プレゼンテーション・ディスカッション			
第5回	先行研究の資料収集に関する情報交換	先行研究の資料収集に関する情報交換を行う	プレゼンテーション・ディスカッション	第20回	章立て構成の検討	章立て構成の検討を行う(次回まで追跡調査結果を発表できるようなレジュメを準備)	グループワーク			
第6回	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う①	研究分野が近い学生同士が班になり、助け合って図書館にて文献収集を行う。	Webを活用した他館蔵書検索含む	第21回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告	プレゼンテーション・ディスカッション			
第7回	共同での調査②	前回の続きを行う。(調査結果を次回までにレジュメにまとめて持参)	Webを活用した他館蔵書検索含む	第22回	追加で行った調査結果を含め状況報告	追加で行った調査結果を含め状況報告(次回までに論文執筆状況報告レジュメを用意)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第8回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。	プレゼンテーション・ディスカッション	第23回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換	プレゼンテーション・ディスカッション			
第9回	調べた結果についての報告、意見交換	調べた結果についての報告、意見交換。助言を踏まえて再調査。	プレゼンテーション・ディスカッション	第24回	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	再確認や再度の追跡調査の必要がないかデータの分析や解釈について討論	プレゼンテーション・ディスカッション			
第10回	仮説の設定と調査方法の検討①	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第25回	論文執筆状況報告、意見交換	論文執筆状況報告、意見交換(次回までに卒論の調査結果についてパワーポイント発表できるように下書きを作成して持参)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第11回	仮説の設定と調査方法の検討②	自分の調べたいテーマを本格的に決め、適した調査方法を考える。発表して質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第26回	パワーポイントによる最終発表の準備	発表スライドの下書きで予行練習。修正の指摘をもらう	プレゼンテーション・ディスカッション			
第12回	論文の書き方について復習	論文の書き方について復習する(次回までに研究計画書を作成し持参)	プレゼンテーション・ディスカッション	第27回	最終発表会①(質疑応答含む)	最終発表会①(質疑応答含む)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第13回	研究計画書を作成	研究計画書を発表、質疑応答。(次回までに助言を踏まえた計画書の修正版作成のこと)	プレゼンテーション・ディスカッション	第28回	最終発表会②(質疑応答含む)	最終発表会②(質疑応答含む)	プレゼンテーション・ディスカッション			
第14回	意見交換を踏まえ研究計画書を作成	最終的な研究計画書の提出、発表。質疑応答。	プレゼンテーション・ディスカッション	第29回	発表会での指摘を受けて加筆・修正	発表会での指摘を受けて加筆・修正	プレゼンテーション・ディスカッション			
第15回	前半の振り返り	前半の振り返りと、夏休み中の調査実施に関わる諸注意。		第30回	一年間の振り返り(成果の分かち合い)	一年間の振り返り(成果の分かち合い)、卒論提出。慰労会。				
評価方法及び評価基準	参加態度30%と卒業研究の成果物(論文等)70%の総合評価。(参加態度):研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうことで評価する。(研究成果物):主に論文については関心・意欲・問題解決の思考・判断・技能・表現方法の観点から評価を行う。									
課題等	卒業研究の成果物(論文等)ならびに、研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらう。									
事前事後学修	研究テーマの設定に向けて先行研究を調べ、じっくりと読んで吟味すること。研究計画や調査の進捗、調査結果等を毎回報告してもらうので、授業の中で指摘された不足している知識や新たな課題に取り組むこと。予習復習はそれぞれ2時間以上行うこと。									
教科書参考書	各自、専門領域を調査することになるので、ゼミ生共通のテキストは無し。適宜、各自のテーマに合った参考書を紹介									
留意点	論文の作成状況は、就職活動の影響も受けるし、調べた領域によっては先行研究が少なく文献探索に長期期間を要すること等も影響する。発表すべきときに発表レジュメが間に合わないということがないように計画的な行動を心掛けてもらいたい。発表日の欠席は厳に慎んでもらいたい。また、この科目は必修科目ではなく選択科目であり、「研究課題を設定し、信念をもって調べ、納得のいく卒論を完成させる」という目標に取り組める意欲のある方に履修して頂きた									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)		科目コード	W44501		単位数	6単位		対象 学年	4年	開講 学期	通年
			科目ナンバリング	W-PWSF3-10.		時間	90時間					
区分	社会福祉専門教育科目	選択	担当者名	小川 幸裕					授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉に関する諸問題について、自らが興味関心を持ったテーマを選び、これまで修得してきた知識や技能を統合して研究を行い、卒業論文またはレポートをまとめることを目指す。卒業論文やレポートの作成に伴う、「研究テーマの設定」「先行研究のレビュー」「研究の背景・目的」「研究方法」「考察」などに関するレジュメの作成および報告を行う。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2及び4に関連している。</p>											
到達 目標	1) 研究テーマを設定することができる。 2) 先行研究のレビューを行うことができる。 3) 研究の背景および目的を記載することができる。 4) 研究方法を記載できる。 5) 考察を記載できる。											
授 業 計 画												
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修		備考			
第1回	オリエンテーション	1) 演習の進め方 2) 評価方法および基準			第16回	考察の検討(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第2回	研究テーマの設定 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第17回	考察の検討(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第3回	研究テーマの設定 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第18回	考察の検討(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第4回	研究テーマの設定 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第19回	考察の検討(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第5回	先行研究のレビュー (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第20回	報告・議論(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第6回	先行研究のレビュー (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第21回	報告・議論(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第7回	先行研究のレビュー (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第22回	報告・議論(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第8回	先行研究のレビュー (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第23回	報告・議論(4)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第9回	研究の背景・目的の 検討(1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第24回	報告・議論(5)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第10回	研究の背景・目的の 検討(2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第25回	報告・議論(6)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第11回	研究の背景・目的の 検討(3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第26回	報告・議論(7)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第12回	研究方法の検討 (1)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第27回	報告・議論(8)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第13回	研究方法の検討 (2)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第28回	報告・議論(9)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第14回	研究方法の検討 (3)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第29回	報告・議論(10)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション			
第15回	研究方法の検討 (4)	1) レジメの報告 2) 全体討論		ディス カッ ション	第30回	まとめ	1) 卒論発表 2) 総括		ディス カッ ション			
評価 方法及び 評価 基準	1) 卒業論文・レポート70%、レジュメ作成および報告30% 2) 卒業論文・レポートの執筆にあたって、先行研究のレビュー、研究の背景・目的、研究方法、考察などの執筆過程についても評価する。 3) 卒業論文・レポートは、着眼点、構成と文章力、その内容の論理性、妥当性、客観性、オリジナリティ、先行研究などの収集とまとめ、その到達レベルについてルーブリックを用いて評価する。											
課題等	フィードバックとして報告内容やレジュメについてコメントを返します											
事前事 後学修	演習時にて次回の予告を行うので関連するサイトや文献を事前に学習すること。また演習中に案内するサイトや文献による事後学習を行うこと。 準備学習時間の目安：1日あたり30分以上。											
教材 教科書 参考書	学生の研究内容に応じ、必要な資料や文献を指示する。											
留意点	卒業論文およびレポートの作成に意欲的に取り組むことを期待します。ゼミとしてソーシャルワークに関する活動の見学やボランティア、関連イベントや研修会に参加する場合もある。											

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44603	単位数 時間	6単位 90時間	対象 学年	4年	開講 学期	通年
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.						
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	藤岡 真之			授業 形態	演習	単独	
授業の 概要	<p>〔授業の主旨〕 この演習では、大学で4年間学んできたことの証しとして卒業論文を執筆します。論文の執筆はたやすくありませんが、完成させた時には大きな達成感と共に、これまで見たことのない景色を見ることができると期待されています。論文のテーマについては各自の関心を重んじます。 〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕 カリキュラムポリシーの3、ディプロマポリシーの2、3に関連している。</p>								
到達 目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの力で問いを立てられる。 ・問いに対応した適切な方法を考えられる。 ・データの解釈や理論的検討を元に、妥当な結論を導くことができる。 								
授業計画									
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考		
第1回	ガイダンス	演習の進め方について		第16回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第2回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第17回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第3回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第18回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第4回	論文の書き方	アカデミックな論文の書き方について学ぶ		第19回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第5回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第20回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第6回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第21回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第7回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第22回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第8回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第23回	中間報告	途中経過を報告する			
第9回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第24回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第10回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第25回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第11回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第26回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第12回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第27回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第13回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第28回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第14回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第29回	論文の執筆・推敲	論文を執筆する			
第15回	論文テーマ、先行研究、方法の検討	論文のテーマ、先行研究、方法を検討する	プレゼンテーション	第30回	論文の発表	完成した論文を発表する			
評価 方法 及び 評価 基準	授業への参加度、途中の報告、卒業論文を総合的に評価します								
課題等	課題の検討は授業時間内に行います								
事前事後学修	文献読解、調査の準備・実施等を継続的に行ってください。準備学習時間の目安：1日当たり1時間程度。								
教材 教科書 参考書	適宜、指示します								
留意点									

科目名	専門演習Ⅱ(卒業研究を含む)	科目コード	W44602	単位数	6単位	対象学年	4年	開講学期	通年	
		科目ナンバリング	W-PWSF3-10.	時間	90時間					
区分	社会福祉専門教育科目 選択	担当者名	柘植 秀通				授業形態	演習	単独	
授業の概要	<p>〔授業の主旨〕 社会福祉の基本には、人とは何であるか、人間の存在価値とはなにか、幸福とは何か、といった哲学的に深い問題がある。こうした哲学的問題を、それぞれの発表や討論等を通して、学ぶ。また、特に後期は、国家試験を受験する場合には、国試の勉強に特化して行うことも考えている。</p> <p>〔ディプロマポリシー及びカリキュラムポリシーとの関連する事項〕</p> <p>ディプロマポリシーの1に関連し、カリキュラムポリシーの2と関連する。</p>									
到達目標	人間の尊厳とはなにか、なぜ人間は尊いといえるのか、といった問題に自分なりの答えを出せるようになること。また、国試を受ける者は、国家試験に合格できるようにすること。									
授 業 計 画										
回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考	回	主 題	授業内容・授業時間外の学修	備考			
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要説明		第16回	人工妊娠中絶について1	妊娠中絶がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	グループワーク			
第2回	福祉と哲学1	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表	グループワーク	第17回	人工妊娠中絶について2	妊娠中絶がどこまで許されるべきか、また許されざるべきかを考察、意見交換	グループワーク			
第3回	福祉と哲学2	哲学とは何であり、福祉とどのような関係にあるかについての考察発表	グループワーク	第18回	安楽死について1	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	グループワーク			
第4回	人間の尊厳1	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第19回	安楽死について1	安楽死が許されるケースについて、また許されない理由について考察、意見交換	グループワーク			
第5回	人間の尊厳2	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第20回	性同一性障害について1	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	グループワーク			
第6回	人間の尊厳3	人間の尊厳について考察、発表を行う。	グループワーク	第21回	性同一性障害について1	性同一性障害の原因と、倫理的な意味について考察する。	グループワーク			
第7回	自由について1	自由の意味について考える	グループワーク	第22回	サイボーグ技術と人間のあり方1	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	グループワーク			
第8回	自由について2	自由の意味について考える	グループワーク	第23回	サイボーグ技術と人間のあり方1	進展しているサイボーグ技術について、特に障害や内部障がいとの関わりから考える。	グループワーク			
第9回	自己決定について1	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。	グループワーク	第24回	難民と戦争1	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	グループワーク			
第10回	自己決定について2	本来の意味の自己決定とは何であるかを考察する。	グループワーク	第25回	難民と戦争1	難民の問題と、日本の進むべき方向について考察する。	グループワーク			
第11回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理について、概説と意見交換	グループワーク	第26回	世界の貧困問題1	貧困とは何か。その問題点について考察する。	グループワーク			
第12回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う	グループワーク	第27回	世界の貧困問題1	貧困とは何か。その問題点について考察する。	グループワーク			
第13回	キリスト教倫理について1	キリスト教倫理とは何かについて討論を行う	グループワーク	第28回	人間の存在価値について1	一人一人の価値について考える。	グループワーク			
第14回	生命について1	生命とは何かについて考察、討論	グループワーク	第29回	人間の存在価値について1	一人一人の価値について考える。	グループワーク			
第15回	生命について1	生命とは何かについて考察、討論	グループワーク	第30回	福祉の意味について	福祉の根本的意味について考察する。	グループワーク			
評価方法及び評価基準	それぞれのテーマで、発表を行いながら、卒業論文にまでつなげていき、論文内容で80%。それに加えて、授業内での参加度20%。 論文内容とは、その論旨の展開、研究方法の正当性、資料の使用法等に関し評価を行う。									
課題等	論文について修正すべきポイント、なすべき課題を随時提供する。									
事前事後学修	論文についての課題、修正すべき箇所等を改善しつつ、次回へとつなげていく。									
教材教科書参考書	特になし									
留意点	論文のみでなく、国家試験の勉強も同時に行っていく。									